

salesforce

Force.com REST API 開発者ガイド

バージョン 38.0, Winter '17



本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2016 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

第 1 章: Force.com REST API の概要	1
REST リソース	2
圧縮の使用	11
条件付き要求の使用	12
REST での cURL の使用例	13
認証について	14
接続アプリケーションの定義	14
OAuth エンドポイントについて	15
Web サーバ OAuth 認証フローについて	15
ユーザエージェント OAuth 認証フローについて	22
ユーザ名パスワード OAuth 認証フローについて	25
OAuth 更新トークンプロセスについて	28
その他のリソースを見つける	30
CORS を使用した、サポートされた Salesforce API、Apex REST、および Lightning Out へのアクセス	30
第 2 章: クイックスタート	32
前提条件	33
ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する	33
ステップ 2: 認証を設定する	33
ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する	36
ステップ 4: サンプルコードを実行する	38
ワークベンチの使用	44
第 3 章: 例	45
組織に関する情報の取得	46
使用可能な REST API バージョンをリストする	46
使用可能な REST リソースをリストする	47
オブジェクトのリストを取得する	48
メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する	49
オブジェクトメタデータの使用	49
オブジェクトのメタデータを取得する	50
オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する	51
オブジェクトのメタデータの変更の取得	52
レコードの操作	53
レコードを作成する	54
レコードを更新する	54
レコードを削除する	56
標準オブジェクトレコードから項目値を取得する	56

Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する	57
外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する	57
外部 ID を使用してレコードを取得する	58
外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する	58
フレンドリー URL を使用したリレーションのトラバース	62
レコードから添付ファイルコンテンツを取得する	67
Blob データを挿入または更新する	68
特定の期間に削除されたレコードのリストの取得	72
特定の期間に更新されたレコードのリストの取得	72
検索とクエリの使用	73
SOQL クエリを実行する	74
削除された項目を含む SOQL クエリを実行する	75
クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する	76
文字列を検索する	78
デフォルトの検索範囲と検索順序の取得	81
オブジェクトの検索結果レイアウトの取得	82
関連項目の表示	84
最近参照した情報の操作	86
最近参照したレコードの表示	86
最近参照したデータとしてレコードをマーク	87
ユーザパスワードの管理	88
ユーザパスワードを管理する	88
承認プロセスとプロセスルールの操作	90
すべての承認プロセスのリストを取得する	90
承認を受けるレコードを送信する	91
レコードを承認する	92
レコードを却下する	92
一括承認	93
プロセスルールのリストを取得する	94
特定のプロセスルールを取得する	95
プロセスルールをトリガする	95
イベント監視の使用	96
REST を使用してイベント監視を記述する	98
REST を使用してイベント監視データをクエリする	98
レコードからイベント監視コンテンツを取得する	99
cURL を REST で使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする	100
複合リソースの使用	100
1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する	101
ネストされたレコードを作成する	102
複数のレコードを作成する	104
第 4 章: リファレンス	106
Versions	112
Resources by Version	113

目次

Describe Global	113
sObject Basic Information	114
sObject Describe	114
sObject Get Deleted	115
sObject Get Updated	116
SObject Named Layouts	117
sObject Rows	118
sObject Rows by External ID	119
sObject Blob Retrieve	120
sObject ApprovalLayouts	120
sObject CompactLayouts	122
Describe Layouts	127
SObject PlatformAction	129
sObject Quick Actions	130
SObject Relationships	131
SObject Suggested Articles	133
sObject User Password	135
AppMenu	136
Compact Layouts	140
FlexiPage	142
Invocable Actions	145
Standard Invocable Actions	147
Custom Invocable Actions	149
List View Describe	151
List View Results	154
List Views	164
REST API を使用したナレッジサポート	166
Data Category Groups	167
Data Category Detail	170
Articles List	171
Articles Details	175
パラメータ化された検索	180
Process Approvals	189
Process Rules	191
Query	192
QueryAll	194
Quick Actions	195
Recent List Views	196
Recently Viewed Items	197
Relevant Items	198
ナレッジ言語設定の取得	200
Search	201
Search Scope and Order	202
Search Result Layouts	202

目次

Search Suggested Records	202
Search Suggested Article Title Matches	207
Search Suggested Queries	210
Tabs	213
Themes	214
複合リソース	217
Batch	217
SObject Tree	222
ヘッダー	228
割り当てルールヘッダー	229
Call Options ヘッダー	229
Limit Info ヘッダー	230
Package Version ヘッダー	231
Query Options ヘッダー	232
状況コードとエラー応答	232

第1章

Force.com REST API の概要

トピック:

- REST リソース
- 圧縮の使用
- 条件付き要求の使用
- REST での cURL の使用例
- 認証について
- CORS を使用した、サポートされた Salesforce API、Apex REST、および Lightning Out へのアクセス

REST API では、Force.com を操作するための強力な使いやすい Web サービス API を提供します。統合および開発が容易という利点があり、モバイルアプリケーションおよび Web 2.0 プロジェクトで使用するための技術では最適な選択です。ただし、処理するレコード件数が多い場合、REST 規則に基づいており、大規模データセットの処理用に最適化されている Bulk API を使用することを検討してください。

REST API は、SOAP API と同様の基盤データモデルと標準オブジェクトを使用します。詳細は、『SOAP API 開発者ガイド』を参照してください。REST API も SOAP API と同じ制限に従います。『SOAP API 開発者ガイド』の「実装に関する考慮事項」セクションを参照してください。

API を使用するには、ソフトウェア開発、Web サービス、および Salesforce ユーザーインターフェースについての基本的な知識が必要です。

このセクションでは、次の内容を理解できます。

- REST API の主要な特性とアーキテクチャ。これにより、アプリケーションにおける Force.com REST リソースの最適な使用方法を理解できます。
- 開発環境の設定方法。設定すると、直ちに REST API を使用できるようになります。
- REST API の使用方法。クイックスタートに従って、ステップごとに一般的な使用事例を学びます。

REST リソース

REST リソースを使用すると、Tooling API オブジェクトにアクセスできます。REST リソースを使用して Tooling API オブジェクトをクエリするには、「すべてのデータの参照」ユーザ権限が必要です。

使用方法、構文、および認証についての詳細は、『*Force.com REST API 開発者ガイド*』を参照してください。

たとえば、「REST Resource Examples」を参照します。

Tooling API でサポートされている REST リソース

各 Tooling API REST リソースのベース URI は、`http://domain/services/data/vXX.X/tooling/` です。domain は Salesforce インスタンスまたはカスタムドメイン、vXX.X は API バージョン番号です。例:

`https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v35.0/tooling/`

Force.com REST API と同様に、Tooling API は次のリソースを使用します。

`/completions?type=`

サポートされるメソッド: GET

参照される Apex システムメソッドシンボルの型 (`type=apex`) で使用可能なコード補完を取得します。API バージョン 28.0 以降で使用できます。

参照される Visualforce マークアップの型 (`type=visualforce`) で使用可能なコード補完を取得します。API バージョン 38.0 以降で使用できます。

`/executeAnonymous/?anonymousBody= <url encoded body>`

サポートされるメソッド: GET

Apex コードを匿名で実行します。API バージョン 29.0 以降で使用できます。

`/query/?q=SOQL_Query_Statement`

サポートされるメソッド: GET

オブジェクトに対してクエリを実行し、指定の条件に一致したデータを返します。Tooling API は、外部オブジェクトフレームワークを使用する (データベースには存在せず動的に作成される)、EntityDefinition や FieldDefinition などのオブジェクトを公開します。仮想エンティティには特殊なクエリルールが適用されません。

クエリ結果が大きすぎる場合は、バッチに分割されます。応答には、結果の最初のバッチとクエリ識別子が含まれます。識別子は、要求で次のバッチを取得するために使用できます。

`/runTestsAsynchronous/` と `/runTestsSynchronous/`

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
<code>/runTestsAsynchronous/</code> : GET	<pre><code>/runTestsAsynchronous/?classids= <comma separated list of class IDs></code></pre> <p>指定されたクラスでテストを実行します。テストを非同期で実行することで</p>	サポートされていません。

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
	メソッドを並列処理し、テストの実行時間を削減します。	
/runTestsAsynchronous/: カンマ区切りのリストを使用した POST	<pre data-bbox="532 388 971 619">/runTestsAsynchronous/ Body: {"classids": "<comma-separated list of class IDs>", "suiteids": "<comma-separated list of test suite IDs>", "maxFailedTests": "<integer value>"}</pre> <ul data-bbox="532 640 974 1827" style="list-style-type: none"> • 非同期テスト実行メカニズムを使用して、1つ以上の Apex クラス内の1つ以上のメソッドを実行します。 • suiteids リストと classids リストの両方を runTestsAsynchronous に POST できます。ただし、tests 配列を送信する場合、suiteids と classids は送信できません。 • 省略可能な maxFailedTests パラメータも POST できます。すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、maxFailedTests を省略するか、-1 に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、maxFailedTests を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。maxFailedTests 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります 	<p data-bbox="1003 420 1291 451">API バージョン 38.0 以降</p> <pre data-bbox="1019 472 1437 1018">/runTestsAsynchronous/ Body: {"classNames": "<comma-separated list of class names>", "classids": "<comma-separated list of class IDs>", "suiteNames": "<comma-separated list of test suite names>", "suiteids": "<comma-separated list of test suite IDs>", "maxFailedTests": "<integer value>", "testLevel": "<TestLevel enum value>"}</pre> <ul data-bbox="1003 1039 1437 1837" style="list-style-type: none"> • 非同期テスト実行メカニズムを使用して、1つ以上の Apex クラス内の1つ以上のメソッドを実行します。 • RunLocalTests または RunAllTestsInOrg の testLevel 値を入力する場合、クラスやスイートを指定しません。testLevel 値を指定しない場合、または testLevel を RunSpecifiedTests に設定する場合は、次のようになります。 <ul data-bbox="1039 1522 1437 1753" style="list-style-type: none"> - classNames、classids、suiteNames、および suiteids の任意の組み合わせを送信できます。 - これら4つのパラメータのうち少なくとも1つが必要です。 • 省略可能な maxFailedTests パラメータも POST できます。すべ

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
	(テストの実行にかかる時間は含まれません)。	<p>でのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、<code>maxFailedTests</code> を省略するか、<code>-1</code> に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、<code>maxFailedTests</code> を <code>0</code> ~ <code>1,000,000</code> の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を <code>0</code> に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を <code>1</code> に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。<code>maxFailedTests</code> 値に追加したテストの回数が <code>1,000</code> 増えるごとに、テスト実行が約 <code>3</code> 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>testLevel</code> パラメータは省略可能です。<code>testLevel</code> 値を指定しない場合は、<code>RunSpecifiedTests</code> が使用されます。 <p>使用できる値は次のとおりです。</p> <p>RunSpecifiedTests 指定したテストのみが実行されます。</p> <p>RunLocalTests インストール済みの管理パッケージから発生したテストを除き、組織のすべてのテストが実行されます。</p> <p>この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p>

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
		<p>RunAllTestsInOrg すべてのテストが実行されます。テストには、管理パッケージのテストを含む、組織内のすべてのテストが含まれます。 この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p> <p>API バージョン 37.0</p> <pre data-bbox="1013 709 1435 1066">/runTestsAsynchronous/ Body: {"classids": "<comma-separated list of class IDs>", "suiteids": "<comma-separated list of test suite IDs>", "maxFailedTests": "<integer value>", "testLevel": "<TestLevel enum value>"}</pre> <ul data-bbox="1013 1087 1435 1864" style="list-style-type: none"> • 非同期テスト実行メカニズムを使用して、1つ以上の Apex クラス内の1つ以上のメソッドを実行します。 • suiteids リストと classids リストの両方を runTestsAsynchronous に POST できます。ただし、tests 配列を送信する場合、suiteids と classids は送信できません。 • 省略可能な maxFailedTests パラメータも POST できます。すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、maxFailedTests を省略するか、-1 に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、maxFailedTests を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定しま

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
		<p>す。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1 回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2 回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。maxFailedTests 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。</p> <ul style="list-style-type: none"> testLevel パラメータは省略可能です。testLevel 値を指定しない場合は、RunSpecifiedTests が使用されます。 <p>使用できる値は次のとおりです。</p> <p>RunSpecifiedTests 指定したテストのみが実行されます。</p> <p>RunLocalTests インストール済みの管理パッケージから発生したテストを除き、組織のすべてのテストが実行されます。</p> <p>この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p> <p>RunAllTestsInOrg すべてのテストが実行されます。テストには、管理パッケージのテストを含む、組織内のすべてのテストが含まれます。</p> <p>この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p>

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
<p data-bbox="212 262 506 325">/runTestsAsynchronous/: JSON を使用した POST</p>	<div data-bbox="526 275 971 352" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <pre data-bbox="526 275 971 352">/runTestsAsynchronous/ Body: {"tests":<tests array>}</pre> </div> <p data-bbox="526 373 792 403"><tests array> の例:</p> <div data-bbox="526 422 971 1018" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <pre data-bbox="526 422 971 1018">[{ "classId": "01pD0000000Fhy9IAC", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "classId": "01pD0000000FhyEIAS", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "maxFailedTests": "2" }]</pre> </div> <ul data-bbox="526 1039 979 1858" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="526 1039 979 1144">• 非同期テスト実行メカニズムを使用して、1つ以上の Apex クラス内の 1 つ以上のメソッドを実行します。 <li data-bbox="526 1165 979 1417">• <tests array> は Apex テストクラスを表すオブジェクトの配列で、各オブジェクトには classId パラメータ、testMethods パラメータ、および省略可能な maxFailedTests パラメータがあります。 <li data-bbox="526 1438 979 1690">• testMethods 配列で重複するテストメソッド名は無視されます。存在しないテストメソッドはスキップされます。testMethods 配列が null または欠落している場合、テストクラス内のすべてのテストメソッドが実行されます。 <li data-bbox="526 1711 979 1858">• すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、maxFailedTests を省略するか、-1 に設定します。指定し 	<div data-bbox="997 275 1442 352" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <pre data-bbox="997 275 1442 352">/runTestsAsynchronous/ Body: {"tests":<tests array>}</pre> </div> <p data-bbox="997 373 1263 403"><tests array> の例:</p> <div data-bbox="997 422 1442 1102" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <pre data-bbox="997 422 1442 1102">[{ "classId": "01pD0000000Fhy9IAC", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "classId": "01pD0000000FhyEIAS", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "maxFailedTests": "2" }, { "testLevel": "RunSpecifiedTests" }]</pre> </div> <ul data-bbox="997 1123 1450 1816" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="997 1123 1450 1228">• 非同期テスト実行メカニズムを使用して、1つ以上の Apex クラス内の 1 つ以上のメソッドを実行します。 <li data-bbox="997 1249 1450 1543">• <tests array> は Apex テストクラスを表すオブジェクトの配列で、各オブジェクトには classId パラメータと testMethods パラメータがあります。tests 配列には、省略可能な maxFailedTests パラメータと必須の testLevel パラメータも含まれます。 <li data-bbox="997 1564 1450 1816">• testMethods 配列で重複するテストメソッド名は無視されます。存在しないテストメソッドはスキップされます。testMethods 配列が null または欠落している場合、テストクラス内のすべてのテストメソッドが実行されます。

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
	<p>た数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、<code>maxFailedTests</code> を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。</p> <p><code>maxFailedTests</code> 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、<code>maxFailedTests</code> を省略するか、-1 に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、<code>maxFailedTests</code> を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があることに注意してください。 <p><code>maxFailedTests</code> 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>testLevel</code> パラメータは省略可能です。<code>testLevel</code> 値を指定しない場合は、<code>RunSpecifiedTests</code> が使用されます。 <p>使用できる値は次のとおりです。</p> <p>RunSpecifiedTests 指定したテストのみが実行されます。</p> <p>RunLocalTests インストール済みの管理パッケージから発生したテストを除き、組織のすべてのテストが実行されます。</p> <p>この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p> <p>RunAllTestsInOrg すべてのテストが実行されます。テストには、管理パッケージ</p>

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
		<p>ジのテストを含む、組織内のすべてのテストが含まれます。</p> <p>この値を使用する場合は、特定のテストの識別子を省略します。</p>
<p>/runTestsSynchronous/ GET</p>	<pre data-bbox="532 520 971 625">/runTestsSynchronous/?classnames= <comma-separated list of class names></pre> <p data-bbox="532 646 971 751">同期テスト実行メカニズムを使用して、指定されたクラスでテストを実行します。</p>	<p>サポートされていません。</p>
<p>/runTestsSynchronous/ POST</p>	<pre data-bbox="532 804 971 867">/runTestsSynchronous/ Body: {"tests":<tests array>}</pre> <p data-bbox="532 898 971 930"><tests array> の例:</p> <pre data-bbox="532 951 971 1287">[{ "classId": "01pD0000000Fhy9IAC", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "maxFailedTests": "2" }]</pre> <ul data-bbox="532 1318 971 1896" style="list-style-type: none"> 同期テスト実行メカニズムを使用して、Apex クラス内の1つ以上のメソッドを実行します。同期テスト実行でのすべてのテストメソッドは、同じクラス内にある必要があります。 <tests array> は1つの Apex テストクラスを表すオブジェクトの配列で、オブジェクトには classId パラメータ、testMethods パラメータ、および省略可能な maxFailedTests パラメータがあります。 testMethods 配列で重複するテストメソッド名は無視されます。存在 	<pre data-bbox="1003 804 1442 867">/runTestsSynchronous/ Body: {"tests":<tests array>}</pre> <p data-bbox="1003 898 1442 930"><tests array> の例:</p> <pre data-bbox="1003 951 1442 1287">[{ "classId": "01pD0000000Fhy9IAC", "testMethods": ["testMethod1", "testMethod2", "testMethod3"] }, { "maxFailedTests": "2" }]</pre> <ul data-bbox="1003 1318 1442 1896" style="list-style-type: none"> 同期テスト実行メカニズムを使用して、Apex クラス内の1つ以上のメソッドを実行します。同期テスト実行でのすべてのテストメソッドは、同じクラス内にある必要があります。 <tests array> は1つの Apex テストクラスを表すオブジェクトの配列で、オブジェクトには classId パラメータ、testMethods パラメータ、および省略可能な maxFailedTests パラメータがあります。 testMethods 配列で重複するテストメソッド名は無視されます。存在

リソース	API バージョン 36.0 以前	API バージョン 37.0 以降
	<p>しないテストメソッドはスキップされます。testMethods 配列が null または欠落している場合、テストクラス内のすべてのテストメソッドが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、maxFailedTests を省略するか、-1 に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、maxFailedTests を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。maxFailedTests 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。 	<p>しないテストメソッドはスキップされます。testMethods 配列が null または欠落している場合、テストクラス内のすべてのテストメソッドが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのテストを実行できるようにするには、失敗するテストの数に関係なく、maxFailedTests を省略するか、-1 に設定します。指定した数のテストに失敗した後に新しいテストの実行を停止するには、maxFailedTests を 0 ~ 1,000,000 の整数値に設定します。この整数値で、許容されるテスト失敗の最大数を設定します。値を 0 に設定すると、1回の失敗でテスト実行が停止されます。値を 1 に設定すると、2回目の失敗でテスト実行が停止されます。以降も同様に処理されます。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。大きい値にすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。maxFailedTests 値に追加したテストの回数が 1,000 増えるごとに、テスト実行が約 3 秒長くなります (テストの実行にかかる時間は含まれません)。

/search/?q=SOSL_Search_Statement

サポートされるメソッド: GET

指定された値を含むレコードを検索します。

/subjects/

サポートされるメソッド: GET

使用可能な Tooling API のオブジェクトとそのメタデータをリストします。

/subjects/SObjectName/

サポートされるメソッド: GET、POST

指定されたオブジェクトの個別のメタデータを説明するか、指定されたオブジェクトのレコードを作成します。

- ApexExecutionOverlayAction オブジェクトのメタデータを取得するには、GET メソッドを使用します。
- ApexExecutionOverlayAction オブジェクトを作成するには、POST メソッドを使用します。

`/subjects/SObjectName/describe/`

サポートされるメソッド: GET

指定されたオブジェクトのすべてのレベルで、個別のメタデータを完全に説明します。

たとえば、Tooling API オブジェクトの項目、URL、および子リレーションを取得するためにこのリソースを使用します。

`/subjects/SObjectName/id/`

サポートされるメソッド: GET、PATCH、DELETE

指定されたオブジェクト ID に基づいてレコードにアクセスします。

レコードまたは項目を取得するには GET メソッド、レコードを削除するには DELETE メソッド、レコードを更新するには PATCH メソッドを使用します。


`/subjects/ApexLog/id/Body/`

サポートされるメソッド: GET

ID によって未加工のデバッグログを取得します。API バージョン 28.0 以降で使用できます。

圧縮の使用

REST API は、HTTP 1.1 の仕様で定義された標準を使用した要求と応答の圧縮をサポートしています。圧縮は、いくつかのクライアントでは自動的にサポートされており、他のクライアントにも手動で追加できます。クライアント別の詳細は、「Salesforce 開発者」を参照してください。

 **ヒント:** パフォーマンス向上のため、HTTP 1.1 の仕様に従ったクライアント側での圧縮のサポートをお勧めします。

圧縮を使用するには、要求に HTTP ヘッダー `Accept-Encoding: gzip` または `Accept-Encoding: deflate` を含めます。クライアントでこのヘッダーが正しく指定されている場合、REST API は応答を圧縮します。応答には、ヘッダー `Content-Encoding: gzip` または `Content-Encoding: deflate` が含まれます。また、`Content-Encoding: gzip` または `Content-Encoding: deflate` ヘッダーを含めることによって要求を圧縮することもできます。

応答の圧縮

REST API は、必要に応じて応答を圧縮することができます。応答は、クライアントが `Accept-Encoding` ヘッダーを送信する場合にのみ圧縮されます。REST API で応答を圧縮する必要がない場合も `Accept-Encoding` を指定しておけば、指示どおり圧縮を実行します。REST API が応答を圧縮する場合、`Content-Encoding` ヘッダーも指定します。

要求の圧縮

クライアントは要求を圧縮することもできます。REST API は、処理前にすべての要求を展開します。クライアントは、要求に適切な圧縮アルゴリズムの名前を記した `Content-Encoding` HTTP ヘッダーを送信する必要があります。詳細は、以下を参照してください。

- `Content-Encoding` については、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.11

- Accept-Encoding については、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.3
- コンテンツのコーディングについては、www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec3.html#sec3.5

条件付き要求の使用

応答のキャッシュをサポートするため、REST API では、HTTP 1.1 の仕様で定義された標準に準拠する条件付き要求ヘッダーを使用できます。

厳しい入力規則では、要求に `If-Match` または `If-None-Match` ヘッダーを含め、照合するレコードのエンティティタグ (ETag) を参照します。緩い入力規則では、要求に `If-Modified-Since` または `If-Unmodified-Since` ヘッダー、およびチェックする日時を含めます。REST API の条件付きヘッダーは HTTP 1.1 の仕様に準拠しますが、次の例外があります。

- PATCH、POST、または DELETE 要求の `If-Match`、`If-None-Match`、または `If-Unmodified-Since` に無効なヘッダー値を含めた場合、400 Bad Request 状況コードが返されます。
- `If-Range` ヘッダーはサポートされていません。

ETag

HTTP 1.1 の仕様:www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.19

ETag ヘッダーは、SObject Rows リソースにアクセスするときに返される応答ヘッダーです。後続の要求の `If-Match` および `If-None-Match` 要求ヘッダーがコンテンツに変更があるかどうかを判断するために使用するコンテンツのハッシュです。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: ETag: "U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-Match

HTTP 1.1 の仕様:www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.24

`If-Match` ヘッダーは、ETag のリストを含む SObject Rows の要求ヘッダーです。要求しているレコードの ETag がヘッダーに指定した ETag と一致する場合は、要求が処理されます。いずれの ETag ととも一致しない場合は、412 Precondition Failed 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: If-Match: "Jbjuzw7dbhaEG3fd90kJbx6A0ow=-gzip", "U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-None-Match

HTTP 1.1 の仕様:www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.26

`If-None-Match` ヘッダーは、`If-Match` の逆数である SObject Rows の要求ヘッダーです。要求しているレコードの ETag がヘッダーに指定した ETag と一致する場合は、要求が処理されません。GET または HEAD 要求では 304 Not Modified 状況コードが返され、PATCH 要求では 412 Precondition Failed 状況コードが返されます。

サポートされているリソース: SObject Rows (取引先レコードのみ)

例: If-None-Match: "Jbjuzw7dbhaEG3fd90kJbx6A0ow=-gzip",
"U5iWijwWbQD18jeiXwsqxeGpZQk=-gzip"

If-Modified-Since

HTTP 1.1 の仕様:www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.25

If-Modified-Since ヘッダーは、時間ベースの要求ヘッダーです。要求は、ヘッダーで指定した日時以降にデータが変更された場合のみ処理されます。いずれのETagとも一致しない場合は、304 Not Modified 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows、SObject Describe、Describe Global、および Invocable Actions

例: If-Modified-Since: Tue, 10 Aug 2015 00:00:00 GMT

If-Unmodified-Since

HTTP 1.1 の仕様: www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.28


If-Unmodified-Since ヘッダーは、If-Modified-Since の逆数である要求ヘッダーです。要求を実行し、If-Unmodified-Since ヘッダーを含める場合は、指定した日付以降にデータが変更されていない場合にのみ要求が処理されます。いずれのETagとも一致しない場合は、412 Precondition Failed 状況コードが返され、要求は処理されません。

サポートされているリソース: SObject Rows、SObject Describe、Describe Global、および Invocable Actions

例: If-Unmodified-Since: Tue, 10 Aug 2015 00:00:00 GMT

REST での cURL の使用例

このガイドの例では、Force.com プラットフォームの REST リソースへのアクセス、作成、および操作を行うために、HTTP 要求を送信する cURL ツールを使用します。cURL は、多くの Linux システムや Mac システムにあらかじめインストールされています。Windows バージョンは、curl.haxx.se/ からダウンロードできます。Windows で HTTPS を使用する場合、システムが SSL の cURL 要件を満たしていることを確認してください。

 **メモ:** cURL はオープンソースのツールで、Salesforce ではサポートされていません。

Mac および Linux システムでのセッション ID のエスケープまたは一重引用符の使用

REST リソースで cURL の例を実行するとき、セッション ID 引数の感嘆符の特殊文字によって、Mac および Linux システムでエラーが発生する場合があります。このエラーの発生を回避するには、次のいずれかを実行します。

- セッション ID が二重引用符で囲まれている場合、セッション ID の感嘆符 (!) 特殊文字の前にバックスラッシュを挿入して (\!) エスケープします。たとえば、この cURL コマンドのセッション ID 文字列では、感嘆符 (!) がエスケープされています。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v38.0/
-H "Authorization: Bearer
00D50000000IehZ\!AQcAQH0dMHZfz972SzmPKb58urFRkgeBGsXL_QJWwYMfAbUeeG7c1E6
LYUfiDUkWe6H34r1AAwOR8B8fLEz6n04NPGRrq0FM"
```

- セッション ID を一重引用符で囲みます。次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v38.0/
-H 'Authorization: Bearer sessionID'
```

認証について

Salesforce では、OAuth プロトコルを使用して、アプリケーションユーザがユーザ名やパスワードのログイン情報を明らかにすることなくセキュアにデータにアクセスできるようにします。

REST API コールを行う前に、OAuth 2.0 を使用してアプリケーションユーザを認証する必要があります。そのためには、次の手順を実行する必要があります。

- Salesforce 組織内にアプリケーションを接続アプリケーションとして設定します。
- 接続アプリケーションが使用できるように正しい Salesforce OAuth エンドポイントを決定します。
- 複数の異なる OAuth 2.0 認証フローのいずれかを介して接続アプリケーションユーザを認証します。OAuth 認証フローには、アプリケーションと Salesforce の間の認証プロセスを調整するために使用する一連の手順が定義されています。次のような OAuth フローがサポートされます。
 - Web サーバフロー。サーバがセキュアにコンシューマの秘密を保護できます。
 - ユーザエージェントフロー。コンシューマの秘密をセキュアに保存できないアプリケーションによって使用されます。
 - ユーザ名パスワードフロー。アプリケーションがユーザログイン情報に直接アクセスします。

接続アプリケーションユーザが Salesforce で正常に認証されるとアクセストークンが送られてきます。このアクセストークンを使用して、認証された REST API コールを実行できます。

接続アプリケーションの定義

OAuth を使用して認証を行う場合、Salesforce 組織に対するアプリケーションの OAuth 設定を定義する接続アプリケーションを作成する必要があります。

Salesforce での認証が必要な外部アプリケーションを開発する場合、Salesforce にこの新規認証エントリポイントの情報を伝える Salesforce 内の新規接続アプリケーションとして定義する必要があります。

新規接続アプリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. [設定]から、[クイック検索]ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション]を選択して[新規]をクリックし、接続アプリケーションの定義を開始します。
2. アプリケーションの名前を入力します。
3. 取引先責任者のメール情報と、アプリケーションに応じたその他の情報を入力します。
4. [OAuth 設定の有効化]を選択します。
5. [コールバック URL]を入力します。使用する OAuth フローに応じて、これは通常、認証が成功した後にユーザのブラウザがリダイレクトされる URL になります。この URL は一部の OAuth フローでアクセストークンを渡すために使用されるため、URL はセキュア HTTP (HTTPS) またはカスタム URI スキームを使用する必要があります。
6. サポートされているすべての OAuth 範囲を [選択した OAuth 範囲] に追加します。これらの範囲とは、接続アプリケーションを実行するユーザによって付与される権限を示します。
7. [情報 URL] の URL を入力します。ユーザがこの URL にアクセスすると、アプリケーションの詳細を参照できます。

8. [保存] をクリックします。[コンシューマ鍵] が作成され、表示されます。また、[コンシューマの秘密] が作成されます (表示するにはリンクをクリックします)。

接続アプリケーションを定義したら、コンシューマ鍵とコンシューマの秘密を使用してアプリケーションを認証します。必要な認証種別の接続アプリケーションを作成する具体的な手順は、Salesforce オンラインヘルプの「[接続アプリケーションの作成](#)」を参照してください。

OAuth エンドポイントについて

OAuth エンドポイントとは、Salesforce に対する OAuth 認証要求を行うために使用する URL です。

アプリケーションで認証要求を発行する場合、正確な Salesforce OAuth エンドポイントを使用する必要があります。主要な OAuth エンドポイントは次のとおりです。

- 認証: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize>
- トークン要求: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/token>
- OAuth トークンの取り消し: <https://login.salesforce.com/services/oauth2/revoke>

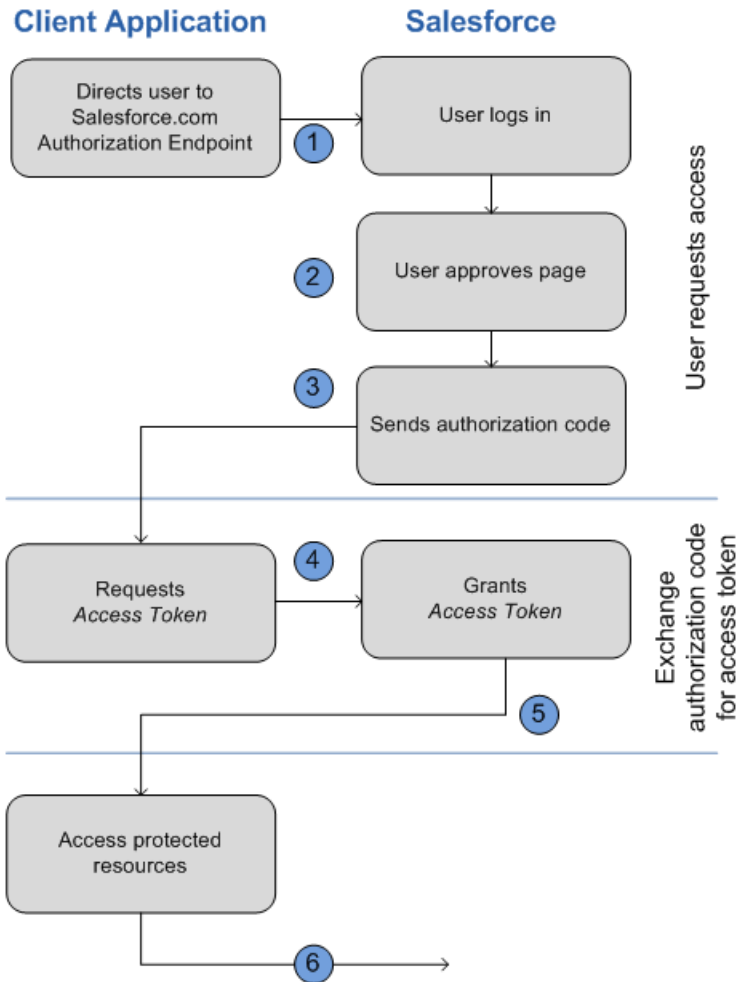
すべてのエンドポイントでセキュア HTTP (HTTPS) が必要です。各 OAuth フローには、使用する必要があるエンドポイントと指定する必要がある要求データが定義されています。

Sandbox 組織で認証を検証する場合、上記に挙げたすべての OAuth エンドポイントで「login.salesforce.com」の代わりに「test.salesforce.com」を使用してください。

Web サーバ OAuth 認証フローについて

安全なサーバでホストされているアプリケーションでは、Web サーバ認証フローを使用します。Web サーバフローでの重要な点は、サーバがコンシューマの秘密を保護できる必要があるということです。また、コード確認を使用し、フロー内の値を検証して、認証コードの傍受を防ぐこともできます。

このフローでは、クライアントアプリケーションは、ユーザを認証してアプリケーションに認証コードを送信する他の Web サーバまたはリソースにユーザをリダイレクトするように認証サーバに要求します。アプリケーションは認証コードを使用してアクセストークンを要求します。このフローの手順は、次のとおりです。




1. アプリケーションはユーザを適切な Salesforce 認証エンドポイント

(<https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize> など) にリダイレクトします。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
response_type	この認証フローの場合、code にする必要があります。
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
redirect_uri	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。

次のパラメータは省略可能です。

パラメータ	説明
code_challenge	トークン要求で code_verifier 値の SHA256 ハッシュ値を指定して、認証コードの傍受攻撃を防ぐの

パラメータ	説明
	<p>に役立ってます。ハッシュ値は、 https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5 の定義に従って base64url エンコードする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定され、トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定されている場合、Salesforce により <code>code_challenge</code> が <code>code_verifier</code> と比較されます。 <code>code_challenge</code> が無効であるか一致しない場合、ログインが <code>invalid_request</code> エラーコードで失敗します。 • 認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定されていても、トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定されていない場合、ログインが <code>invalid_grant</code> エラーコードで失敗します。 <p> メモ: 値を base64url エンコードするのは 1 回のみです。</p>
display	<p>ログインページの表示の種類を変更します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>page</code> — 全画面のページ認証。これは、値が指定されていない場合のデフォルト値です。 • <code>popup</code> — 最新の Web ブラウザのポップアップウィンドウ用に最適化されたコンパクトなダイアログ。 • <code>touch</code> — Android や iPhone など、最新のスマートフォン用に設計されたモバイル用に最適化されたダイアログ。 • <code>mobile</code> — BlackBerry OS5 など、タッチスクリーンをサポートしていないスマートフォン用に設計された、モバイル用に最適化されたダイアログ。
immediate	<p>ログインと承認についてユーザにプロンプトメッセージを表示するかどうかを決定します。値は、<code>true</code> か <code>false</code> のいずれかです。デフォルトは <code>false</code> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>true</code> に設定され、ユーザが現在ログインしており、以前にこのアプリケーションを承認している場合、承認ステップはスキップされます。 • <code>true</code> に設定され、ユーザがログインしていないか、これまでこのアプリケーションを承認した

パラメータ	説明
	<p>ことがない場合、セッションはただちにエラーコード <code>immediate_unsuccessful</code> で終了します。</p>
<code>login_hint</code>	<p>ログインページにユーザ名を自動入力するための、有効なユーザ名の値を指定します。たとえば、<code>login_hint=username@company.com</code> です。ユーザのブラウザにすでに有効なセッションがある場合は、<code>login_hint</code> パラメータの影響はなく、有効なユーザセッションが継続されます。</p>
<code>nonce</code>	<p>応答で返される値を指定します。「リプレイ」攻撃の検出に役立ちます。ユーザIDトークンを取得する場合の <code>openid</code> 範囲に使用できます (省略可能)。</p>
<code>prompt</code>	<p>認証サーバがユーザに再認証および再承認を求める方法を指定します。このパラメータは省略可能です。Salesforce でサポートされる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>login</code> — 認証サーバがユーザに再認証を求める必要があり、ユーザに強制的に再ログインさせます。 <code>consent</code> — クライアントに情報を戻す前に、認証サーバがユーザに再認証を求めます。 <p>ユーザにログインおよび再認証の両方を求めるには、スペースで区切られた両方の値を渡すことが有効です。以下に例を示します。</p> <pre>?prompt=login%20consent</pre>
<code>scope</code>	<p>アプリケーションがアクセスできるデータを指定します。詳細は、オンラインヘルプの「範囲パラメータの値」を参照してください。</p>
<code>state</code>	<p>承認後にコールバック URL で返される、追加の URL 符号化された状態データを指定します。</p>

認証 URL の例は、次のようになります。

```
https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize?response_type=code
&client_id=3MVG9lKcPoNINVBIPJjdw1J9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0QqEWhqKpoW3svG3X
HrXDiCQjKlmdgAvhCscA9GE&redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2F
code_callback.jsp&state=mystate
```


2. ユーザが自分のログイン情報で Salesforce にログインします。ユーザは認証エンドポイントを直接操作するため、アプリケーションがユーザのログイン情報を認識することはありません。ログインに成功したら、ユーザはアプリケーションを認証するように要求されます。ユーザがすでにアプリケーションを認証している場合、このステップはスキップされます。
3. クライアントアプリケーションが認証されたことが Salesforce で確認されると、エンドユーザの Web ブラウザは、`redirect_uri` パラメータで指定されたコールバック URL にリダイレクトされます。Salesforce は、認証情報を次の値でリダイレクト URL に付加します。

パラメータ	説明
<code>code</code>	コンシューマがアクセストークンと更新トークンを取得するために使用する必要がある認証コード。
<code>state</code>	最初の要求の一部として渡される状態値 (該当する場合のみ)。

認証情報が付属するコールバック URL の例は、次のようになります。


```
https://www.mysite.com/authcode_callback?code=aWekysIEeqM9PiT
hEfm0Cnr6MoLIfwWyRJcqOqHdF8f9INokharAS09ia7UNP6RiVScerfhc4w%3D%3D
```

4. アプリケーションは認証コードを抽出して、これをアクセストークン要求に含めて Salesforce に渡す必要があります。この要求は、適切な Salesforce トークン要求エンドポイント (<https://login.salesforce.com/services/oauth2/token> など) に対して送信される POST 要求です。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
<code>grant_type</code>	このフローの値は <code>authorization_code</code> である必要があります。
<code>client_id</code>	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
<code>client_secret</code>	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。
<code>redirect_uri</code>	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。
<code>code</code>	コンシューマがアクセストークンと更新トークンを取得するために使用する必要がある認証コード。

次のパラメータは省略可能です。

パラメータ	説明
<code>client_assertion</code>	<code>client_secret</code> を渡す代わりに、 <code>client_assertion</code> および <code>client_assertion_type</code> を提供できます。

パラメータ	説明
	<p><code>client_secret</code> パラメータが指定されていない場合、Salesforce によって自動的に <code>client_assertion</code> および <code>client_assertion_type</code> がチェックされます。<code>client_assertion</code> の値は、OAuth コンシューマがアップロードした証明書に関連付けられている非公開鍵で署名された一般的な JWT ベアラー トークンである必要があります。現在、RS256 アルゴリズムのみがサポートされています。</p> <p><code>client_assertion</code> の使用についての詳細は、<code>private_key_jwt</code> クライアント認証メソッドの「OpenID Connect の仕様」を参照してください。</p>
<code>client_assertion_type</code>	<p><code>client_assertion</code> パラメータを使用するときにこの値を指定します。<code>client_assertion_type</code> の値は、<code>urn:ietf:params:oauth:client-assertion-type:jwt-bearer</code> でなければなりません。</p>
<code>code_verifier</code>	<p>高エントロピの 128 バイトのランダムなデータを指定して値の推測を困難にすることで、認証コードの傍受攻撃を防ぐのに役立ちます。この値も、https://tools.ietf.org/html/rfc4648#section-5 の定義に従って base64url エンコードする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定され、認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定されている場合、Salesforce により <code>code_verifier</code> が <code>code_challenge</code> と比較されます。<code>code_verifier</code> が無効であるか一致しない場合、ログインが <code>invalid_grant</code> エラーコードで失敗します。 • トークン要求で <code>code_verifier</code> 値が指定されていても、認証要求で <code>code_challenge</code> 値が指定されていない場合、ログインが <code>invalid_grant</code> エラーコードで失敗します。 <p> メモ: 値を base64url エンコードするのは 1 回のみです。</p>
<code>format</code>	<p>期待される戻り形式。デフォルトは <code>json</code> です。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>urlencoded</code> • <code>json</code> • <code>xml</code>

パラメータ	説明
	<p>返される形式は、要求のヘッダーに次のいずれかを使用して指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Accept: application/x-www-form-urlencoded • Accept: application/json • Accept: application/xml

アクセストークン POST 要求の例は、次のようになります。

```
POST /services/oauth2/token HTTP/1.1
Host: login.salesforce.com
grant_type=authorization_code&code=aPrxsmIEeqM9PiQroGEWx1UiMQd95_5JUZ
VEhsOFhS8EVvbfYBBJli2W5fn3zbo.8hojaNW_1g%3D%3D&client_id=3MVG91KcPoNI
NVBIPJjdw1J9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0QqEWhqKpoW3svG3XHrXDicQjK1mdgAvhCs
cA9GE&client_secret=1955279925675241571&
redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2Fcode_callback.jsp
```

5. この要求が成功した場合、サーバは次の内容を持つレスポンスボディを返します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッションIDとして機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
refresh_token	新しいアクセストークンを取得するために将来使用できるトークン。  警告: この値は秘密です。ユーザのパスワードなどと同様に処理し、適切な手段で保護する必要があります。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された

パラメータ	説明
	HMAC-SHA256 署名。この <code>signature</code> は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

JSON レスポンスボディの例は、次のようになります。

```
{
  "id": "https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
  "issued_at": "1278448101416",
  "refresh_token": "5Aep8614iLM.Dq661ePDmPEgaAW9Oh_L3JKkDpB4xReb54_pZebnUG0h6Sb4KUVDPNtWEofWM39yg==",
  "instance_url": "https://yourInstance.salesforce.com/",
  "signature": "CMJ41+CCaPQiKjoOEwEig9H4wqhpuLSk4J2urAe+fVg=",
  "access_token": "00Dx0000000BV7z!AR8AQP0jITN80ESEsj5EbaZTFG0RNBaT1cyWk7TrqoDjoNIWQ2ME_sTZzBjfmOE6zMHq6y8PIW4eWze9JksNEkWU1.Cju7m4"}

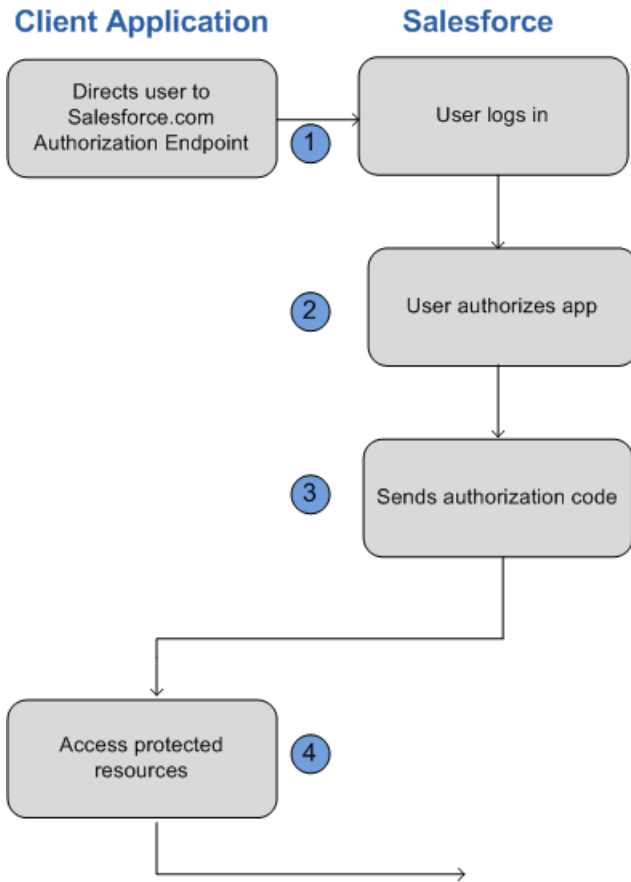
```

- アプリケーションは、提供されたアクセストークンと更新トークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。

ユーザエージェント OAuth 認証フローについて

ユーザエージェント認証フローは、ユーザのデバイスにあるクライアントアプリケーション(コンシューマ)で使用されます。これは、JavaScriptなどのスクリプト言語を使用するブラウザ内で、または携帯機器またはデスクトップアプリケーションから実装することができます。これらのコンシューマは顧客の秘密の機密を保持することができません。

このフローでは、クライアントアプリケーションは、アクセストークンを抽出してアプリケーションに戻ることができる他の Web サーバまたはリソースにユーザをリダイレクトするように認証サーバに要求します。このフローの手順は、次のとおりです。



1. アプリケーションはユーザーを適切な Salesforce 認証エンドポイント

(<https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize> など) にリダイレクトします。次のパラメータは必須です。

パラメータ	説明
response_type	この認証フローの場合、必ず token にする
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
redirect_uri	接続アプリケーション定義の [コールバック URL]。

次のパラメータは省略可能です。

パラメータ	説明
display	ログインページの表示の種類を変更します。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> page — 全画面のページ認証。これは、値が指定されていない場合のデフォルト値です。

パラメータ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> popup — 最新の Web ブラウザのポップアップウィンドウ用に最適化されたコンパクトなダイアログ。 touch — Android や iPhone など、最新のスマートフォン用に設計されたモバイル用に最適化されたダイアログ。 mobile — BlackBerry OS5 など、タッチスクリーンをサポートしていないスマートフォン用に設計された、モバイル用に最適化されたダイアログ。
scope	アプリケーションがアクセスできるデータを指定します。詳細は、オンラインヘルプの「 範囲パラメータの値 」を参照してください。
state	承認後にコールバック URL で返される、追加の URL 符号化された状態データを指定します。

認証 URL の例は、次のようになります。

```
https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize?response_type=token&
client_id=3MVG91KcPoNINVBIPJjdw1J9LLJbP_pqwoJYyuisjQhr_LLurNDv7AgQvDTZwCoZuD
ZrXcPCmBv4o.8ds.5iE&redirect_uri=https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2Fuser_callback.jsp&
state=mystate
```

- ユーザが自分のログイン情報で Salesforce にログインします。ユーザは認証エンドポイントを直接操作するため、アプリケーションがユーザのログイン情報を認識することはありません。
- 認証されると、認証エンドポイントはユーザをリダイレクト URL にリダイレクトします。この URL は、アプリケーション用に作成されたりリモートアクセスアプリケーションに定義されています。Salesforce は、アクセストークン情報を次の値でリダイレクト URL に付加します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
expires_in	アクセストークンが有効な時間 (秒)。
refresh_token	新しいアクセストークンを取得するために将来使用できるトークン。
	 警告: この値は秘密です。ユーザのパスワードなどと同様に処理し、適切な手段で保護する必要があります。

パラメータ	説明
	更新トークンが返されるのは、リダイレクト URI が <code>https://login.salesforce.com/services/oauth2/success</code> であるか、HTTPS 以外のカスタムプロトコルで使用されている場合のみです。
state	最初の要求の一部として渡される状態値 (該当する場合のみ)。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

アクセス情報がハッシュ記号 (#) の後に付加されたコールバック URL の例は、次のようになります。

```
https://www.mysite.com/user_callback.jsp#access_token=00Dx0000000BV7z%21AR8
AQBm8J_xr9kLqmZIRyQxZgLcM4HVi41aGtW0qW3JCzf5xdTGGGSovim8FfJkZEqxbjaFbberKKGk
8v8AnYrvChG4qJbQo8&refresh_token=5Aep8614iLM.Dq661ePDmPEgaAW90h_L3JKkDpB4xR
eb54_pZfvtildPEk8aimw4Hr9ne7VXXVSIQ%3D%3D&expires_in=7200&state=mystate
```

- アプリケーションは、提供されたアクセストークンと更新トークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。

ユーザエージェント OAuth フローを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

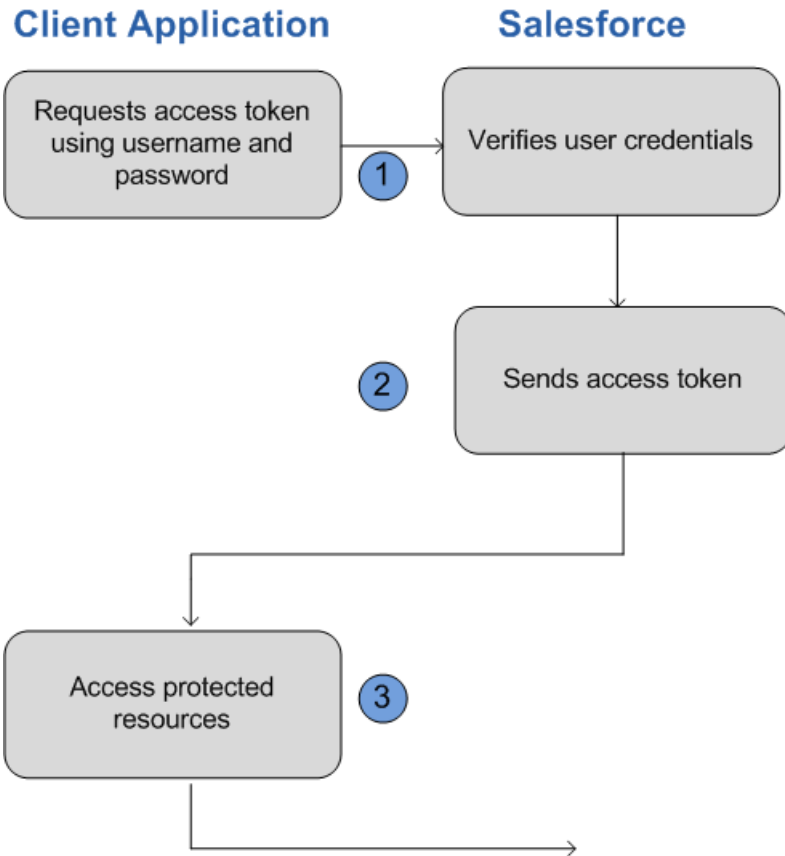
- アクセストークンは符号化され、リダイレクト URI になっているため、エンドユーザや、コンピュータまたはデバイス上にある他のアプリケーションに公開できます。JavaScript を使用して認証する場合、`window.location.replace();` をコールし、ブラウザの履歴からコールバックを削除します。

ユーザ名パスワード OAuth 認証フローについて

コンシューマにすでにユーザの認証情報がある場合、ユーザ名パスワード認証フローを使用して認証できません。

このフローでは、次の手順のようにアプリケーションがユーザのログイン情報を使用してアクセストークンを要求します。

警告: この OAuth 認証フローでは、ユーザのログイン情報をやり取りする必要があります。この認証フローは、必要な場合にのみ使用してください。更新トークンは発行されません。



1. コンシューマはユーザのユーザ名とパスワードを使用してアクセストークンを要求します。これを行うには、適切な Salesforce トークン要求エンドポイント (<https://login.salesforce.com/services/oauth2/token> など) に対して帯域外 POST 要求を行います。次の要求項目は必須です。

パラメータ	説明
grant_type	この認証フローの場合、password にする必要があります。
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
client_secret	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。
username	エンドユーザのユーザ名。
password	エンドユーザのパスワード。

メモ: ユーザのセキュリティトークンをユーザのパスワードに付加する必要があります。セキュリティトークンは、Salesforce で自動生成

パラメータ	説明
	されたキーです。たとえば、ユーザのパスワードが mypassword で、セキュリティトークンが XXXXXXXXXXXX の場合は、このパラメータには、値 mypasswordXXXXXXXXX を指定する必要があります。セキュリティトークンの詳細は、オンラインヘルプの「セキュリティトークンのリセット」を参照してください。

リクエストボディの例は、次のようになります。

```
grant_type=password&client_id=3MVG91KcPoNINVBIPJjdw1J9LLM82Hn
FVVX19KY1uA5mu0QqEWhqKpoW3svG3XHrXDicQjKlmdgAvhCscA9GE&client_secret=
1955279925675241571&username=testuser%40salesforce.com&password=mypassword123456
```

- Salesforce はユーザログイン情報を検証し、成功したら、応答とアクセストークンをアプリケーションに送信します。この応答には次の値が含まれます。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

レスポンスボディの例は、次のようになります。

```
{"id": "https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
"issued_at": "1278448832702", "instance_url": "https://yourInstance.salesforce.com/",
```

```
"signature":"0CmxinZir53Yex7nE0TD+zMpvIWYGb/bdJh6XfOH6EQ=", "access_token":
"00Dx0000000BV7z!AR8AQAxo9UfVkh8AlV0Gomt9Czx9LjHnSSpWBmmbRcgKFmxOtvxjTrKW1
9ye6PE3Ds1eQz3z8jr3W7_VbWmEu4Q8TVGSTHxs"}
```

3. アプリケーションは、提供されたアクセストークンを使用して保護されたユーザデータにアクセスします。ユーザ名パスワード OAuth フローを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

- このフローではユーザが Salesforce でログインするためにリダイレクトされることはないため、ユーザは直接アプリケーションを認証できません。そのため、更新トークンは使用できません。アプリケーションで更新トークンが必要な場合、Web サーバまたはユーザエージェント OAuth フローの使用を検討してください。

OAuth 更新トークンプロセスについて

Web サーバ OAuth 認証フローとユーザエージェントフローはどちらも、新しいアクセストークンの取得に使用可能な更新トークンを提供します。

アクセストークンは、Salesforce のセッションタイムアウトで指定された有効期間に制限されています。アプリケーションが有効期限の切れたアクセストークンを使用すると、「Session expired or invalid」エラーが返されます。アプリケーションが Web サーバまたはユーザエージェント OAuth 認証フローを使用している場合、認証中に更新トークンが提供され、新しいアクセストークンの取得に使用できる可能性があります。

クライアントアプリケーションが新しいアクセストークンを取得するには、次の要求パラメータを指定して POST 要求をトークン要求エンドポイントに送信します。

パラメータ	説明
grant_type	値は refresh_token である必要があります。
refresh_token	クライアントアプリケーションがすでに受け取っている更新トークン。
client_id	接続アプリケーション定義の [コンシューマ鍵]。
client_secret	接続アプリケーション定義の [コンシューマの秘密]。 このパラメータは省略可能です。
format	期待される戻り形式。デフォルトは、json です。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> urlencoded json xml 返される形式は、要求のヘッダーに次のいずれかを使用して指定することもできます。 <ul style="list-style-type: none"> Accept: application/x-www-form-urlencoded Accept: application/json Accept: application/xml

パラメータ	説明
	このパラメータは省略可能です。

更新トークン POST 要求の例は、次のようになります。

```
POST /services/oauth2/token HTTP/1.1
Host: https://login.salesforce.com/
grant_type=refresh_token&client_id=3MVG91KcPoNINVBIPJjdW1J9LLM82HnFVVX19KY1uA5mu0
QqEWhqKpoW3svG3XHrXDiCQjK1mdgAvhCscA9GE&client_secret=1955279925675241571
&refresh_token=your token here
```

Salesforce は、更新トークン要求を検証した後、次のレスポンスボディパラメータを使用してアプリケーションに応答を送信します。

パラメータ	説明
access_token	アプリケーションが要求を行うために使用するセッション ID として機能するアクセストークン。このトークンは、ユーザログイン情報と同様に保護する必要があります。
instance_url	API コールの送信先となる Salesforce インスタンスを示します。
id	ユーザ、およびユーザの詳細に関するクエリの両方を識別するために使用できる ID URL。エンドユーザに関する詳細な情報を取得するための HTTP 要求で使用できます。
issued_at	署名が作成された日時。UNIX エポック (1970 年 1 月 1 日 00:00:00 UTC) からの秒数として表されます。
signature	連結 ID と issued_at 値を含むコンシューマの非公開鍵で署名されている Base64 符号化された HMAC-SHA256 署名。この signature は、ID URL がサーバから送信された後に変更されていないことを確認するために使用できます。

JSON レスポンスボディの例は、次のようになります。

```
{ "id": "https://login.salesforce.com/id/00Dx0000000BV7z/005x00000012Q9P",
  "issued_at": "1278448384422", "instance_url": "https://yourInstance.salesforce.com/",
  "signature": "SSsbLO/gBhmyNUvN18ODBDFYHzakxOMgqYtu+hDPsc=",
  "access_token": "00Dx0000000BV7z!AR8AQP0jITN80ESEsj5EbaZTFG0RNBaT1cyWk7T
  rqoDjoNIWQ2ME_sTZzBjfmOE6zMHq6y8PIW4eWze9JksNEkWU1.Cju7m4" }
```

更新トークン OAuth プロセスを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

- アクセストークンのセッションタイムアウトを Salesforce で設定するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。
- アプリケーションがユーザー名パスワード OAuth 認証フローを使用する場合、このフローではユーザはアプリケーションを認証できないため、更新トークンは発行されません。アクセストークンの有効期限が切れた場合、ユーザー名パスワード OAuth フローを使用するアプリケーションはユーザを再認証する必要があります。

その他のリソースを見つける

次のリソースは、Salesforce で OAuth を使用するときの関連情報を説明しています。

- [Authenticating Apps with OAuth \(OAuth によるアプリケーションの認証\)](#)
- [Digging Deeper into OAuth on Force.com \(Force.com の OAuth の詳細\)](#)
- [Using OAuth to Authorize External Applications \(OAuth を使用した外部アプリケーションの認証\)](#)

OAuth を実装するサードパーティクライアントライブラリとして、次のようなリソースを必要に応じて参考にしてください。

- Ruby on Rails: [OmniAuth](#)
- Java: [Apache Amber](#)
- その他の OAuth クライアントライブラリ: [OAuth.net](#)

CORS を使用した、サポートされた Salesforce API、Apex REST、および Lightning Out へのアクセス

Chatter REST API、REST API、Lightning Out、Bulk API、および Apex REST では、CORS (クロスオリジンリソース共有) がサポートされます。Web ブラウザで JavaScript からこれらの API にアクセスするには、スクリプトを提供するオリジンを CORS ホワイトリストに追加します。

「CORS」は、Web ブラウザが他のオリジンからのリソースを要求(クロスオリジン要求)できるようにする W3C 勧告です。たとえば、CORS を使用すると、<https://www.example.com> にある JavaScript スクリプトで <https://www.salesforce.com> からのリソースを要求できます。

CORS をサポートするブラウザが、Salesforce CORS ホワイトリスト内のオリジンに要求を行うと、Salesforce はオリジンを含む `Access-Control-Allow-Origin` HTTP ヘッダーと、追加の CORS HTTP ヘッダーを返します。オリジンがホワイトリストにない場合は、Salesforce が HTTP 状況コード 403 を返します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「CORS」と入力し、[CORS] を選択します。
2. [新規] を選択します。
3. オリジンの URL パターンを入力します。

オリジンの URL パターンには、HTTPS プロトコル (localhost を使用しない場合)

とドメイン名が含まれている必要があります、ポートが含まれることもあります。ワイルドカード文字(*)はサ

エディション

使用可能なエディション:
Salesforce Classic および
Lightning Experience

使用可能なエディション:
Developer Edition、
Enterprise Edition、
Performance Edition、
Unlimited Edition


ユーザ権限

作成、参照、更新、および削除する

- 「すべてのデータの編集」

ポートされますが、第2レベルドメイン名の前にある必要があります。たとえば、`https://*.example.com` により、`example.com` のすべてのサブドメインがホワイトリストに追加されます。

オリジンの URL パターンに IP アドレスを使用できます。ただし、IP アドレスと、同じアドレスに解決するドメインは同じオリジンではないため、CORS ホワイトリストには別々のエントリとして追加する必要があります。

 **重要:** OAuth トークンが必要な要求では、OAuth トークンを渡す必要があります。

第 2 章

クイックスタート

トピック:

- 前提条件
- ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する
- ステップ 2: 認証を設定する
- ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する
- ステップ 4: サンプルコードを実行する
- ワークベンチの使用

開発環境で REST サンプルアプリケーションを作成し、REST API の能力と柔軟性を確認します。

前提条件

次の前提条件をすべて満たすことで、クイックスタートのサンプルの作成と使用が容易になります。

cURL および JavaScript Object Notation (JSON) に慣れていない場合は、[ワークベンチ](#)を使用してデータを取得することもできます。

- 製品ドキュメントに従って、開発プラットフォームをインストールする。
- このクイックスタートで REST 要求の実行に使用するツールである cURL に習熟しておく。他のツールを使用する場合は、コード例を変換できるようにそのツールに十分慣れておく必要があります。
- このクイックスタートで使用する JSON に習熟しておく。JSON を使用しない場合は、サンプルを JSON から読み換えられる程度に自分が使用する標準言語に習熟している必要があります。
- アプリケーションサーバの SSL エンドポイントを有効にする。
- OAuth 2.0 に習熟しておく。OAuth 2.0 にはいくつかの設定が必要です。手順は説明しますが、基本的な概念とワークフローを理解しておく役に立ちます。
- このクイックスタートを開始する前に、すべての手順に目を通す。このガイドの他の部分を確認しておく、用語や概念を把握できます。

ステップ 1: Salesforce Developer Edition 組織を取得する

コードをテストする Developer Edition 組織を設定します。

まだ Force.com 開発者コミュニティのメンバーでない場合、developer.salesforce.com/signup にアクセスし、Developer Edition 組織のサインアップの説明に従ってください。すでに Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Performance Edition を所有している場合でも、組織の使用中的数据を保護するために、サンプルデータに対するソリューションの開発、ステージングおよびテストには Developer Edition を使用します。これは、特に、(データをただ参照するだけのアプリケーションに対し)データを挿入、更新または削除するアプリケーションの場合に該当します。

Developer Edition 組織をすでに所有している場合は、「APIの有効化」権限があることを確認します。この権限はデフォルトで有効になっていますが、管理者によって変更されている場合があります。詳細は、Salesforce ユーザーインターフェースのヘルプを参照してください。

ステップ 2: 認証を設定する

OAuth 2.0 を使用して、またはセッション ID を渡すことによって、認証を設定できます。


⚠ 重要: 他のユーザのパスワードを処理している場合は、セッション ID は使用しないでください。

認証用の OAuth コンシューマ ID の取得を希望するパートナー様は Salesforce まで連絡してください。

OAuth 2.0 の設定

OAuth 2.0 の設定には、Salesforce 内と他の場所でのいくつかのステップを実行する必要があります。ステップに不明な点がある場合は、「[認証について](#)」または Salesforce オンラインヘルプを参照してください。次の例では、[Web サーバ OAuth フロー](#)を使用します。

1. Salesforce で、[設定] から [クイック検索] ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション] を選択して、[接続アプリケーション] で [新規] をクリックして新しい接続アプリケーションを作成します (まだ作成していない場合)。ここで指定する [コールバック URL] は、Web アプリケーションのコールバック URL と同じです。Java を使用する場合、通常はこれはサブドメインです。コールバック URL はセキュアである必要があります。http:// は機能せず、https:// のみが機能します。開発環境では、コールバック URL は https://localhost:8443/RestTest/oauth/_callback のような形になります。[保存] をクリックすると、[コンシューマ鍵] が作成されて表示され、[コンシューマの秘密] が作成されます (リンクをクリックして表示します)。

 **メモ:** OAuth 2.0 仕様では、「consumer (コンシューマ)」ではなく「client (クライアント)」という表現が使われます。Salesforce は OAuth 2.0 をサポートします。

Salesforce のリモートアクセスアプリケーションで使用される用語と、この手順の残りの部分にあるサンプルコードに含まれる値は次のように対応します。

- client_id は [コンシューマ鍵] に対応
- client_secret は [コンシューマの秘密] に対応
- redirect_uri は [コールバック URL] に対応

クライアントアプリケーションでは、ユーザを適切な Salesforce 認証エンドポイントにリダイレクトします。ユーザのログインが成功すると、Salesforce は認証コードでリダイレクト URI をコールします。次のステップでは、認証コードを使用してアクセストークンを取得します。

2. Java またはその他のクライアントアプリケーションから、適切な Salesforce トークン要求エンドポイントに要求を行い、grant_type、client_id、client_secret、および redirect_uri を渡します。redirect_uri は、Salesforce がコールバック送信する先の URI です。

```
initParams = {
    @WebInitParam(name = "clientId", value =
        "3MVG91KcPoNINVBJSOqsNCD.HHDddebugPsNXwwyFbgb47Kwa_PTv"),
    @WebInitParam(name = "clientSecret", value = "5678471853609579508"),
    @WebInitParam(name = "redirectUri", value =
        "https://localhost:8443/RestTest/oauth/_callback"),
    @WebInitParam(name = "environment", value =
        "https://yourInstance.salesforce.com/services/oauth2/token") }

HttpClient httpClient = new HttpClient();
PostMethod post = new PostMethod(environment);
post.addParameter("code", code);
post.addParameter("grant_type", "authorization_code");

/** For session ID instead of OAuth 2.0, use "grant_type", "password" */
post.addParameter("client_id", clientId);
```



```
post.addParameter("client_secret",clientSecret);
post.addParameter("redirect_uri",redirectUri);
```

client_id(または consumer key)の値と client_secret(または consumer secret)が有効な場合、Salesforceはコールバックを、access_token. の値が含まれる redirect_uri に指定された URI に送信します。

3. アクセストークンの値を Cookie として保存し、以降のすべての要求で使用します。次に例を示します。

```
//exception handling removed for brevity...
//this is the post from step 2
httpClient.executeMethod(post);
    String responseBody = post.getResponseBodyAsString();

String accessToken = null;
JSONObject json = null;
try {
    json = new JSONObject(responseBody);
    accessToken = json.getString("access_token");
    issuedAt = json.getString("issued_at");
    /** Use this to validate session
     * instead of expiring on browser close.
     */

} catch (JSONException e) {
    e.printStackTrace();
}

HttpServletResponse httpResponse = (HttpServletResponse)response;
Cookie session = new Cookie(ACCESS_TOKEN, accessToken);
session.setMaxAge(-1); //cookie not persistent, destroyed on browser exit
httpResponse.addCookie(session);
```

これで、認証は完了です。

4. 認証されると、各要求は、ヘッダーに access_token 値を渡す必要があります。要求パラメータとして渡すことはできません。

```
HttpClient httpClient = new HttpClient();
GetMethod gm = new GetMethod(serviceUrl);

//set the token in the header
gm.setRequestHeader("Authorization", "Bearer "+accessToken);
//set the SOQL as a query param
NameValuePair[] params = new NameValuePair[1];

/**
 * other option instead of query string, pass just the fields you want back:
 * https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/
 * 001D000000INjVe?fields=AccountNumber,BillingPostalCode
 */
params[0] = new NameValuePair("q","SELECT name, title FROM Contact LIMIT 100");
gm.setQueryString(params);
```

```

httpClient.executeMethod(gm);
String responseBody = gm.getResponseBodyAsString();
    //exception handling removed for brevity
JSONObject json = new JSONObject(responseBody);

JSONArray results = json.getJSONArray("records");

for(int i = 0; i < results.length(); i++)
    response.getWriter().write(results.getJSONObject(i).getString("Name")+ " ",
        "+results.getJSONObject(i).getString("Title")+"\n");

```

REST 要求にアクセストークンを提供する構文は、次のとおりです。

```
Authorization: Bearer access_token
```

次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H 'Authorization: Bearer access_token'
```

セッション ID の認証

他のユーザのパスワードを処理していない場合は、OAuth2.0アクセストークンの代わりにセッションIDを使用できます。

1. セッションIDを取得します。たとえば、SOAP API `login()` コールは、セッションIDを返します。また、たとえばApexの現在のコンテキストの一部として、セッションIDを持つこともできます。開発中にテスト目的のためだけにセッションIDが必要な場合、cURL コマンドで次のようにユーザ名パスワード OAuth フローを使用できます。

```
curl https://login.salesforce.com/services/oauth2/token -d "grant_type=password" -d "client_id=myclientid" -d "client_secret=myclientsecret" -d "username=mylogin@salesforce.com" -d "password=myspassword123456"
```

クライアントID、クライアントの秘密、ユーザ名、およびユーザセキュリティトークンを付加したパスワードが必要です。

2. リソースに要求を送信するときに、セッションIDを使用します。IDを `token` 値と置き換えます。構文は同じです。

```
Authorization: Bearer access_token
```

次に例を示します。

```
curl https://instance_name.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H 'Authorization: Bearer access_token'
```

ステップ 3: cURL で HTTP 要求を送信する

Force.com REST API を操作するには、HTTP 要求を構築するようにクライアントアプリケーションを設定する必要があります (cURL を使用します)。

クライアントアプリケーションの設定

REST API は、HTTP GET および HTTP POST メソッドを使用して、JSON と XML コンテンツを送信および取得するため、好みのツールまたは言語を使って簡単にクライアントアプリケーションを構築できます。HTTP 要求と応答の送受信を単純化するために、cURL というコマンドラインツールを使用します。

cURL は、多くの Linux システムや Mac システムにあらかじめインストールされています。Windows バージョンは、curl.haxx.se/ からダウンロードできます。Windows で HTTPS を使用する場合、システムが SSL の cURL 要件を満たしていることを確認してください。

REST API リソースを使った HTTP 要求の送信

REST API リソースへの HTTP 要求には、次の情報が含まれている必要があります。

- HTTP メソッド (HEAD、GET、POST、PATCH、または DELETE)。
- 要求の認証に使用される OAuth 2.0 アクセストークン。トークンの取得方法については、「[クイックスタート](#)」(ページ 32)を参照してください。
- リソースの形式 (XML または JSON)、または URI の `.json` または `.xml` 拡張子を示すために使用する HTTP ACCEPT ヘッダー。デフォルトは JSON です。
- Force.com REST リソース。
- 新しい情報でレコードを更新するなどの要求に必要な情報が含まれる JSON ファイルまたは XML ファイル。

HTTP メソッドは、情報の取得や、レコードの作成、更新、削除など、目的のアクションを示すために使用されます。

- HEAD は、リソースメタデータの取得に使用されます。
- GET は、リソースに関する基本的なサマリー情報など、情報の取得に使用されます。
- POST は、新しいオブジェクトを作成するために使用されます。
- PATCH は、レコードを更新するために使用されます。
- DELETE は、レコードを削除するために使用されます。

リソースにアクセスするには、ヘッダー、メソッド、リソース名を含む HTTP 要求を送信します。

たとえば、`newaccount.json` という JSON 形式のファイルを使用して、Account レコードを作成するとします。これには、新しい Account レコードに保存される情報が含まれます。

```
{
  "Name" : "test"
}
```

インスタンスに cURL を使用すると、要求は次のようになります。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H
"Authorization: Bearer token -H "Content-Type: application/json" -d "@newaccount.json"
```

HTTP 要求ヘッダーは次のようになります。

```
POST /services/data/v20.0/subjects/Account HTTP/1.1
User-Agent: curl/7.19.7 (universal-apple-darwin10.0) libcurl/7.19.7 OpenSSL/0.9.8l zlib/1.2.3
Host: yourInstance.salesforce.com
Accept: */*
```

```
Content-Length: 1411
Content-Type: application/json
Authorization: Bearer XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
X-PrettyPrint:1
```

応答は次のようになります。

```
Date: Thu, 21 Oct 2010 22:16:22 GMT
Content-Length: 71
Location: /services/data/v20.0/subjects/Account/001T000000NU96UIAT
Content-Type: application/json; charset=UTF-8 Server:
{ "id" : "001T000000NU96UIAT",
  "errors" : [ ],
  "success" : true }
```

リソースおよび対応する URI のリストについては、「[リファレンス](#)」(ページ 106)を参照してください。

関連トピック:

[REST での cURL の使用例](#)

ステップ 4: サンプルコードを実行する

このセクションでは、一連の REST 要求を作成します。要求の構築には cURL を使用し、すべての要求と応答の形式として JSON を使用します。

各要求では、REST リソースと共にベース URI を使用します。これらの例のベース URI は

`https://yourInstance.salesforce.com/services/data` です。詳細は、「[Force.com REST リソース](#)」(ページ 2)を参照してください。

この例では、一連の REST 要求が次のシナリオで使用されます。

1. Salesforce バージョンを取得する。
2. Salesforce バージョンを使用して、使用可能なリソースのリストを取得する。
3. リソースの 1 つを使用して、使用可能なオブジェクトのリストを取得する。
4. オブジェクトの 1 つを選択して、そのメタデータの説明を取得する。
5. その同じオブジェクトの項目のリストを取得する。
6. SOQL クエリを実行して、Account レコードのすべての `name` 項目の値を取得する。
7. Account レコードの 1 つで請求先市区郡の情報 (`BillingCity`) を更新する。

Salesforce バージョンを取得する

はじめに、使用可能な各 Salesforce バージョンに関する情報を取得します。これを行うには、`Versions` リソースに要求を送信します。この場合、要求に認証は必要ありません。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/
```

応答ヘッダーを含む、この要求の出力は次のとおりです。

```
Content-Length: 88
Content-Type: application/json;
charset=UTF-8 Server:
[
  {
    "version": "20.0",
    "url": "/services/data/v20.0",
    "label": "Winter '11"
  }
  ...
]
```

出力は、すべての有効なバージョンで使用可能なリソースを指定します (結果には複数の値が含まれる場合があります)。次に、これらのバージョンの1つを使用して、それに含まれるリソースを検出します。

リソースのリストを取得する

次のステップは、Salesforce (この例ではバージョン 20.0) で使用可能なリソースのリストを取得します。これを行うには、[Resources by Version](#) の要求を送信します。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/ -H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
{
  "subjects" : "/services/data/v20.0/subjects",
  "search" : "/services/data/v20.0/search",
  "query" : "/services/data/v20.0/query",
  "recent" : "/services/data/v20.0/recent"
}
```

この出力から、`subjects` が、Salesforce バージョン 20.0 で使用可能なリソースの1つであることがわかります。このリソースを次の要求で使用し、使用可能なオブジェクトを取得することができます。

使用可能なオブジェクトのリストを取得する

使用可能なリソースのリストを取得したので、使用可能なオブジェクトのリストを要求できます。これを行うには、[Describe Global](#) の要求を送信します。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/ -H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
Transfer-Encoding: chunked
Content-Type: application/json;
charset=UTF-8 Server:
{
  "encoding" : "UTF-8",
  "maxBatchSize" : 200,
```

```
"subjects" : [ {
  "name" : "Account",
  "label" : "Account",
  "custom" : false,
  "keyPrefix" : "001",
  "updateable" : true,
  "searchable" : true,
  "labelPlural" : "Accounts",
  "layoutable" : true,
  "activateable" : false,
  "urls" : { "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
  "describe" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/describe",
  "rowTemplate" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/{ID}" },
  "createable" : true,
  "customSetting" : false,
  "deletable" : true,
  "deprecatedAndHidden" : false,
  "feedEnabled" : false,
  "mergeable" : true,
  "queryable" : true,
  "replicateable" : true,
  "retrieveable" : true,
  "undeletable" : true,
  "triggerable" : true },
},
...

```

この出力から、Account オブジェクトが使用可能であることがわかります。Account オブジェクトに関する詳細情報の取得については、次のステップで説明します。

オブジェクトの基本情報を取得する

Account オブジェクトを使用可能なリソースとして特定したため、そのメタデータに関するいくつかの基本情報を取得できます。これを行うには、[sObject Basic Information](#) の要求を送信します。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H
"Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
{
  "objectDescribe" :
  {
    "name" : "Account",
    "updateable" : true,
    "label" : "Account",
    "keyPrefix" : "001",
    ...
    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,
    "undeletable" : true,
  }
}
```

```
    "triggerable" : true
  },
  "recentItems" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVeIAL"
      },
      "Id" : "001D000000INjVeIAL",
      "Name" : "asdasdasd"
    },
    ...
  ]
}
```

この出力から、名前や表示ラベルなど、Account オブジェクトのいくつかの基本属性を確認できます。最近使用された Account レコードのリストも取得されています。長さやデフォルト値など、その項目に関する詳細情報が必要な場合があるため、次のステップで、Account オブジェクトに関する詳細情報の取得について説明します。

項目のリストを取得する

Account オブジェクトのメタデータに関するいくつかの基本情報を取得したので、詳細情報を取得できます。これを行うには、[sObject Describe](#) の要求を送信します。

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/describe/
-H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"
```

この要求の出力は、次のとおりです。

```
{
  "name" : "Account",
  "fields" :
  [
    {
      "length" : 18,
      "name" : "Id",
      "type" : "id",
      "defaultValue" : { "value" : null },
      "updateable" : false,
      "label" : "Account ID",
      ...
    },
    ...
  ],
  "updateable" : true,
  "label" : "Account",
  ...
  "urls" :
```

```

{
  "uiEditTemplate" : "https://yourInstance.salesforce.com/{ID}/e",
  "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
  "uiDetailTemplate" : "https://yourInstance.salesforce.com/{ID}",
  "describe" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/describe",
  "rowTemplate" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/{ID}",
  "uiNewRecord" : "https://yourInstance.salesforce.com/001/e"
},
"childRelationships" :
[
  {
    "field" : "ParentId",
    "deprecatedAndHidden" : false,
    ...
  },
  ...
],
"createable" : true,
"customSetting" : false,
...
}

```

この出力から、その項目の属性や子リレーションなど、Account オブジェクトのさらに詳細な情報を確認できます。これで、組織の Account オブジェクトに対する便利なクエリと更新を作成するのに必要な情報を取得できました。次のステップでは、実際にクエリと更新を実行します。

SOQL クエリを実行する

Account オブジェクトの項目名がわかったので、SOQL クエリを実行できます。例として、今回は、すべての取引先名の値のリストを取得します。これを行うには、[Query](#) 要求を送信します。

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/query?q=SELECT+name+from+Account
-H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1"

```

この要求の出力は、次のとおりです。

```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 14,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IRFmaIAH"
      },
      "Name" : "Test 1"
    },
    {
      "attributes" :

```



```

    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
    },
    "Name" : "Test 2"
  },
  ...
]
}

```

この出力から使用可能な取引先名のリストを取得します。それぞれの名前のある属性には取引先の ID が含まれます。次のステップでは、この情報を使用して、取引先の 1 つを更新します。

 **メモ:** SOQL についての詳細は、[『Salesforce SOQL および SOSL リファレンスガイド』](#)を参照してください。

レコードの項目を更新する

取引先名と ID を把握できたので、レコードの 1 つを取得し、請求先市区郡の情報 (BillingCity) を更新できます。これを行うには、[sObject Rows](#) 要求を送信する必要があります。オブジェクトを更新するには、市区郡に関する新しい情報を提供します。次の情報を含む、`patchaccount.json` というテキストファイルを作成します。

```

{
  "BillingCity" : "Fremont"
}

```

REST 要求に、この JSON ファイルを指定します。cURL 表記には、データを指定する場合、`-d` オプションが必要です。詳細は、<http://curl.haxx.se/docs/manpage.html>を参照してください。

また、REST リソースを更新するために使用される `PATCH` メソッドを指定します。次の cURL コマンドは、ID 項目を使用して指定された Account レコードを取得し、その市区郡を更新します。

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IroHJ
-H "Authorization: Bearer access_token" -H "X-PrettyPrint:1" -H "Content-Type:
application/json" --data-binary @patchaccount.json -X PATCH

```

レスポンスボディはなく、ヘッダーのみが返されます。

```

HTTP/1.1 204 No Content
Server:
Content-Length: 0

```

その Account レコードのページを更新すると、請求先住所の市区郡が「Fremont」に変更されていることを確認できます。

その他のリソース

- developer.salesforce.com で「Ruby」を検索してください。
- Ruby での使用開始は、[『Force.com Cookbook』](#) のレシピを参照してください。
- [Force.com REST API のディスカッションボード](#)

ワークベンチの使用

ワークベンチツールを使用して、組織に関する情報を取得できます。

cURL を使用しない場合は、ワークベンチ REST エクスプローラを使用して応答データを取得できます。


1. 組織にログインします。
2. 新しいブラウザタブを開き、<https://developer.salesforce.com/page/Workbench> に移動します。
3. ワークベンチにログインし、組織へのアクセスを許可します。ワークベンチは公開サイトであり、データは保持されません。
4. [公益事業] > [REST Explorer] をクリックします。
5. [Get] が選択されていることを確認します。[Execute(実行)] テキストボックスにリソースパスの一部があらかじめ入力されています。リソースについて残りの情報を追加します。たとえば、cURL 構文が次のようになっているとします。

```
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/describe  
-H "Authorization: Bearer token"
```

この場合は、次のように入力します。

```
/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/describe.
```

6. [Execute (実行)] をクリックします。
7. [Expand All (すべて展開)] または [Show Raw Response (未加工のレスポンスを表示)] をクリックしてデータを表示します。

 **ヒント:** 「Service not found (サービスが見つかりません)」というメッセージが表示された場合は、リソースパスを確認してください。

第3章

例

トピック:

- 組織に関する情報の取得
- オブジェクトメタデータの使用
- レコードの操作
- 検索とクエリの使用
- 最近参照した情報の操作
- ユーザパスワードの管理
- 承認プロセスとプロセスルールの操作
- イベント監視の使用
- 複合リソースの使用

このセクションでは、例を示しながら、RESTAPIリソースを使用してオブジェクト、組織情報、クエリの使用などさまざまなタスクを実行する方法を説明します。

RESTAPIリソースの完全なリファレンス情報は、「[リファレンス](#)」(ページ106)を参照してください。

組織に関する情報の取得

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、組織で使用できるすべてのオブジェクトのリストなど、組織レベルの情報を取得します。

このセクションの内容:

使用可能な REST API バージョンをリストする

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用できる各 REST API バージョンについての概要情報をリストするには、[Versions](#) リソースを使用します。バージョンのリストを取得するための認証は必要ありません。

使用可能な REST リソースをリストする

指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストするには、[Resources by Version](#) リソースを使用します。このリソースは、その他のリソースそれぞれの名前と URI を提供します。

オブジェクトのリストを取得する

組織で使用できるオブジェクトおよびログインユーザが使用できるオブジェクトをリストするには、[Describe Global](#) リソースを使用します。このリソースは、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズも返します。

メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する

[Describe Global](#) リソースおよび [If-Modified-Since](#) HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを判別できます。

使用可能な REST API バージョンをリストする

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用できる各 REST API バージョンについての概要情報をリストするには、[Versions](#) リソースを使用します。バージョンのリストを取得するための認証は必要ありません。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
[
  {
    "version" : "20.0",
    "label" : "Winter '11",
    "url" : "/services/data/v20.0"
  },
  {
    "version" : "21.0",
    "label" : "Spring '11",
    "url" : "/services/data/v21.0"
  },
]
```

```

...
{
  "version" : "26.0",
  "label" : "Winter '13",
  "url" : "/services/data/v26.0"
}
]

```

XML レスポンスボディの例

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Versions>
  <Version>
    <label>Winter &apos;11</label>
    <url>/services/data/v20.0</url>
    <version>20.0</version>
  </Version>
  <Version>
    <label>Spring &apos;11</label>
    <url>/services/data/v21.0</url>
    <version>21.0</version>
  </Version>
  ...
  <Version>
    <label>Winter &apos;13</label>
    <url>/services/data/v26.0</url>
    <version>26.0</version>
  </Version>
</Versions>

```

使用可能な REST リソースをリストする

指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストするには、[Resources by Version](#) リソースを使用します。このリソースは、その他のリソースそれぞれの名前と URI を提供します。

例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v26.0/ -H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```

{
  "subjects" : "/services/data/v26.0/subjects",
  "licensing" : "/services/data/v26.0/licensing",
  "connect" : "/services/data/v26.0/connect",
  "search" : "/services/data/v26.0/search",
  "query" : "/services/data/v26.0/query",
  "tooling" : "/services/data/v26.0/tooling",
  "chatter" : "/services/data/v26.0/chatter",

```

```

    "recent" : "/services/data/v26.0/recent"
  }

```

XML レスポンスボディの例

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<urls>
  <subjects>/services/data/v26.0/subjects</subjects>
  <licensing>/services/data/v26.0/licensing</licensing>
  <connect>/services/data/v26.0/connect</connect>
  <search>/services/data/v26.0/search</search>
  <query>/services/data/v26.0/query</query>
  <tooling>/services/data/v26.0/tooling</tooling>
  <chatter>/services/data/v26.0/chatter</chatter>
  <recent>/services/data/v26.0/recent</recent>
</urls>

```

オブジェクトのリストを取得する

組織で使用できるオブジェクトおよびログインユーザが使用できるオブジェクトをリストするには、[Describe Global](#) リソースを使用します。このリソースは、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズも返します。

使用例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v37.0/subjects/ -H "Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

{
  "encoding" : "UTF-8",
  "maxBatchSize" : 200,
  "subjects" : [ {
    "activateable" : false,
    "custom" : false,
    "customSetting" : false,
    "createable" : true,
    "deletable" : true,
    "deprecatedAndHidden" : false,
    "feedEnabled" : true,
    "keyPrefix" : "001",
    "label" : "Account",
    "labelPlural" : "Accounts",
    "layoutable" : true,
    "mergeable" : true,
    "mruEnabled" : true,
    "name" : "Account",
    "queryable" : true,
    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,

```

```

    "searchable" : true,
    "triggerable" : true
    "undeletable" : true,
    "updateable" : true,
    "urls" : {
      "subject" : "/services/data/v37.0/subjects/Account",
      "describe" : "/services/data/v37.0/subjects/Account/describe",
      "rowTemplate" : "/services/data/v37.0/subjects/Account/{ID}"
    },
  },
  ...
]
}

```

メタデータが変更された場合にオブジェクトのリストを取得する

Describe Global リソースおよび If-Modified-Since HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを判別できます。

Describe Global リソースを使用するときに、If-Modified-Since ヘッダーを `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` 形式の日付と共に含めることができます。このヘッダーを使用すると、指定した日付以降に使用可能なオブジェクトのメタデータが変更された場合にのみ応答のメタデータが返されます。指定の日付以降にメタデータが変更されていない場合は、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

次の例では、2015年3月23日以降にオブジェクトが変更されていないことを前提としています。

Describe Global 要求の例

```
/services/data/v34.0/subjects
```

要求で使用される If-Modified-Since ヘッダーの例

```
If-Modified-Since: Tue, 23 Mar 2015 00:00:00 GMT
```

レスポンスボディの例

レスポンスボディは返されない

応答状況コードの例

```
HTTP/1.1 304 Not Modified
Date: Wed, 25 Jul 2015 00:05:46 GMT
```

2015年3月23日以降にオブジェクトに変更があった場合は、レスポンスボディにすべての使用可能なオブジェクトのメタデータが含まれます。「[オブジェクトのリストを取得する](#)」の例を参照してください。

オブジェクトメタデータの使用

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、オブジェクトメタデータ情報を取得します。オブジェクトメタデータ情報の変更または作成についての詳細は、『[メタデータ API 開発者ガイド](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

オブジェクトのメタデータを取得する

オブジェクトのメタデータを取得するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する

各項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[sObject Describe](#) リソースを使用します。

オブジェクトのメタデータの変更の取得

[sObject Describe](#) リソースおよび `If-Modified-Since` HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを確認できます。

オブジェクトのメタデータを取得する

オブジェクトのメタデータを取得するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

Account メタデータを取得する場合の使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H
"Authorization: Bearer token"
```

Account メタデータを取得する場合のリクエストボディの例 不要

Account メタデータを取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "objectDescribe" :
  {
    "name" : "Account",
    "updateable" : true,
    "label" : "Account",
    "keyPrefix" : "001",

    ...

    "replicateable" : true,
    "retrieveable" : true,
    "undeletable" : true,
    "triggerable" : true
  },
  "recentItems" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVeIAL"
      },
      "Id" : "001D000000INjVeIAL",
      "Name" : "asdasdasd"
    },
  ],
}
```



```

    ...
  ]
}

```

項目名やメタデータを含む、オブジェクトの完全な説明を取得するには、「[オブジェクトのリストを取得する](#)」を参照してください。

オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する

各項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[sObject Describe](#) リソースを使用します。

例

```

https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/describe/ -H
"Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

{
  "name" : "Account",
  "fields" :
  [
    {
      "length" : 18,
      "name" : "Id",
      "type" : "id",
      "defaultValue" : { "value" : null },
      "updateable" : false,
      "label" : "Account ID",
      ...
    },
    ...
  ],

  "updateable" : true,
  "label" : "Account",
  "keyPrefix" : "001",
  "custom" : false,

  ...

  "urls" :
  {
    "uiEditTemplate" : "https://https://yourInstance.salesforce.com/{ID}/e",
    "subject" : "/services/data/v20.0/subjects/Account",
    "uiDetailTemplate" : "https://https://yourInstance.salesforce.com/{ID}",
  }
}

```

```

    ...
  },
  "childRelationships" :
  [
    {
      "field" : "ParentId",
      "deprecatedAndHidden" : false,
      ...
    },
    ....
  ],
  "createable" : true,
  "customSetting" : false,
  ...
}

```

オブジェクトのメタデータの変更の取得

sObject Describe リソースおよび If-Modified-Since HTTP ヘッダーを使用して、オブジェクトのメタデータが変更されたかどうかを確認できます。

SObject Describe リソースを使用するときに、If-Modified-Since ヘッダーを `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` 形式の日付と共に含めることができます。このヘッダーを使用すると、指定した日付以降にオブジェクトのメタデータが変更された場合にのみ応答のメタデータが返されます。指定の日付以降にメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで `304 Not Modified` 状況コードが返されます。

次の例では、2013年7月3日以降に新しいカスタム項目などの Merchandise__c オブジェクトに行われた変更がないことを前提としています。

sObject Describe 要求の例

```
/services/data/v29.0/objects/Merchandise__c/describe
```

要求で 사용되는 If-Modified-Since ヘッダーの例

```
If-Modified-Since: Wed, 3 Jul 2013 19:43:31 GMT
```

レスポンスボディの例

レスポンスボディは返されない

応答状況コードの例

```
HTTP/1.1 304 Not Modified
Date: Fri, 12 Jul 2013 05:03:24 GMT
```

2013年7月3日以降に Merchandise__c に変更があった場合は、レスポンスボディには Merchandise__c のメタデータが含まれます。例については、「[オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する](#)」を参照してください。

レコードの操作

このセクションの例では、REST API リソースを使用してレコードの作成、取得、更新、削除とその他のレコード関連操作を実行します。

このセクションの内容:

レコードを作成する

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。要求データの必須項目値を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。コールが成功すると、レスポンスボディに、作成されたレコードの ID が含まれます。

レコードを更新する

レコードを更新するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。要求データに更新するレコード情報を指定し、リソースの PATCH メソッドを使用して、特定のレコードの ID を指定し、そのレコードを更新します。1つのファイルに含まれるレコードは、同じオブジェクト種別である必要があります。

レコードを削除する

レコードを削除するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。レコード ID を指定し、リソースの DELETE メソッドを使用してレコードを削除します。

標準オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、[sObject Rows](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

外部 ID を使用してレコードを取得する

[sObject Rows by External ID](#) リソースの GET メソッドを使用して、特定の外部 ID でレコードを取得できます。

外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、レコードを作成するか、既存のレコードを挿入/更新 (Upsert) するには、[sObject Rows by External ID](#) リソースを使用します。

フレンドリー URL を使用したリレーションのトラバース

オブジェクトのリレーション項目をトラバースするには、[sObject Relationship](#) リソースを使用して、フレンドリー URL を作成します。この方法では、リレーションに関連付けられたレコードに直接アクセスできます。フレンドリー URL を使用する方が、リレーション項目からオブジェクト ID を取得し、関連付けられたオブジェクト ID レコードを調べて、レコードにアクセスするよりも簡単です。

レコードから添付ファイルコンテンツを取得する

特定のレコードの blob データを取得するには、[sObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

Blob データを挿入または更新する

[SObject Basic Information](#) および [SObject Rows](#) REST リソースを使用して、Salesforce 標準オブジェクトの blob データを挿入または更新できます。任意の種類ファイルをアップロードできますが、MIME マルチパートコンテンツタイプ標準に準拠するマルチパートメッセージを使用する必要があります。詳細は、「[WC3 標準](#)」を参照してください。blob 項目を含む標準オブジェクトのファイルを挿入/更新できます。ContentVersion オブジェクトのアップロードの最大ファイルサイズは 2 GB ですが、使用可能な他の標準オブジェクトの場合は 500 MB です。

特定の期間に削除されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの削除されたレコードのリストを取得するには、[sObjectGetDeleted](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが削除された日時の範囲を指定します。削除されたレコードは削除ログ(定期的に消去される)に書き込まれ、sObject 行、クエリなどのほとんどの操作対象から除外されます(ただし、QueryAll では削除されたレコードが結果に含まれます)。

特定の期間に更新されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの更新(変更または追加)されたレコードのリストを取得するには、[sObjectGetUpdated](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが更新された日時の範囲を指定します。

レコードを作成する

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。要求データの必須項目値を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。コールが成功すると、レスポンスボディに、作成されたレコードの ID が含まれます。

次の例では、newaccount.json に指定された項目値で新規 Account レコードを作成します。

新規 Account を作成する例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/ -H
"Authorization: Bearer token -H "Content-Type: application/json" -d "@newaccount.json"
```

新規 Account を作成する場合のリクエストボディ newaccount.json ファイルの例

```
{
  "Name" : "Express Logistics and Transport"
}
```

新規 Account が正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```
{
  "id" : "001D000000IqhSLIAZ",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

レコードを更新する

レコードを更新するには、[sObjectRows](#) リソースを使用します。要求データに更新するレコード情報を指定し、リソースの PATCH メソッドを使用して、特定のレコードの ID を指定し、そのレコードを更新します。1つのファイルに含まれるレコードは、同じオブジェクト種別である必要があります。

次の例では、Account 内の請求先市区郡の情報 (BillingCity) が更新されます。更新するレコード情報は patchaccount.json に指定されています。

Account オブジェクトを更新する例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVe
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d
@patchaccount.json -X PATCH
```

Account オブジェクトの項目を更新する場合のリクエストボディ patchaccount.json ファイルの例

```
{
  "BillingCity" : "San Francisco"
}
```

Account オブジェクトの項目を更新する場合のレスポンスボディの例 戻り値なし

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

次の例では、Java と HttpClient を使用し、REST API を使用してレコードを更新します。HttpClient に PatchMethod がないため、PostMethod が上書きされてメソッド名として「PATCH」が返されます。この例では、オブジェクト名とレコード ID が含まれるリソース URL が渡されていると想定します。

```
public static void patch(String url, String sid) throws IOException {
    PostMethod m = new PostMethod(url) {
        @Override public String getName() { return "PATCH"; }
    };

    m.setRequestHeader("Authorization", "OAuth " + sid);

    Map<String, Object> accUpdate = new HashMap<String, Object>();
    accUpdate.put("Name", "Patch test");
    ObjectMapper mapper = new ObjectMapper();
    m.setRequestEntity(new StringRequestEntity(mapper.writeValueAsString(accUpdate),
"application/json", "UTF-8"));

    HttpClient c = new HttpClient();
    int sc = c.executeMethod(m);
    System.out.println("PATCH call returned a status code of " + sc);
    if (sc > 299) {
        // deserialize the returned error message
        List<ApiError> errors = mapper.readValue(m.getResponseBodyAsStream(), new
TypeReference<List<ApiError>>() {} );
        for (ApiError e : errors)
            System.out.println(e.errorCode + " " + e.message);
    }
}

private static class ApiError {
    public String errorCode;
    public String message;
}
```

```
public String [] fields;
}
```

任意の HTTP メソッド名の上書きまたは設定を許可しない HTTP ライブラリを使用している場合、POST 要求を送信して、クエリ文字列パラメータ `_HttpMethod` を介して HTTP メソッドを上書きすることができます。この PATCH の例では、`PostMethod` の行を上書きを使用しない行に置き換えることができます。

```
PostMethod m = new PostMethod(url + "?_HttpMethod=PATCH");
```

レコードを削除する

レコードを削除するには、`sObjectRows` リソースを使用します。レコード ID を指定し、リソースの DELETE メソッドを使用してレコードを削除します。

Account レコードを削除する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVe
-H "Authorization: Bearer token" -X DELETE
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

戻り値なし

標準オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、`sObjectRows` リソースを使用します。`fields` パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、Account から取引先番号 (AccountNumber) と請求先の郵便番号 (BillingPostalCode) を取得します。

Account レコードの項目から値を取得する例

```
/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000INjVe
?fields=AccountNumber,BillingPostalCode
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "AccountNumber" : "CD656092",
  "BillingPostalCode" : "27215",
}
```

Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、`sObjectRows` リソースを使用します。 `fields` パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、`Country__c` カスタム項目が、データが大量ではない外部データソースに関連付けられた外部オブジェクトから取得されます。

Customer 外部オブジェクトの項目から値を取得する例

```
/services/data/v32.0/subjects/Custom__x/x01D0000000002RIAQ?fields=Country__c
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Custom__x",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Custom__x/x01D0000000002RIAQ"
  },
  "Country__c" : "Argentina",
  "Id" : "x01D0000000002RIAQ"
}
```

外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する

レコードから項目値を取得するには、`sObjectRows` リソースを使用します。 `fields` パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

次の例では、`Country__c` カスタム項目が外部オブジェクトから取得されます。 `id` (CACTU) は Salesforce ID ではありません。外部オブジェクトの外部 ID 標準項目です。

Customer 外部オブジェクトの項目から値を取得する例

```
/services/data/v32.0/subjects/Custom__x/CACTU?fields=Country__c
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Custom__x",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Custom__x/CACTU"
  },
  "Country__c" : "Argentina",
  "ExternalId" : "CACTU"
}
```

外部 ID を使用してレコードを取得する

[sObject Rows by External ID](#) リソースの GET メソッドを使用して、特定の外部 ID でレコードを取得できます。

次の例では、MerchandiseExtID__c 外部 ID 項目を持つ Merchandise__c カスタムオブジェクトがあると想定します。

外部 ID を使用して Merchandise__c レコードを取得する場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Merchandise__c/MerchandiseExtID__c/123
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Merchandise__c",
    "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Merchandise__c/a00D00000008oWP8IAM"
  },
  "Id" : "a00D00000008oWP8IAM",
  "OwnerId" : "005D00000001KyEIIA0",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "Example Merchandise",
  "CreateDate" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
  "CreatedById" : "005D00000001KyEIIA0",
  "LastModifiedDate" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D00000001KyEIIA0",
  "SystemModstamp" : "2012-07-12T17:49:01.000+0000",
  "Description__c" : "Merch with external ID",
  "Price__c" : 10.0,
  "Total_Inventory__c" : 100.0,
  "Distributor__c" : null,
  "MerchandiseExtID__c" : 123.0
}
```

外部 ID を使用してレコードを挿入/更新 (Upsert) する

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、レコードを作成するか、既存のレコードを挿入/更新 (Upsert) するには、[sObject Rows by External ID](#) リソースを使用します。

- 指定された値が存在しない場合、新しいレコードが作成されます。
- 指定された値のレコードが存在する場合、リクエストボディに指定された項目値が更新されます。
- 値が一意でない場合、REST API によって、一致するレコードのリストと共に HTTP 状況コード 300 が返されません。

以降のセクションでは、外部 ID リソースを使用して外部 ID でレコードを取得する方法とレコードを Upsert する方法を説明します。

新規レコードの Upsert

この例では、PATCH メソッドを使用して新規レコードを挿入します。外部 ID 項目「customExtIdField__c」がすでに Account に追加されていると想定します。また、customExtIdField 値が 11999 の Account レコードがまだ存在していないと想定します。

まだ存在していないレコードを Upsert する例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/customExtIdField__c/11999
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @newrecord.json
-X PATCH
```

JSON リクエストボディ newrecord.json ファイルの例

```
{
  "Name" : "California Wheat Corporation",
  "Type" : "New Customer"
}
```

応答

成功時の応答は次のとおりです。

```
{
  "id" : "00190000001pPvHAAU",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

新しいレコードが作成されると、HTTP 状況コード 201 が返されます。

エラー応答

外部 ID 項目が不正な場合は、次のような応答が返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```

詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

Id を外部 ID として使用した新規レコードの挿入

この例では、特殊なケースとして POST メソッドを使用し、Id 項目が外部 ID として処理されるレコードを挿入します。Id の値は null であるため、要求から除外されます。このパターンは、異なる外部 ID によって複数のレコードを Upsert するコードを記述していて、個別のリソースを要求したくない場合に役立ちます。Id を使用する POST は、API バージョン 37.0 以降で使用できます。

まだ存在していないレコードを挿入する例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v37.0/subjects/Account/Id -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @newrecord.json
-X POST
```

JSON リクエストボディ `newrecord.json` ファイルの例

```
{
  "Name" : "California Wheat Corporation",
  "Type" : "New Customer"
}
```

応答

成功時の応答は次のとおりです。

```
{
  "id" : "001D000000Kv3g5IAB",
  "success" : true,
  "errors" : [ ]
}
```

レコードが作成されると、HTTP 状況コード 201 が返されます。

既存のレコードの Upsert

この例では、PATCH メソッドを使用して既存のレコードを更新します。外部 ID 項目「`customExtIdField__c`」がすでに Account に追加されていて、`customExtIdField` 値が 11999 の Account レコードがすでに存在すると想定します。要求では `updates.json` を使用して更新する項目値を指定します。

既存のレコードを Upsert する例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/customExtIdField__c/11999
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @updates.json
-X PATCH
```

JSON リクエストボディ `updates.json` ファイルの例

```
{
  "BillingCity" : "San Francisco"
}
```

応答の例 (JSON)

既存のレコードが更新される場合、HTTP 状況コード 204 が返されます。

エラー応答

外部 ID 値が一意でない場合、HTTP 状況コード 300 が返され、さらにクエリに一致したレコードのリストが返されます。エラーについての詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

外部 ID 項目が存在しない場合、エラーメッセージとコードが返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```

レコードの Upsert と外部 ID との関連付け

オブジェクトでリレーションを使用して他のオブジェクトを参照する場合、REST API を使用し、レコードの挿入/更新の両方と、さらに外部 ID を使用した別のオブジェクトの参照も行うことができます。

次の例では、レコードを作成し、外部 ID を介して親レコードに関連付けます。次の条件を想定します。

- Merchandise__c カスタムオブジェクトには、外部 ID 項目 MerchandiseExtID__c がある。
- Line_Item__c カスタムオブジェクトには、外部 ID 項目 LineItemExtID__c と、Merchandise__c へのリレーションがある。
- MerchandiseExtID__c 値が 123 の Merchandise__c レコードが存在する。
- LineItemExtID__c 値が 456 の Line_Item__c レコードは存在しない。これは作成され、Merchandise__c レコードに関連付けられるレコードです。

レコードを Upsert して関連オブジェクトを参照する例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/Line_Item__c/LineItemExtID__c/456
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @new.json -X
PATCH
```

JSON リクエストボディ new.json ファイルの例

関連する Merchandise__c レコードは、Merchandise__c の外部 ID 項目を使用して参照されます。

```
{
  "Name" : "LineItemCreatedViaExtID",
  "Merchandise__r" :
  {
    "MerchandiseExtID__c" : 123
  }
}
```

応答の例 (JSON)

作成が成功すると、HTTP 状況コード 201 が返されます。

```
{
  "id" : "a02D00000006YUhrIAO",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

エラー応答

外部 ID 値が一意でない場合、HTTP 状況コード 300 が返され、さらにクエリに一致したレコードのリストが返されます。エラーについての詳細は、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

外部 ID 項目が存在しない場合、エラーメッセージとコードが返されます。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```

既存のレコードの更新には次の方法を使用することもできます。たとえば、上記の例の Line_Item__c を作成した場合は、別の要求を使用して関連する Merchandise__c の更新を試みることができます。

レコードを更新する例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/Line_Item__c/LineItemExtID__c/456
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @updates.json
-X PATCH
```

JSON リクエストボディ `updates.json` ファイルの例

ここでは、`MerchandiseExtID__c` 値が 333 の別の `Merchandise__c` レコードが存在すると想定します。

```
{
  "Merchandise__r" :
  {
    "MerchandiseExtID__c" : 333
  }
}
```

応答の例 (JSON)

既存のレコードが更新される場合、HTTP 状況コード 204 が返されます。

リレーション種別が主従関係で、リレーションが親の変更を許可しないように設定されている場合、親の外部 ID を更新しようとすると、HTTP 状況コード 400 エラーとエラーコード `INVALID_FIELD_FOR_INSERT_UPDATE` が返されます。

フレンドリー URL を使用したリレーションのトラバース

オブジェクトのリレーション項目をトラバースするには、`SObject Relationship` リソースを使用して、フレンドリー URL を作成します。この方法では、リレーションに関連付けられたレコードに直接アクセスできます。フレンドリー URL を使用する方が、リレーション項目からオブジェクト ID を取得し、関連付けられたオブジェクト ID レコードを調べて、レコードにアクセスするよりも簡単です。

リレーション名は、リレーションの方向 (親から子または子から親) と関連オブジェクトの名前によって決まる特定の規則に従います。規則については、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』の「[リレーション名について](#)」を参照してください。

1つの REST API コールで行うことができるリレーションのトラバース数には制限があります。これらの制限は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』の「[リレーションクエリ制限について](#)」に記載されている SOQL の制限と同じです。リレーションをトラバースする場合は、次の制限に注意してください。

- 子-親リレーションを指定する場合、5つ以下のレベルをトラバースできます。次の例では、2つの子-親リレーションをトラバースします。

```
https://instance name.salesforce.com/services/data/v38.0/subjects/ChildOfChild__c/record id/Child__r/ParentOfChild__r
```

- 親子リレーションを指定する場合、1つ以下のレベルをトラバースできます。次の例では、1つの親子リレーションをトラバースします。

```
https://instance name.salesforce.com/services/data/v38.0/subjects/ParentOfChild__c/record id/Child__r
```

単純なリレーションをトラバースする場合の例

Merchandise__c という名前のこのカスタムオブジェクトには、子 Distributor__c カスタムオブジェクトへの参照関係項目が含まれています。次の例では、Merchandise__c レコードに関連する Distributor__c レコードを取得します。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r
-H "Authorization: Bearer token"
```

単純なリレーションをトラバースする場合のリクエストボディの例 不要

単純なリレーションをトラバースする場合のレスポンスボディの例

```
{
  "attributes" :
  {
    "type" : "Distributor__c",
    "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Distributor__c/a03D0000003DUhcIAG"
  },
  "Id" : "a03D0000003DUhcIAG",
  "OwnerId" : "005D0000001KyEIIA0",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "Distributor1",
  "CreateDate" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "CreatedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "LastModifiedDate" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "SystemModstamp" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "Location__c" : "San Francisco"
}
```

リレーション名に関連付けられている関連レコードがない場合、リレーションをトラバースできないため、REST API コールは失敗します。Merchandise__c レコードの Distributor__c 項目が null に設定されている場合、前の例を使用すると、GET コールで 404 エラー応答が返されます。

リレーションクエリの制限を超えない限り、1つの REST API コールで同じリレーション階層内の複数のリレーションをトラバースできます。Line_Item__c カスタムオブジェクトに Merchandise__c カスタムオブジェクトに対する子リレーションがあり、Merchandise__c に子 Distributor__c カスタムオブジェクトもある場合、次のように Line_Item__c レコードから Distributor__c レコードにアクセスできます。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Line_Item__c/a02D0000006YL7XIAW/Merchandise__r/Distributor__r
-H "Authorization: Bearer token"
```

1つのレコードに解決されるリレーションをトラバースする場合、PATCH および DELETE メソッドもサポートされます。PATCH メソッドを使用して、関連レコードを更新できます。

PATCH を使用してリレーションレコードを更新する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r
-H "Authorization: Bearer token" -d @update_info.json -X PATCH
```

`update_info.json` に含まれているリレーションレコードを更新する場合のJSONリクエストボディの例

```
{
  "Location__c" : "New York"
}
```

リレーションレコードを更新する場合のレスポンスボディの例
戻り値なし

DELETE メソッドを使用して、関連レコードを削除できます。

DELETE を使用してリレーションレコードを削除する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r
-H "Authorization: Bearer token" -X DELETE
```

リレーションレコードを削除する場合のレスポンスボディの例
不要

リレーションレコードを更新する場合のレスポンスボディの例
戻り値なし

複数のレコードのあるリレーションのトラバース

複数のレコードのあるリレーションをトラバースして、一連のレコードを含む応答を取得できます。複数のレコードに解決されるリレーションの場合、GET メソッドのみがサポートされます。

複数のレコードのあるリレーションをトラバースする場合の例

Merchandise__c という名前のカスタムオブジェクトに Line_Item__c カスタムオブジェクトに対する主従関係項目が含まれている場合、次の例では Merchandise__c レコードに関連する一連の Line_Item__c レコードが取得されます。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Line_Items__r
-H "Authorization: Bearer token"
```

複数のレコードのあるリレーションをトラバースする場合のリクエストボディの例
不要

複数のレコードのあるリレーションをトラバースする場合のレスポンスボディの例
この例の場合、2つの Line_Item__c レコードが取得されています。

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 2,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Line_Item__c",
        "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Line_Item__c/a02D00000006YL7XIAW"
```

```

    },
    "Id" : "a02D0000006YL7XIAW",
    "IsDeleted" : false,
    "Name" : "LineItem1",
    "CreateDate" : "2011-12-16T17:44:07.000+0000",
    "CreatedById" : "005D0000001KyEIIA0",
    "LastModifiedDate" : "2011-12-16T17:44:07.000+0000",
    "LastModifiedById" : "005D0000001KyEIIA0",
    "SystemModstamp" : "2011-12-16T17:44:07.000+0000",
    "Unit_Price__c" : 9.75,
    "Units_Sold__c" : 10.0,
    "Merchandise__c" : "a00D00000008oLnXIAU",
    "Invoice_Statement__c" : "a01D0000000D85hkIAB"
  },
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Line_Item__c",
      "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Line_Item__c/a02D0000006YL7YIAW"
    }
  },
  "Id" : "a02D0000006YL7YIAW",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "LineItem2",
  "CreateDate" : "2011-12-16T18:53:59.000+0000",
  "CreatedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "LastModifiedDate" : "2011-12-16T18:53:59.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "SystemModstamp" : "2011-12-16T18:54:00.000+0000",
  "Unit_Price__c" : 8.5,
  "Units_Sold__c" : 8.0,
  "Merchandise__c" : "a00D00000008oLnXIAU",
  "Invoice_Statement__c" : "a01D0000000D85hkIAB"
}
]
}

```

結果データの逐次化された構造は、REST API を使用して SOQL クエリを実行した結果データと同じ形式です。REST API を使用した SOQL クエリの実行についての詳細は、「[Query](#)」(ページ 192)を参照してください。

リレーション名に関連付けられている関連レコードがない場合、REST API コールで 200 応答が返され、レスポンスボディにレコードデータはありません。この結果は、1つのレコードに対する空のリレーションをトラバースした場合の結果(404 エラー応答が返される)とは異なります。1つのレコードの場合、PATCH または DELETE メソッドで使用できる REST リソースに解決されるため、この動作が発生します。一方、複数のレコードの場合はクエリすることしかできません。

複数のレコードのあるリレーションの最初の GET 要求クエリで結果の一部のみが返される場合、応答の最後に `nextRecordsUrl` という項目が含まれます。たとえば、応答の最後で次のような項目が取得されます。

```
"nextRecordsUrl" : "/services/data/v38.0/query/01gD00000002HU6KIAW-2000"
```

インスタンスおよびセッション情報と共に提供された URL を使用してレコードの次のバッチを要求し、すべてのレコードが取得されるまでこの操作を繰り返すことができます。これらの要求では `nextRecordsUrl` が使用され、パラメータは含まれません。レコードの最後のバッチには `nextRecordsUrl` 項目が含まれます。

残りの結果を取得する場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000
-H "Authorization: Bearer token"
```

残りの結果を取得する場合のリクエストボディの例

不要

残りの結果を取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 3200,
  "records" : [...]
}
```

結果項目の絞り込み

リレーションのトラバースでレコードを取得する場合、必要に応じて `fields` パラメータを使用して、レコード項目のサブセットのみが返されるように指定できます。複数の項目はカンマで区切られます。次の例では、`Merchandise__c` レコードに関連付けられた `Distributor__c` レコードから `Location__c` 項目のみを取得します。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r?fields=Location__c
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON 応答データは、次のようになります。

```
{
  "attributes" :
  {
    "type" : "Distributor__c",
    "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Distributor__c/a03D0000003DUhhIAG"
  },
  "Location__c" : "Chicago",
}
```

同様に、複数のレコードになる要求の場合、項目のリストを使用して、レコードセットで返される項目を指定できます。たとえば、2つの `Line_Item__c` レコードに関連付けられたリレーションがあるとします。これらのレコードから `Name` 項目と `Units_Sold__c` 項目のみを取得する場合、次のコールを使用できます。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r?fields=Name,Units_Sold__c
-H "Authorization: Bearer token"
```

応答データは、次のようになります。

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 2,
  "records" :
  [
    {
```



```

    "attributes" :
    {
      "type" : "Line_Item__c",
      "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Line_Item__c/a02D0000006YL7XIAW"
    },
    "Name" : "LineItem1",
    "Units_Sold__c" : 10.0
  },
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Line_Item__c",
      "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Line_Item__c/a02D0000006YL7YIAW"
    },
    "Name" : "LineItem2",
    "Units_Sold__c" : 8.0
  }
]
}

```

項目パラメータセットにリストされている項目が有効なユーザに表示されない場合、REST API コールは失敗します。前の例では、Units_Sold__c項目が項目レベルセキュリティで有効なユーザに表示されない場合、コールで 400 エラー応答が返されます。

レコードから添付ファイルコンテンツを取得する

特定のレコードの blob データを取得するには、[sObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

次の例では、Attachment レコードの blob データを取得します。Attachment は、Case、Campaign、または添付ファイルを許可するその他のオブジェクトに関連付けることができます。

Attachment レコードの blob 本文を取得する例

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Attachment/001D000000INjVe/body
-H "Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

Attachmentの本文コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプはJSONでもXMLでもありません。

次の例では、Document レコードの blob データを取得します。

Document レコードの blob 本文を取得する例

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Document/015D0000000NdJOIA0/body
-H "Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例


不要

レスポンスボディの例

Document の本文コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプは JSON でも XML でもありません。

Blob データを挿入または更新する

[SObject Basic Information](#) および [SObject Rows](#) REST リソースを使用して、Salesforce 標準オブジェクトの blob データを挿入または更新できます。任意の種類 of ファイルをアップロードできますが、MIME マルチパートコンテンツタイプ標準に準拠するマルチパートメッセージを使用する必要があります。詳細は、「[WC3 標準](#)」を参照してください。blob 項目を含む標準オブジェクトのファイルを挿入/更新できます。ContentVersion オブジェクトのアップロードの最大ファイルサイズは 2 GB ですが、使用可能な他の標準オブジェクトの場合は 500 MB です。

 **メモ:** 非マルチパートメッセージを使用して blob データを挿入/更新できますが、これを行う場合、テキストデータは 50 MB まで、base64 で符号化されたデータは 37.5 MB までに制限されます。


リクエストメッセージボディの最初のパートには、Description または Name などの非バイナリ項目データが含まれます。メッセージの 2 つ目のパートには、アップロードするファイルのバイナリデータが含まれます。

この後のセクションでは、マルチパートコンテンツタイプを使用して blob データを挿入/更新する JSON の例を示します。

- [新規 Document の挿入](#)
- [Document の更新](#)
- [ContentVersion の挿入](#)
- [マルチパートメッセージの考慮事項](#)

新規 Document の挿入

このセクションには、新規 Document を作成するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、Description、Keywords、Name などの他の項目データも指定されています。

 **ヒント:** 新規 Document を追加すると、[ドキュメント] タブで変更の結果を確認できます。

新規 Document を作成する例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v23.0/subjects/Document/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data;
boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @newdocument.json
```

新規 Document を作成する場合のリクエストボディの例

このコードは、newdocument.json のコンテンツです。ここでは、簡潔にするために PDF コンテンツのバイナリデータは省略され、「Binary data goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```
--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_document";
Content-Type: application/json

{
  "Description" : "Marketing brochure for Q1 2011",
```

```

    "Keywords" : "marketing,sales,update",
    "FolderId" : "005D0000001GiU7",
    "Name" : "Marketing Brochure Q1",
    "Type" : "pdf"
  }

--boundary_string
Content-Type: application/pdf
Content-Disposition: form-data; name="Body"; filename="2011Q1MktgBrochure.pdf"

Binary data goes here.

--boundary_string--

```

新規 Document を作成する場合のレスポンスボディの例
成功すると、新規 Document の ID が返されます。

```

{
  "id" : "015D0000000N3ZZIA0",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}

```

エラー応答の例

```

{
  "fields" : [ "FolderId" ],
  "message" : "Folder ID: id value of incorrect type: 005D0000001GiU7",
  "errorCode" : "MALFORMED_ID"
}

```

Document の更新

このセクションには、既存の Document を更新するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、Name や Keywords などの他の項目データも更新されます。

Document オブジェクトの項目を更新する場合の使用例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v23.0/Document/015D0000000N3ZZIA0
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data;
boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @UpdateDocument.json -X PATCH

```

Document オブジェクトの項目を更新する場合のリクエストボディの例

このコードは、UpdateDocument.json ファイルのコンテンツです。ここでは、簡潔にするために PDF コンテンツのバイナリデータは省略され、「Updated document binary goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```

--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_content";
Content-Type: application/json

{
  "Name" : "Marketing Brochure Q1 - Sales",
  "Keywords" : "sales, marketing, first quarter"
}

```

```

}

--boundary_string
Content-Type: application/pdf
Content-Disposition: form-data; name="Body"; filename="2011Q1MktgBrochure.pdf"

Updated document binary data goes here.

--boundary_string--

```

Document オブジェクトの項目を更新する場合のレスポンスボディの例

戻り値なし

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

ContentVersion の挿入

このセクションには、新規ContentVersionを挿入するための構文とコードが含まれます。ファイル自体のバイナリデータの他に、ReasonForChange や PathOnClient などの他の項目も更新されます。ContentVersion は、必ずContentDocumentに関連付けられているため、このメッセージにはContentDocumentIdが含まれます。



ヒント: ContentVersion オブジェクトは update をサポートしていません。したがって ContentVersion を更新することはできませんが、新しいContentVersionを挿入できます。変更の結果は、[コンテンツ]タブで確認できます。

ContentVersion を挿入する場合の使用例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v23.0/subjects/ContentVersion
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: multipart/form-data;
boundary=\"boundary_string\"" --data-binary @NewContentVersion.json

```

ContentVersion を挿入する場合のリクエストボディの例

このコードは、NewContentVersion.json ファイルのコンテンツです。ここでは、簡潔にするためにPDFコンテンツのバイナリデータは省略され、「Binary data goes here.」に置き換えられています。実際の要求にはバイナリコンテンツ全体が含まれます。

```

--boundary_string
Content-Disposition: form-data; name="entity_content";
Content-Type: application/json

{
  "ContentDocumentId" : "069D00000000so2",
  "ReasonForChange" : "Marketing materials updated",
  "PathOnClient" : "Q1 Sales Brochure.pdf"
}

--boundary_string
Content-Type: application/octet-stream
Content-Disposition: form-data; name="VersionData"; filename="Q1 Sales Brochure.pdf"

Binary data goes here.

```

```
--boundary_string--
```

ContentVersion を挿入する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "id" : "068D00000000pgOIAQ",
  "errors" : [ ],
  "success" : true
}
```

ContentVersion を挿入した場合のエラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

マルチパートメッセージの考慮事項

blob データを挿入/更新するときの、マルチパートメッセージの形式に関するいくつかの考慮事項を次に示します。

境界文字列

- マルチパートメッセージの各パートを区分します。
- マルチパートコンテンツタイプで必須です。
- 70 文字まで入力できます。
- メッセージパートのどの部分にも出現しない文字列値である必要があります。
- 最初の境界文字列には、2つのハイフン (-) をプレフィックスとして使用する必要があります。
- 最後の境界文字列には、2つのハイフン (-) をポストフィックスとして使用する必要があります。

Content-Disposition ヘッダー

- 各メッセージパートで必須です。
- 値は `form-data` であり、`name` 属性が必要です。
 - 非バイナリのメッセージパートでは、`name` 属性に任意の値を使用できます。
 - バイナリのメッセージパートでは、`name` 属性に、バイナリデータを含むオブジェクト項目の名前が含まれている必要があります。新規 Document を追加した前の例では、ファイルを含むバイナリ項目の名前は「Body」です。
- バイナリのメッセージパートには、ローカルファイルの名前を表す `filename` 属性が必要です。

Content-Type ヘッダー

- 各メッセージパートで必須です。
- 非バイナリのメッセージパートでサポートされているコンテンツタイプは、`application/json` と `application/xml` です。
- バイナリのメッセージパートの `Content-Type` ヘッダーには、任意の値を使用できます。

改行

メッセージパートのヘッダーとそのパートのデータの間、改行が必要です。コード例で示されるとおり、`Content-Type` ヘッダーや `Content-Disposition` ヘッダーと、JSON または XML の間に改行が必要です。

バイナリのパートでは、Content-Type ヘッダーや Content-Disposition ヘッダーとバイナリデータの間に改行が必要です。

特定の期間に削除されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの削除されたレコードのリストを取得するには、[sObject Get Deleted](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが削除された日時の範囲を指定します。削除されたレコードは削除ログ(定期的に消去される)に書き込まれ、sObject 行、クエリなどのほとんどの操作対象から除外されます(ただし、QueryAll では削除されたレコードが結果に含まれます)。

2013年5月5日～2013年5月10日に削除された Merchandise__c レコードのリストを取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/subjects/Merchandise__c/deleted/
?start=2013-05-05T00%3A00%3A00%2B00%3A00&end=2013-05-10T00%3A00%3A00%2B00%3A00
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "deletedRecords" :
  [
    {
      "id" : "a00D0000008pQRAIA2",
      "deletedDate" : "2013-05-07T22:07:19.000+0000"
    }
  ],
  "earliestDateAvailable" : "2013-05-03T15:57:00.000+0000",
  "latestDateCovered" : "2013-05-08T21:20:00.000+0000"
}
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Merchandise__c>
  <deletedRecords>
    <deletedDate>2013-05-07T22:07:19.000Z</deletedDate>
    <id>a00D0000008pQRAIA2</id>
  </deletedRecords>
  <earliestDateAvailable>2013-05-03T15:57:00.000Z</earliestDateAvailable>
  <latestDateCovered>2013-05-08T21:20:00.000Z</latestDateCovered>
</Merchandise__c>
```

特定の期間に更新されたレコードのリストの取得

指定されたオブジェクトの更新(変更または追加)されたレコードのリストを取得するには、[sObject Get Updated](#) リソースを使用します。特定のオブジェクトのレコードが更新された日時の範囲を指定します。

2013年5月6日～2013年5月10日に更新された Merchandise__c レコードのリストを取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/subjects/Merchandise__c/updated/
?start=2013-05-06T00%3A00%3A00%2B00%3A00&end=2013-05-10T00%3A00%3A00%2B00%3A00
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "ids" :
  [
    "a00D0000008pQR5IAM",
    "a00D0000008pQRGIA2",
    "a00D0000008pQRFIA2"
  ],
  "latestDateCovered" : "2013-05-08T21:20:00.000+0000"
}
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Merchandise__c>
  <ids>a00D0000008pQR5IAM</ids>
  <ids>a00D0000008pQRGIA2</ids>
  <ids>a00D0000008pQRFIA2</ids>
  <latestDateCovered>2013-05-08T21:20:00.000Z</latestDateCovered>
</Merchandise__c>
```

検索とクエリの使用

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、Salesforce Object Search Language (SOSL)、Salesforce Object Query Language (SOQL)、およびその他の検索 API を使用したレコードの検索やクエリを実行します。SOSL および SOQL についての詳細は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』を参照してください。

このセクションの内容:

SOQL クエリを実行する

すべての結果を1つの応答で返すか、または必要に応じて、結果の一部と、残りの結果を取得するために使用する識別子を返す SOQL クエリを実行するには、[Query](#) リソースを使用します。

削除された項目を含む SOQL クエリを実行する

merge または delete で削除されたレコードの情報を含む SOQL クエリを実行するには、[QueryAll](#) リソースを使用します。Query リソースでは削除された項目が自動的に除外されるため、Query ではなく QueryAll を使用します。

クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する

Salesforce でクエリ、レポート、またはリストビューがどのように実行されるかについてフィードバックを取得するには、`explain` パラメータを指定して [Query](#) リソースを使用します。Salesforce では、各クエリを分析して、クエリ結果を取得するための最適な手段が検索されます。クエリおよびクエリ条件に応じて、インデックスまたは内部最適化が使用されることがあります。クエリを実際に行わずに Salesforce でクエリがどのように最適化されるかについての詳細を返すには、`explain` パラメータを使用します。応答に基づいて、クエリをセレクトティブにするための条件を追加するなどの変更を加えることによって、クエリのパフォーマンスを細かく調整するかどうかを決定できます。

文字列を検索する

SOSL 検索を実行するには、[Search](#) リソースを使用し、SOSL を使用しない簡単な RESTful 検索を実行するには、[Parameterized Search](#) リソースを使用します。

デフォルトの検索範囲と検索順序の取得

[Search Scope and Order](#) リソースを使用して、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ログインユーザのデフォルトの検索範囲と検索順序を取得します。

オブジェクトの検索結果レイアウトの取得

[Search Result Layouts](#) リソースを使用して、クエリ文字列で指定された各オブジェクトの検索結果レイアウトの設定を取得します。

関連項目の表示

関連レコードのリストを取得するには、[Relevant Items](#) リソースを使用します。

SOQL クエリを実行する

すべての結果を1つの応答で返すか、または必要に応じて、結果の一部と、残りの結果を取得するために使用する識別子を返す SOQL クエリを実行するには、[Query](#) リソースを使用します。

次のクエリは、すべての Account レコードを対象に `name` 項目の値を要求します。

クエリを実行する場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/query/?q=SELECT+name+from+Account
-H "Authorization: Bearer token"
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例
不要

クエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "done" : true,
  "totalSize" : 14,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IRFmaIAH"
      },
      "Name" : "Test 1"
    },
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v20.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
      },
      "Name" : "Test 2"
    }
  ],
}
```



```

    ...
  ]
}

```

SOQL クエリの残りの結果の取得

最初のクエリで結果の一部のみを返す場合、応答の最後に `nextRecordsUrl` という項目が含まれます。たとえば、クエリの最後に次の属性があるとします。

```
"nextRecordsUrl" : "/services/data/v20.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000"
```

この場合、レコードの次のバッチを要求し、すべてのレコードが取得されるまでこの操作を繰り返します。これらの要求は `nextRecordsUrl` を使用し、パラメータを含みません。

クエリの残りの結果を取得する場合の使用例

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000
-H "Authorization: Bearer token"

```

クエリの残りの結果を取得する場合のリクエストボディの例
不要

クエリの残りの結果を取得する場合のレスポンスボディの例

```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 3214,
  "records" : [...]
}

```

削除された項目を含む SOQL クエリを実行する

`merge` または `delete` で削除されたレコードの情報を含む SOQL クエリを実行するには、[QueryAll](#) リソースを使用します。Query リソースでは削除された項目が自動的に除外されるため、Query ではなく QueryAll を使用します。

次のクエリは、削除された `Merchandise__c` レコードが 1 つある組織で、削除されたすべての `Merchandise__c` レコードを対象に `Name` 項目の値を要求します。同じクエリに QueryAll ではなく Query を使用した場合、レコードは返されません。これは、Query では削除されたレコードがすべて結果セットから自動的に除外されるためです。

削除された `Merchandise__c` レコードのクエリを実行する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/queryAll/?q=SELECT+Name+from+Merchandise__c+WHERE+isDeleted+=+TRUE
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例
不要

クエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```

{
  "done" : true,

```

```

    "totalSize" : 1,
    "records" :
    [
      {
        "attributes" :
        {
          "type" : "Merchandise__c",
          "url" : "/services/data/v29.0/subjects/Merchandise__c/a00D0000008pQRAIX2"
        },
        "Name" : "Merchandise 1"
      },
    ]
  }
}

```

SOQL クエリの残りの結果の取得

最初のクエリで結果の一部のみを返す場合、応答の最後に `nextRecordsUrl` という項目が含まれます。たとえば、クエリの最後に次の属性があるとします。

```
"nextRecordsUrl" : "/services/data/v29.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000"
```

この場合、レコードの次のバッチを要求し、すべてのレコードが取得されるまでこの操作を繰り返します。これらの要求は `nextRecordsUrl` を使用し、パラメータを含みません。

`nextRecordsUrl` の URL に `query` が指定されている場合でも、最初の QueryAll 要求の残りの結果が提供されます。残りの結果には、最初のクエリに一致した削除されたレコードが含まれます。

残りの結果を取得する場合の使用例

```
/services/data/v29.0/query/01gD0000002HU6KIAW-2000
```

残りの結果を取得する場合のリクエストボディの例

不要

残りの結果を取得する場合のレスポンスボディの例


```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 3214,
  "records" : [...]
}

```

クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する

Salesforce でクエリ、レポート、またはリストビューがどのように実行されるかについてフィードバックを取得するには、`explain` パラメータを指定して `Query` リソースを使用します。Salesforce では、各クエリを分析して、クエリ結果を取得するための最適な手段が検索されます。クエリおよびクエリ条件に応じて、インデックスまたは内部最適化が使用されることがあります。クエリを実際に行わずに Salesforce でクエリがどのように最適化されるかについての詳細を返すには、`explain` パラメータを使用します。応答に基づいて、クエリをセレクトティブにするための条件を追加するなどの変更を加えることによって、クエリのパフォーマンスを細かく調整するかどうかを決定できます。

 **メモ:** REST API クエリリソースでの `explain` の使用は、ベータ機能です。このベータ機能に関連するサポートはありません。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

応答には、最も最適なものから順に並び替えられた、1つ以上のクエリ実行プランが含まれます。クエリ、レポート、またはリストビューの実行時には最も最適なプランが使用されます。

`explain` を使用したときに返される項目についての詳細は、「Query」の「`explain` パラメータ」を参照してください。クエリをセレクトティブにする方法についての詳細は、『Apex 開発者ガイド』の「非常に大きい SOQL クエリの処理」を参照してください。

 **例:**

Merchandise__c を使用するクエリに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合の使用例

```
/services/data/v38.0/query/?explain=
SELECT+Name+FROM+Merchandise__c+WHERE+CreatedDate+=+TODAY+AND+Price__c+>+10.0
```

パフォーマンスフィードバッククエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "plans" : [ {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ "CreatedDate" ],
    "leadingOperationType" : "Index",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.0,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  }, {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ ],
    "leadingOperationType" : "TableScan",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.65,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  } ]
}
```

この応答は、このクエリに対して2つの可能な実行プランが Salesforce で検出されたことを示しています。最初のプランでは、このクエリのパフォーマンスを向上するために `CreatedDate` インデックス項目が使用されます。2つ目のプランでは、インデックスを使用せずにすべてのレコードがスキャンされます。実際にクエリを実行するときには、最初のプランが使用されます。どちらのプランでも、`IsDeleted` 項目のインデックスが作成されていないため、削除済みとマークされているレコードを除外する場合に使用される2つ目の最適化には使用されません。

 例:

レポートに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合の使用例

```
/services/data/v38.0/query/?explain=000D0000001hCzMMCu
```

レポートに関するパフォーマンスフィードバックを取得する場合のレスポンスボディの例

```
{
  "plans" : [ {
    "cardinality" : 1,
    "fields" : [ ],
    "leadingOperationType" : "TableScan",
    "notes" : [ {
      "description" : "Not considering filter for optimization because unindexed",
      "fields" : [ "IsDeleted" ],
      "tableEnumOrId" : "Merchandise__c"
    } ],
    "relativeCost" : 0.65,
    "subjectCardinality" : 3,
    "subjectType" : "Merchandise__c"
  } ]
}
```

この応答は、このレポートのクエリに対して1つの可能な実行プランが Salesforce で検出されたことを示しています。このプランでは、インデックスを使用せずにすべてのレコードがスキャンされます。IsDeleted 項目のインデックスが作成されていないため、削除済みとマークされているレコードを除外する場合に使用される2つ目の最適化には適用できません。

文字列を検索する

SOSL 検索を実行するには、[Search](#) リソースを使用し、SOSL を使用しない簡単な RESTful 検索を実行するには、[Parameterized Search](#) リソースを使用します。

GET メソッドを使用した SOSL 検索の例

次の例では、Acme の SOSL 検索を実行します。この例の検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

使用例

```
curl
https://https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v37.0/search/?q=FIND+%7BAcme%7D
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
{
  "searchRecords" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
```

```

    "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
  },
  "Id" : "001D000000IqhSLIAZ",
}, {
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
  },
  "Id" : "001D000000IomazIAB",
} ]
}

```

GET メソッドを使用した、パラメータ化された検索の例

次の例では、Acme のパラメータ化された検索を実行します。この例の検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

使用例

Acme を含むすべての結果のグローバル検索

```

curl
https://https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v37.0/parameterizedSearch/?q=Acme

```

Acme を含む結果の取引先検索 (ID 項目と名前項目が返される)

```

curl
https://https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v37.0/parameterizedSearch/?q=Acme&subject=Account&account.fields=id,name&account.limit=10

```

リクエストボディの例

不要


レスポンスボディの例

```

{
  "searchRecords" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
    },
    "Id" : "001D000000IqhSLIAZ"
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
    },
    "Id" : "001D000000IomazIAB"
  } ]
}

```

metadata パラメータを含むレスポンスボディの例

 **メモ:** metadata パラメータが返されるのは、要求で metadata=LABELS が指定されている場合のみです。

```
{
  "searchRecords" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IqhSLIAZ"
    },
    "Id" : "001D000000IqhSLIAZ",
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v35.0/subjects/Account/001D000000IomazIAB"
    },
    "Id" : "001D000000IomazIAB",
  } ],
  "metadata" : {
    "entityLabelMetadata" : [ {
      "entityName" : "Account",
      "entityFieldLabels" : [ {
        "name" : "Id",
        "value" : "Account ID"
      }, {
        "name" : "Name",
        "value" : "Account Name"
      } ]
    } ]
  } ]
}
```

POST メソッドを使用した、パラメータ化された検索の例

使用可能なすべての検索機能にアクセスするPOSTメソッドを使用してパラメータ化された検索を実行します。

使用例

```
curl https://https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v36.0/parameterizedSearch
  "Authorization: Bearer token-H "Content-Type: application/json" -d "@search.json"
```

リクエストボディの例

不要

JSON ファイルの例

```
{
  "q": "Smith",
  "fields" : ["id", "firstName", "lastName"],
  "subjects": [{"fields": ["id", "NumberOfEmployees"],
    "name": "Account",
    "limit": 20},
```

```

    {"name": "Contact"}],
    "in": "ALL",
    "overallLimit": 100,
    "defaultLimit": 10
  }

```

レスポンスボディの例

```

{
  "searchRecords": [ {
    "attributes": {
      "type": "Contact",
      "url": "/services/data/v36.0/subjects/Contact/003xx000004TraiAAC"
    },
    "Id": "003xx000004TraiAAC",
    "FirstName": "Smith",
    "LastName": "Johnson"
  }, {
    "attributes": {
      "type": "Account",
      "url": "/services/data/v36.0/subjects/Account/001xx000003DHXnAAO"
    },
    "Id": "001xx000003DHXnAAO",
    "NumberOfEmployees": 100
  } ]
}

```

デフォルトの検索範囲と検索順序の取得

[Search Scope and Order](#) リソースを使用して、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ログインユーザのデフォルトの検索範囲と検索順序を取得します。

次の例では、ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲は、サイト、アイデア、ケース、商談、取引先、およびユーザオブジェクトがレスポンスボディに返される順序で構成されます。

使用例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v26.0/search/scopeOrder -H
"Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[
  {
    "type": "Site",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Site/describe"
  },
  {
    "type": "Idea",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Idea/describe"
  },

```

```
[
  {
    "type": "Case",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Case/describe"
  },
  {
    "type": "Opportunity",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Opportunity/describe"
  },
  {
    "type": "Account",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/Account/describe"
  },
  {
    "type": "User",
    "url": "/services/data/v26.0/subjects/User/describe"
  }
]
```

オブジェクトの検索結果レイアウトの取得

[SearchResultLayouts](#) リソースを使用して、クエリ文字列で指定された各オブジェクトの検索結果レイアウトの設定を取得します。

使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v28.0/searchlayout/?q=Account,Contact,Lead,Asset
"Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```
[ { "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Account.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Account Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Account.Site",
    "format" : null,
    "label" : "Account Site",
    "name" : "Site"
  },
  { "field" : "Account.Phone",
    "format" : null,
    "label" : "Phone",
    "name" : "Phone"
  },
  { "field" : "User.Alias",
    "format" : null,
    "label" : "Account Owner Alias",
```



```
        "name" : "Owner.Alias"
      }
    ]
  },
  { "label" : "Search Results",
    "limitRows" : 25,
    "searchColumns" : [ { "field" : "Contact.Name",
      "format" : null,
      "label" : "Name",
      "name" : "Name"
    },
    { "field" : "Account.Name",
      "format" : null,
      "label" : "Account Name",
      "name" : "Account.Name"
    },
    { "field" : "Account.Site",
      "format" : null,
      "label" : "Account Site",
      "name" : "Account.Site"
    },
    { "field" : "Contact.Phone",
      "format" : null,
      "label" : "Phone",
      "name" : "Phone"
    },
    { "field" : "Contact.Email",
      "format" : null,
      "label" : "Email",
      "name" : "Email"
    },
    { "field" : "User.Alias",
      "format" : null,
      "label" : "Contact Owner Alias",
      "name" : "Owner.Alias"
    }
  ]
},
{ "label" : "Search Results",
  "limitRows" : 25,
  "searchColumns" : [ { "field" : "Lead.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Name",
    "name" : "Name"
  },
  { "field" : "Lead.Title",
    "format" : null,
    "label" : "Title",
    "name" : "Title"
  },
  { "field" : "Lead.Phone",
    "format" : null,
    "label" : "Phone",
    "name" : "Phone"
  }
]
```

```

    },
    { "field" : "Lead.Company",
      "format" : null,
      "label" : "Company",
      "name" : "Company"
    },
    { "field" : "Lead.Email",
      "format" : null,
      "label" : "Email",
      "name" : "Email"
    },
    { "field" : "Lead.Status",
      "format" : null,
      "label" : "Lead Status",
      "name" : "toLabel(Status)"
    },
    { "field" : "Name.Alias",
      "format" : null,
      "label" : "Owner Alias",
      "name" : "Owner.Alias"
    }
  ]
},
]

```

関連項目の表示

関連レコードのリストを取得するには、[Relevant Items](#) リソースを使用します。

現在のユーザの最も関連性の高いレコードリストを取得する場合の使用例

```
/vXX.X/subjects/relevantItems
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[ {
  "apiName" : "Contact",
  "key" : "003",
  "label" : "Contacts",
  "lastUpdatedId" : "135866748",
  "recordIds" : [ "003xx000004TxBA" ]
}, {
  "apiName" : "Account",
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "lastUpdatedId" : "193640553",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
}, {
  "apiName" : "User",
  "key" : "005",
  "label" : "Users",
  "lastUpdatedId" : "-199920321",
  "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvwK", "005xx000001SvwA" ]
}

```

```

}, { "apiName" : "Case",
     "key" : "069",
     "label" : "Cases",
     "lastUpdatedId" : "1033471693",
     "recordIds" : [ "069xx0000000006", "069xx0000000001", "069xx0000000002" ]
} ]

```

特定のオブジェクトへの応答を絞り込む場合の使用例

/v37.0/subjects/relevantItems?subjects=Account,User

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[ {
  "apiName" : "Account",
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "lastUpdatedId" : "193640553",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
}, {
  "apiName" : "User",
  "key" : "005",
  "label" : "Users",
  "lastUpdatedId" : "102959935",
  "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvK", "005xx000001SvWA" ]
} ]

```

ユーザの現在の関連レコードリストを以前のバージョンと比較する場合の使用例

/v37.0/subjects/relevantItems?lastUpdatedId=102959935

リクエストボディの例

不要

応答ヘッダーの例

```

lastUpdatedId: 102959935
newResultSetSinceLastQuery: true

```

レスポンスボディの例

```

[ {
  "apiName" : "User",
  "key" : "003",
  "label" : "Users",
  "lastUpdatedId" : "102959935",
  "recordIds" : [ "003xx000004TxBA" ]
}, {
  "apiName" : "Account",
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "lastUpdatedId" : "193640553",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
}, {
  "apiName" : "Case",

```

```

    "key" : "005",
    "label" : "Cases",
    "lastUpdatedId" : "1740766611",
    "recordIds" : [ "005xx000001Svqw", "005xx000001SvwA" ]
  } ]

```

特定のオブジェクトでユーザの現在の関連レコードリストを以前のバージョンと比較する場合の使用例

`/v37.0/subjects/relevantItems?mode=MRU&subjects=Account,Contact&Account.lastUpdatedId=102959935`

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

[ {
  "apiName" : "Account",
  "key" : "001",
  "label" : "Accounts",
  "lastUpdatedId" : "193640553",
  "recordIds" : [ "001xx000003DWsT" ]
} ]

```

最近参照した情報の操作

このセクションの例では、REST API の Query リソースおよび Recently Viewed リソースを使用して最近参照したレコード情報をプログラムで取得および更新します。

このセクションの内容:

最近参照したレコードの表示

最近参照したレコードのリストを取得するには、[Recently Viewed Items](#) リソースを使用します。

最近参照したデータとしてレコードをマーク

REST API を使用して、最近参照したデータとしてレコードをマークするには、FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して Query リソースを使用します。レコードを最近参照したデータとしてマークし、レコードが参照された日時などの情報が正しく設定されていることを確認するには、SOQLを使用します。

最近参照したレコードの表示

最近参照したレコードのリストを取得するには、[Recently Viewed Items](#) リソースを使用します。

最近参照したレコードのうち最近の2件を取得する場合の使用例

```
/services/data/v28.0/recent/?limit=2
```

リクエストボディの例

不要

レスポンスボディの例

```

{
  "attributes" :

```

```

    {
      "type" : "Account",
      "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Account/a06U000000CelH0IAJ"
    },
    "Id" : "a06U000000CelH0IAJ",
    "Name" : "Acme"
  },
  {
    "attributes" :
    {
      "type" : "Opportunity",
      "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Opportunity/a06U000000CelGvIAJ"
    },
    "Id" : "a06U000000CelGvIAJ",
    "Name" : "Acme - 600 Widgets"
  }
}

```

最近参照したデータとしてレコードをマーク

REST API を使用して、最近参照したデータとしてレコードをマークするには、FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して Query リソースを使用します。レコードを最近参照したデータとしてマークし、レコードが参照された日時などの情報が正しく設定されていることを確認するには、SOQL を使用します。

FOR VIEW は、モバイルアプリケーションなどのカスタムインターフェースまたはカスタムページからレコードが参照された場合に、Salesforce に通知するために使用します。レコードがカスタムインターフェースから参照されている場合は、FOR REFERENCE を使用します。レコードは、関連レコードが表示されるたびに参照されます。詳細については、『Force.com SOQL および SOSL リファレンス』の「FOR VIEW」および「FOR REFERENCE」を参照してください。

1つの取引先レコードを最近参照したデータとしてマークするクエリを実行する場合の使用例

```
/services/data/v28.0/query/?q=SELECT+Name+FROM+Account+LIMIT+1+FOR+VIEW
```

クエリを実行する場合のリクエストボディの例
不要

クエリを実行する場合のレスポンスボディの例

```

{
  "done" : true,
  "totalSize" : 1,
  "records" :
  [
    {
      "attributes" :
      {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v28.0/subjects/Account/001D000000IRFmaIAH"
      },
      "Name" : "Acme"
    },
  ],
}

```

```
    ]
}
```

ユーザパスワードの管理

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、パスワードの設定やリセットなど、ユーザパスワードを管理します。

このセクションの内容:

ユーザパスワードを管理する

ユーザパスワードの設定やリセット、パスワードに関する情報の取得を行うには、[sObject User Password](#) リソースを使用します。パスワードの有効期限の状況を取得するには HTTP GET メソッド、パスワードを設定するには HTTP POST メソッド、パスワードをリセットするには HTTP DELETE メソッドを使用します。

ユーザパスワードを管理する

ユーザパスワードの設定やリセット、パスワードに関する情報の取得を行うには、[sObject User Password](#) リソースを使用します。パスワードの有効期限の状況を取得するには HTTP GET メソッド、パスワードを設定するには HTTP POST メソッド、パスワードをリセットするには HTTP DELETE メソッドを使用します。

関連付けられたセッションには、特定のユーザパスワード情報へのアクセス権が必要です。セッションに適切な権限がない場合、これらのメソッドから HTTP エラー応答 403 が返されます。

これらのメソッドは、ユーザとセルフサービスユーザの両方に提供されています。セルフサービスユーザのパスワードの管理では、REST API URL に、User の代わりに SelfServiceUser を使用します。

次に、ユーザの現在のパスワード有効期限の状況を取得する例を示します。

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D0000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token"
```

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のリクエストボディの例
不要

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のレスポンスボディの例 (JSON)

```
{
  "isExpired" : false
}
```

現在のパスワード有効期限の状況を取得する場合のレスポンスボディの例 (XML)

```
<Password>
  <isExpired>>false</isExpired>
</Password>
```

セッションの権限が不十分な場合のエラー応答の例

```
{
  "message" : "You do not have permission to view this record.",
  "errorCode" : "INSUFFICIENT_ACCESS"
}
```

次に、特定のユーザのパスワードを変更する例を示します。

ユーザパスワードを変更する場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D0000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @newpwd.json
-X POST
```

ファイル newpwd.json のコンテンツ

```
{
  "NewPassword" : "myNewPassword1234"
}
```

ユーザパスワードを変更する場合のレスポンスボディの例

パスワードが正しく変更された場合のレスポンスボディはありません。HTTP 状況コード 204 が返されます。

新規パスワードが組織のパスワード要件を満たしていない場合のエラー応答の例

```
{
  "message" : "Your password must have a mix of letters and numbers.",
  "errorCode" : "INVALID_NEW_PASSWORD"
}
```

最後に、ユーザパスワードのリセットの例を示します。

ユーザパスワードをリセットする場合の使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v25.0/subjects/User/005D0000001KyEIIA0/password
-H "Authorization: Bearer token" -X DELETE
```

ユーザパスワードをリセットする場合のリクエストボディの例

不要

ユーザパスワードをリセットする場合のレスポンスボディの例 (JSON)

```
{
  "NewPassword" : "2sv0xHAuM"
}
```

ユーザパスワードをリセットする場合のレスポンスボディの例 (XML)

```
<Result>
  <NewPassword>2sv0xHAuM</NewPassword>
</Result>
```

承認プロセスとプロセスルールの操作

このセクションの例では、REST API リソースを使用して、承認プロセスとプロセスルールを操作します。

このセクションの内容:

すべての承認プロセスのリストを取得する

承認に関する情報を取得するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。

承認を受けるレコードを送信する

承認を受ける単一レコードまたはレコードのコレクションを送信するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。

レコードを承認する

単一レコードまたはレコードのコレクションを承認するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

レコードを却下する

単一レコードまたはレコードのコレクションを却下するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

一括承認

一括承認を行うには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。異なる [Process Approvals](#) 要求のコレクションを指定して、すべて一括して実行することができます。

プロセスルールのリストを取得する

プロセスルールに関する情報を取得するには、[Process Rules](#) リソースを使用します。

特定のプロセスルールを取得する

[Process Rules](#) リソースを使用し、メタデータを取得するルールの `SObjectName` と `workflowRuleId` を指定します。

プロセスルールをトリガする

プロセスルールをトリガするには、[Process Rules](#) リソースを使用します。評価条件に関係なく、指定された ID に関連するすべてのルールが評価されます。すべての ID は、同じオブジェクトのレコードの ID である必要があります。

すべての承認プロセスのリストを取得する

承認に関する情報を取得するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H
"Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvals" : {
    "Account" : [ {
      "description" : null,
      "id" : "04aD00000008Py9",
      "name" : "Account Approval Process",
      "object" : "Account",
      "sortOrder" : 1
    } ]
  }
}
```

承認を受けるレコードを送信する

承認を受ける単一レコードまたはレコードのコレクションを送信するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @submit.json"
```

リクエストボディ `submit.json` ファイルの例

次の例では、レコード「001D000000I8mIm」が、開始条件を省略し、送信者「005D00000015rZy」の代理として、承認プロセス「PTO_Request_Process」のために送信されます。

```
{
  "requests" : [{
    "actionType": "Submit",
    "contextId": "001D000000I8mIm",
    "nextApproverIds": ["005D00000015rY9"],
    "comments": "this is a test",
    "contextActorId": "005D00000015rZy",
    "processDefinitionNameOrId": "PTO_Request_Process",
    "skipEntryCriteria": "true"}]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : [ "005D00000015rY9IAI" ],
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000Cvm5IAC",
  "instanceStatus" : "Pending",
  "newWorkitemIds" : [ "04iD0000000Cw6SIAS" ],
  "success" : true } ]
```

レコードを承認する

単一レコードまたはレコードのコレクションを承認するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @approve.json"
```

リクエストボディ `approve.json` ファイルの例

```
{
  "requests" : [{
    "actionType" : "Approve",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6SIAS",
    "nextApproverIds" : ["005D00000015rY9"],
    "comments" : "this record is approved"}]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmAIAS",
  "instanceStatus" : "Approved",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

レコードを却下する

単一レコードまたはレコードのコレクションを却下するには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。各コールは、要求の配列を受け付けます。現在のユーザは、割り当てられた承認者である必要があります。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @reject.json"
```

リクエストボディ `reject.json` ファイルの例

```
{
  "requests" : [{
    "actionType" : "Reject",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6cIAC",
    "comments" : "This record is rejected."}]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmFIAS",
  "instanceStatus" : "Rejected",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

一括承認

一括承認を行うには、[Process Approvals](#) リソースを使用します。異なる Process Approvals 要求のコレクションを指定して、すべて一括して実行することができます。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/approvals/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @bulk.json"
```

リクエストボディ `bulk.json` ファイルの例

```
{
  "requests" :
  [{
    "actionType" : "Approve",
    "contextId" : "04iD0000000Cw6r",
    "comments" : "approving an account"
  },{
    "actionType" : "Submit",
    "contextId" : "001D000000JRWbD",
    "nextApproverIds" : ["005D00000015rY9"],
    "comments" : "submitting an account"
  },{
    "actionType" : "Submit",
    "contextId" : "003D000000QBZ08",
    "comments" : "submitting a contact"
  }
  ]
}
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "actorIds" : null,
  "entityId" : "001D000000I8mImIAJ",
  "errors" : null,
  "instanceId" : "04gD0000000CvmZIAS",
  "instanceStatus" : "Approved",
  "newWorkitemIds" : [ ],
  "success" : true
} ]
```

```

    }, {
      "actorIds" : null,
      "entityId" : "003D000000QBZ08IAH",
      "errors" : null,
      "instanceId" : "04gD0000000CvmeIAC",
      "instanceStatus" : "Approved",
      "newWorkitemIds" : [ ],
      "success" : true
    }, {
      "actorIds" : [ "005D00000015rY9IAI" ],
      "entityId" : "001D000000JRWBdIAP",
      "errors" : null,
      "instanceId" : "04gD0000000CvmfIAC",
      "instanceStatus" : "Pending",
      "newWorkitemIds" : [ "04iD00000000Cw6wIAC" ],
      "success" : true
    } ]
  } ]

```

プロセスルールのリストを取得する

プロセスルールに関する情報を取得するには、[Process Rules](#) リソースを使用します。

使用例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/ -H
"Authorization: Bearer token"

```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```

{
  "rules" : {
    "Account" : [ {
      "actions" : [ {
        "id" : "01VD0000000D2w7",
        "name" : "ApprovalProcessTask",
        "type" : "Task"
      } ],
      "description" : null,
      "id" : "01QD0000000APli",
      "name" : "My Rule",
      "namespacePrefix" : null,
      "object" : "Account"
    } ]
  }
}

```

特定のプロセスルールを取得する

[Process Rules](#) リソースを使用し、メタデータを取得するルールの `SOBJECTNAME` と `WORKFLOWRULEID` を指定します。

使用例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/Account/01QD0000000APli
-H "Authorization: Bearer token"
```

リクエストボディの例

不要

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "actions" : [ {
    "id" : "01VD0000000D2w7",
    "name" : "ApprovalProcessTask",
    "type" : "Task"
  } ],
  "description" : null,
  "id" : "01QD0000000APli",
  "name" : "My Rule",
  "namespacePrefix" : null,
  "object" : "Account"
}
```

プロセスルールをトリガする

プロセスルールをトリガするには、[Process Rules](#) リソースを使用します。評価条件に関係なく、指定された ID に関連するすべてのルールが評価されます。すべての ID は、同じオブジェクトのレコードの ID である必要があります。

使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/process/rules/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d @rules.json"
```

リクエストボディ `rules.json` ファイルの例

```
{
  "contextIds" : [
    "001D0000000JRWbd",
    "001D0000000I8mIm",
    "001D0000000I8aaf"
  ]
}
```


JSON レスポンスボディの例

```
{
  "errors" : null,
}
```

```
"success" : true
}
```

イベント監視の使用

このセクションの例では、REST API イベント監視データを使用しています。このデータに含まれる情報は、組織の利用状況のトレンドとユーザの行動を評価する場合に役立ちます。イベント監視は、EventLogFile オブジェクトを使用して Force.com SOAP API および REST API からアクセスされるため、ログデータを独自のバックエンドストレージやデータマートと統合して、複数の組織やさまざまなシステムからのデータを容易に相関付けることができます。

 **メモ:** EventLogFile オブジェクトに関する重要な情報については、『Salesforce および Force.com の『オブジェクトリファレンス』を参照してください。

イベント監視を使用する場合、次の点に留意してください。

- ごくまれに 24 時間ログファイルが生成されないことがあります。その場合は Salesforce にお問い合わせください。
- ログデータは参照のみです。ログデータは挿入、更新、または削除できません。
- EventType 項目を使用して、自分の組織で生成されたファイルを特定します。
- LogDate は、24 時間 (UTC 時間の午前 12:00 から午後 11:59 まで) の使用状況の活動を追跡します。
- イベントによって、リアルタイムにログデータが生成されます。ただし、ログファイルは、イベントが実行された翌日のピーク時間以外に生成されます。そのため、ログファイルデータはイベントが発生してから少なくとも 1 日は使用できません。
- CreatedDate は、ログファイルがいつ生成されたのかを追跡します。
- EventType 項目で表されるログファイルは、該当のタイプのイベントがその日に 1 つ以上発生している場合にのみ生成されます。イベントが発生していない場合、その日のファイルは生成されません。
- ログファイルの期限は、CreatedDate から 30 日間 (ユーザイベント監視を組織で購入している場合) または 1 日 (Developer Edition 組織の場合) です。
- すべてのイベント監視ログは、EventLogFile オブジェクトを介して API に公開されますが、ユーザインターフェースからアクセスすることはできません。

イベント監視は、次の 32 種類のファイルで使用できます。

- Apex コールアウト
- Apex 実行
- Apex SOAP
- Apex トリガ
- API
- 非同期レポート
- Bulk API
- 変更セット操作
- コンテンツ配布
- コンテンツドキュメントリンク

- コンテンツ転送
- ダッシュボード
- ドキュメント添付ファイルのダウンロード
- ログイン
- 別名でログイン
- ログアウト
- MDAPI 操作
- マルチブロックレポート
- パッケージのインストール
- キューにある実行
- レポート
- レポートのエクスポート
- REST API
- Salesforce1 採用 (UI 追跡)
- Sandbox
- サイト
- 時間ベースのワークフロー
- URI
- Visualforce
- Wave Change
- Wave Interaction
- Wave Performance

このセクションで使用しているすべてのクエリと例には、「イベントログファイルを参照」および「APIの有効化」ユーザ権限が必要です。「すべてのデータの参照」権限を持つユーザは、イベント監視データも表示できます。

このセクションの内容:

[RESTを使用してイベント監視を記述する](#)

項目、URL、およびリレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[SObject Describe](#) リソースを使用します。

[RESTを使用してイベント監視データをクエリする](#)

レコードから項目値を取得するには、[Query](#) リソースを使用します。fieldsパラメータに取得する項目を指定し、リソースの `GET` メソッドを使用します。

[レコードからイベント監視コンテンツを取得する](#)

特定のレコードの BLOB データを取得するには、[SObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

[cURLをRESTで使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする](#)

イベントログファイルがツールで処理できないほど大きくなる場合があります。cURLなどのコマンドラインツールは、[SObject Blob Retrieve](#) オブジェクトを使用して 100 MBを超えるファイルをダウンロードする方法の1つです。

REST を使用してイベント監視を記述する

項目、URL、および子リレーションに関する情報を含む、オブジェクトのすべてのメタデータを取得するには、[SObject Describe](#) リソースを使用します。

例

[ワークベンチ](#)を使用して、イベントログファイルを記述できます。[実行] テキストボックスに、`/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/describe` と入力します。

未加工の応答の例

```
{
  "actionOverrides" : [ ],
  "activateable" : false,
  "childRelationships" : [ ],
  "compactLayoutable" : false,
  "createable" : false,
  "custom" : false,
  "customSetting" : false,
  "deletable" : false,
  "deprecatedAndHidden" : false,
  "feedEnabled" : false,
  "fields" : [ {
    "autoNumber" : false,
    "byteLength" : 18,
    "calculated" : false,
    "calculatedFormula" : null,
    "cascadeDelete" : false,
    "caseSensitive" : false,
    "controllerName" : null,
    "createable" : false,
    ...
  }
}
```

REST を使用してイベント監視データをクエリする

レコードから項目値を取得するには、[Query](#) リソースを使用します。fields パラメータに取得する項目を指定し、リソースの GET メソッドを使用します。

[ワークベンチ](#)を使用して、イベント監視データをクエリできます。LogDate および EventType に基づいてイベント監視レコードを取得するには、[Execute (実行)] テキストボックスで、次のように入力します。

```
/services/data/v32.0/query?q=SELECT+Id+,+EventType+,+LogFile+,+LogDate+,+LogFileLength+FROM+EventLogFile+WHERE+LogDate+>+Yesterday+AND+EventType+=+'API'
```

未加工の応答の例

```
{
  "totalSize" : 4,
  "done" : true,
  "records" : [ {
    "attributes" : {
```



```

    "type" : "EventLogFile",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000001bROAQ"    }
  "Id" : "0ATD00000001bROAQ",
  "EventType" : "API",
  "LogFile" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000001bROAQ/LogFile",

  "LogDate" : "2014-03-14T00:00:00.000+0000",
  "LogFileLength" : 2692.0
}, {
  "attributes" : {
    "type" : "EventLogFile",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000001SdOAI"    },
    "Id" : "0ATD00000001SdOAI",
    "EventType" : "API",
    "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000001SdOAI/LogFile",
    "LogDate" : "2014-03-13T00:00:00.000+0000",
    "LogFileLength" : 1345.0
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "EventLogFile",
      "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000003p1OAA"    },
      "Id" : "0ATD000000003p1OAA",
      "EventType" : "API",
      "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD000000003p1OAA/LogFile",
      "LogDate" : "2014-06-21T00:00:00.000+0000",
      "LogFileLength" : 605.0    },
    {
      "attributes" : {
        "type" : "EventLogFile",
        "url" : "/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD0000000055eOAA"    },
        "Id" : "0ATD0000000055eOAA",
        "EventType" : "API",
        "LogFile" :
"/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD0000000055eOAA/LogFile",
        "LogDate" : "2014-07-03T00:00:00.000+0000",
        "LogFileLength" : 605.0
      } ]
  }
}

```

レコードからイベント監視コンテンツを取得する

特定のレコードの BLOB データを取得するには、[SObject Blob Retrieve](#) リソースを使用します。

例

[ワークベンチ](#)を使用して、イベント監視の BLOB データを取得できます。[Execute (実行)] テキストボックスで、`/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0ATD00000000pyOAA/LogFile` のような GET 要求を使用します。

レスポンスボディの例

イベント監視コンテンツがバイナリ形式で返されます。返されたデータがバイナリであるため、応答のコンテンツタイプは JSON でも XML でもありません。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Tue, 06 Aug 2013 16:46:10 GMT
Sforce-Limit-Info: api-usage=135/5000
Content-Type: application/octetstream
Transfer-Encoding: chunked
"EVENT_TYPE", "ORGANIZATION_ID", "TIMESTAMP", "USER_ID", "CLIENT_IP",
"URI", "REFERRER_URI", "RUN_TIME"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185606.020", "005D0000001REDy",
"10.0.62.141", "/secur/contentDoor", "https-//login-salesforce-com/",
"11"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185556.930", "005D0000001REI0",
"10.0.62.141", "/secur/logout.jsp", "https-//yourInstance-salesforce-com/000/o",
"54"
"URI", "00DD0000000K5xD", "20130728185536.725", "005D0000001REI0",
"10.0.62.141", "/00OD0000001ckx3",
"https-//yourInstance-salesforce-com/00OD0000001ckx3", "93"
```

cURL を REST で使用して大きなイベントログファイルをダウンロードする

イベントログファイルがツールで処理できないほど大きくなる場合があります。cURL などのコマンドラインツールは、SObject Blob Retrieve オブジェクトを使用して 100 MB を超えるファイルをダウンロードする方法の 1 つです。

例: 「X-PrettyPrint」ヘッダーと「-o」フラグを使用して大きなファイルを .csv 形式に出力する
次のコマンドは、ファイルをマシンのダウンロードフォルダにダウンロードします。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/EventLogFile/0AT30000000000uGAA/LogFile
-H "Authorization: Bearer token" -H "X-PrettyPrint:1" -o ~/downloads/outputLogFile.csv
```

大きなイベントログファイルをダウンロードする場合は圧縮することをお勧めします。「[圧縮の使用](#)」を参照してください。

複合リソースの使用

このセクションの例では、複合リソースを使用して、クライアントとサーバ間の往復回数を最小限に抑えることでアプリケーションのパフォーマンスを高めます。

このセクションの内容:

1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する

1 回の API コールで複数の要求を実行するには、Batch リソースを使用します。

ネストされたレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用して、ルートレコードタイプを共有するネストされたレコードを作成できます。たとえば、1回の要求で、取引先とその子取引先責任者、さらに2件目の取引先とその子取引先および子取引先責任者を作成できます。要求が処理されると、レコードが作成され、親と子が自動的にIDでリンクされます。要求データに、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

複数のレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用するとネストされたレコードを作成できますが、同じタイプで複数の関連しないレコードを作成することもできます。1回の要求で最大200件のレコードを作成できます。要求データに、各レコードの必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

1回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する

1回のAPIコールで複数の要求を実行するには、Batch リソースを使用します。

次の例では、1回の要求で取引先の名前を更新し、その取引先の複数の項目値を取得します。batch.json ファイルには、サブ要求データが含まれます。

1回の要求でレコードを更新してその名前と請求先の郵便番号をクエリする

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/batch/ -H
"Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@batch.json"
```

リクエストボディ **batch.json** ファイル

```
{
  "batchRequests" : [
    {
      "method" : "PATCH",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ",
      "richInput" : {"Name" : "NewName"}
    }, {
      "method" : "GET",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
    }
  ]
}
```

サブ要求の実行が成功した場合のレスポンスボディ

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "statusCode" : 204,
    "result" : null
  }, {
    "statusCode" : 200,
```

```

    "result": {
      "attributes" : {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0fXOIAZ"
      },
      "Name" : "NewName",
      "BillingPostalCode" : "94105",
      "Id" : "001D000000K0fXOIAZ"
    }
  }
}

```

関連トピック:

[Batch](#)

ネストされたレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用して、ルートレコードタイプを共有するネストされたレコードを作成できます。たとえば、1回の要求で、取引先とその子取引先責任者、さらに2件目の取引先とその子取引先および子取引先責任者を作成できます。要求が処理されると、レコードが作成され、親と子が自動的にIDでリンクされます。要求データに、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照IDを指定し、リソースのPOSTメソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードのIDが含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照IDとエラー情報のみが含まれます。

次の例では、2セットのネストされたレコードを作成します。最初のセットには、取引先と2件の子取引先責任者レコードが含まれます。2つ目のセットには、取引先、1件の子取引先レコード、および1件の子取引先責任者レコードが含まれます。レコードデータは `newrecords.json` で指定されます。

2件の新規取引先とその子レコードを作成する例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/tree/Account/
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newrecords.json"

```

2件の新規取引先とその子レコードを作成するためのリクエストボディ `newrecords.json` ファイルの例

```

{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount1",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking",
    "Contacts" : {
      "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
        "lastname" : "Smith",
        "Title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }, {

```

```

    "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
    "lastname" : "Evans",
    "title" : "Vice President",
    "email" : "sample@salesforce.com"
  }}
}
},{
"attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
"name" : "SampleAccount2",
"phone" : "1234567890",
"website" : "www.salesforce.com",
"numberOfEmployees" : "52000",
"industry" : "Banking",
"childAccounts" : {
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref5"},
    "name" : "SampleChildAccount1",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking"
  }]
},
"Contacts" : {
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref6"},
    "lastname" : "Jones",
    "title" : "President",
    "email" : "sample@salesforce.com"
  }]
}
}}
}

```

レコードとリレーションが正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```

{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref1",
    "id" : "001D000000K0fxOIAZ"
  },{
    "referenceId" : "ref4",
    "id" : "001D000000K0fxPIAZ"
  },{
    "referenceId" : "ref2",
    "id" : "003D000000QV9n2IAD"
  },{
    "referenceId" : "ref3",
    "id" : "003D000000QV9n3IAD"
  },{
    "referenceId" : "ref5",
    "id" : "001D000000K0fxQIAZ"
  },{
    "referenceId" : "ref6",

```

```

    "id" : "003D000000QV9n4IAD"
  }
}

```

要求が処理されると、6件のレコードすべてが要求に指定された親-子リレーションで作成されます。

関連トピック:

[SObject Tree](#)

複数のレコードを作成する

SObjectTree リソースを使用するとネストされたレコードを作成できますが、同じタイプで複数の関連しないレコードを作成することもできます。1回の要求で最大 200 件のレコードを作成できます。要求データに、各レコードの必須および省略可能な項目値、各レコードのタイプ、および各レコードの参照 ID を指定し、リソースの POST メソッドを使用します。要求が成功すると、レスポンスボディには作成されたレコードの ID が含まれます。失敗すると、応答にはエラーが発生したレコードの参照 ID とエラー情報のみが含まれます。

次の例では、4 件の新規取引先を作成します。レコードデータは `newrecords.json` で指定されます。

4 件の新規取引先を作成する例

```

curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v34.0/composite/tree/Account/
-H "Authorization: Bearer token" -H "Content-Type: application/json" -d "@newrecords.json"

```

4 件の新規取引先を作成する場合のリクエストボディ `newrecords.json` ファイルの例

```

{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount1",
    "phone" : "1111111111",
    "website" : "www.salesforce1.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref2"},
    "name" : "SampleAccount2",
    "phone" : "2222222222",
    "website" : "www.salesforce2.com",
    "numberOfEmployees" : "250",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref3"},
    "name" : "SampleAccount3",
    "phone" : "3333333333",
    "website" : "www.salesforce3.com",
    "numberOfEmployees" : "52000",
    "industry" : "Banking"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
    "name" : "SampleAccount4",
    "phone" : "4444444444",
    "website" : "www.salesforce4.com",

```

```
"numberOfEmployees" : "2500",  
"industry" : "Banking"  
}]  
}
```

レコードが正常に作成された場合のレスポンスボディの例

```
{  
  "hasErrors" : false,  
  "results" : [{  
    "referenceId" : "ref1",  
    "id" : "001D000000K1YFjIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref2",  
    "id" : "001D000000K1YFkIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref3",  
    "id" : "001D000000K1YFlIAN"  
  }, {  
    "referenceId" : "ref4",  
    "id" : "001D000000K1YFmIAN"  
  }  
]
```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

第4章 リファレンス

次の表に、API でサポートされている REST リソースをリストし、それぞれのリソースについて簡単に説明します。それぞれの場合で、リソースの URI は、認証サービスから取得するベース URI (<http://domain/services/data>) に続きます。domain は、使用している Salesforce インスタンス、または **カスタムドメイン** です。たとえば、バージョン 20.0 の Account オブジェクトに関する基本情報を取得する場合、<https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v20.0/subjects/Account/> となります。コール名をクリックすると、構文、使用方法、各コールの詳細情報を確認できます。

リソース名	URI および説明
Versions	<p>/</p> <p>バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用可能な各 Salesforce バージョンの概要情報をリストします。</p>
Resources by Version	<p>/vXX.X/</p> <p>リソース名および URI を含む、指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストします。</p>
Describe Global	<p>/vXX.X/subjects/</p> <p>組織のデータで使用可能なオブジェクトとそのメタデータをリストします。</p>
sObject Basic Information	<p>/vXX.X/subjects/<i>s</i> オブジェクト/</p> <p>指定されたオブジェクトの個別のメタデータを説明します。特定のオブジェクトの新規レコードの作成にも使用できます。</p>
sObject Describe	<p>/vXX.X/subjects/<i>s</i> オブジェクト/describe/</p> <p>指定されたオブジェクトのすべてのレベルで、個別のメタデータを完全に説明します。</p>
sObject Get Deleted	<p>/vXX.X/subjects/<i>s</i> オブジェクト/deleted/ ?start=<i>startDateAndTime</i>&end=<i>endDateAndTime</i></p> <p>指定されたオブジェクトについて、特定の期間内に削除された個々のレコードのリストを取得します。</p>
sObject Get Updated	<p>/vXX.X/subjects/<i>s</i> オブジェクト/updated/ ?start=<i>startDateAndTime</i>&end=<i>endDateAndTime</i></p> <p>指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に更新された(追加または変更された) 個別のレコードのリストを取得します。</p>
SObject Named Layouts	<p>/vXX.X/subjects/<i>オブジェクト</i>/describe/namedLayouts/<i>layoutName</i></p>

リファレンス

リソース名	URI および説明
	特定のオブジェクトの代替名前付きレイアウトに関する情報を取得します。
sObject Rows	<p><code>/vXX.X/subjects/s オブジェクト/id/</code></p> <p>指定されたオブジェクト ID に基づいてレコードにアクセスします。レコードを取得、更新、または削除します。このリソースは、項目値の取得にも使用できます。</p>
sObject Rows by External ID	<p><code>/vXX.X/subjects/s オブジェクト/fieldName/fieldValue</code></p> <p>指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新しいレコードを作成するか、既存のレコードを更新 (レコードを Upsert) します。</p>
sObject ApprovalLayouts	<p><code>/vXX.X/subjects/SObjectName/describe/approvalLayouts/</code></p> <p>指定されたオブジェクトの承認レイアウトのリストを返します。</p>
sObject CompactLayouts	<p><code>/vXX.X/subjects/オブジェクト/describe/compactLayouts/</code></p> <p>特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトのリストを返します。</p>
Describe Layouts	<p><code>/vXX.X/subjects/global/describe/layouts/</code></p> <p><code>/vXX.X/subjects/object/describe/layouts/</code></p> <p>レイアウトおよび説明のリストを返します。</p>
SObject PlatformAction	<p><code>/services/data/vXX.X/subjects/PlatformAction</code></p> <p>PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトです。ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコード ID に応じて、UI に表示するアクションをクエリできるようにします。たとえば、標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなどをクエリできます。</p>
SObject Relationships	<p><code>/vXX.X/subjects/s オブジェクト/id/relationship name</code></p> <p>使い慣れた URL を介してオブジェクトリレーションをトラバースし、レコードにアクセスします。トラバースされたリレーション項目に関連付けられたレコードを取得、更新、または削除できます。複数の関連レコードがある場合、関連付けられたレコードの完全なセットを取得できます。</p>
sObject Blob Retrieve	<p><code>/vXX.X/subjects/s オブジェクト/id/blobField</code></p> <p>個別のレコードから指定された blob 項目を取得します。</p>
sObject Quick Actions	<p><code>/vXX.X/subjects/object/quickActions/</code></p> <p><code>/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}</code></p> <p><code>/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/describe/</code> <code>services/data/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/</code></p>

リソース名	URI および説明
	<p>vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/{親 ID}</p> <p>アクションとその詳細のリストを返します。</p>
SObject Suggested Articles	<p>vXX.X/subjects/s オブジェクト t/suggestedArticles?language=article language&subject=subject&description=description</p> <p>vXX.X/subjects/s オブジェクト t/ID/suggestedArticles?language=article language</p> <p>ケース、作業指示、または作業指示品目について提案する Salesforce ナレッジの記事のリストを返します。</p>
sObject User Password	<p>/vXX.X/subjects/User/ユーザ ID/password</p> <p>/vXX.X/subjects/SelfServiceUser/セルフサービスユーザ ID/password</p> <p>ユーザパスワードを設定またはリセットしたり、ユーザパスワードに関する情報を取得したりします。</p>
AppMenu	<p>/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/</p> <p>/vXX.X/appMenu/Salesforce1/</p> <p>Salesforce アプリケーションドロップダウンメニューまたは Salesforce1 ナビゲーションメニューの項目のリストを返します。</p>
FlexiPage	<p>/vXX.X/flexiPage/Lightning ページの ID</p> <p>Lightning ページとその詳細のリストを返します。返される情報には、Lightning ページの範囲、各範囲内のコンポーネント、各コンポーネントのプロパティ、および関連付けられた QuickActions が含まれます。</p>
Invocable Actions	<p>/vXX.X/actions/standard</p> <p>/vXX.X/actions/custom</p>

アクションを使用してアプリケーション

リファレンス

リソース名

URI および説明

ンに機能を追加します。画への投稿やメールの送信などの標準アクションから選択するか会社のミズに

リソース名	URI および説明
パラメータ化された検索	<p><code>/vXX.X/parameterizedSearch/?q=search string</code></p> <p>SOSL 句の代わりにパラメータを使用して簡単な RESTful 検索を実行します。GET メソッドの URL でパラメータを示します。または、より複雑な JSON 検索の場合は POST を使用します。</p>
Process Approvals	<p><code>/vXX.X/process/approvals/</code></p> <p>すべての承認プロセスのリストを返します。特定のレコードが承認プロセスをサポートしていて、承認プロセスがすでに定義されている場合、そのレコードを送信するためにも使用できます。現在のユーザが割り当てられた承認者である場合、レコードを承認および却下できます。</p>
Process Rules	<p><code>/vXX.X/process/rules/</code></p> <p>すべての有効なワークフロールールを返します。ルールにアクションがある場合、アクションがルールの下にリストされます。指定したレコードに関連付けられたワークフロールールすべてをトリガするためにも使用できます。ルールのアクションは、ルール条件に一致した場合にのみ起動します。</p>
Query	<p><code>/vXX.X/query/?q=soql</code></p> <p>指定された SOQL クエリを実行します。</p>
QueryAll	<p><code>/vXX.X/queryAll/?q=soql</code></p> <p>指定された SOQL クエリを実行します。結果には削除されたレコード、マージされたレコード、およびアーカイブ済みレコードが含まれる場合があります。</p>
Quick Actions	<p><code>/vXX.X/quickActions/</code></p>

リソース名	URI および説明
	グローバルクイックアクションとその種別のリスト、および Chatter フィードに表示されるカスタム項目とオブジェクトを返します。
Recently Viewed Items	<code>/vXX.X/recent</code> 現在のユーザが表示または参照した、最近参照された項目を取得します。
Relevant Items	<code>/vXX.X/subjects/relevantItems</code> 現在のユーザに最も関連性の高い項目を取得します。関連性の高い項目には、ユーザのグローバル検索範囲のオブジェクトや、最後に使用した (MRU) オブジェクトのレコードなどがあります。
Search	<code>/vXX.X/search/?q=sosl</code> 指定された SOSL 検索を実行します。検索文字列は URL 符号化されている必要があります。
Search Scope and Order	<code>/vXX.X/search/scopeOrder</code> ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲内にあるオブジェクトの順序付きリストを返します。グローバル検索は、操作するオブジェクトとそれらを実行する頻度を追跡し、それに基づいて検索結果を編成します。最もよく使用されるオブジェクトは、リストの最上部に表示されます。
Search Result Layouts	<code>/vXX.X/searchlayout/?q=カンマ区切りのオブジェクトリスト</code> クエリ文字列に含まれるオブジェクトの検索結果レイアウトに関する情報を返します。このコールでは、検索結果ページに列として表示される項目のリスト、最初のページに表示される行数、および検索結果ページで使用される表示ラベルがオブジェクトごとに返されます。
Search Suggested Article Title Matches	<code>/vXX.X/search/suggestTitleMatches?q=search string&language=article language&publishStatus=article publication status</code> ユーザの検索クエリ文字列に一致する Salesforce ナレッジ記事タイトルのリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、関連する可能性のある記事に直接移動するためのショートカットを提供します。
Search Suggested Queries	<code>vXX.X/search/suggestSearchQueries?q=search string&language=language of query</code> 他のユーザが Salesforce ナレッジで実行した検索に一致するユーザのクエリ文字列テキストに基づいて、提案する検索のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、検索の有効性を高める手段を提供します。
Tabs	<code>/vXX.X/tabs</code>

リソース名	URI および説明
	ユーザが [すべてのタブ] ([+]) タブカスタマイズ機能を使用してタブを非表示にしているかどうかに関係なく、ログインユーザが使用できるすべてのタブ (Lightning ページのタブを含む) のリストを返します。
Themes	/vXX.X/theme Salesforce アプリケーションのテーマで使用するアイコンと色のリストを取得します。

複合リソース

リソース名	URI	説明
Batch	/vXX.X/composite/batch	1回の要求で最大25個のサブ要求を実行します。
SOBJECT TREE	/vXX.X/composite/tree	指定されたタイプのルートレコードを持つ1つ以上の sObject ツリーを作成します。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親-子レコードのコレクションです。

Versions

バージョン、表示ラベル、および各バージョンのルートへのリンクなど、現在使用可能な各 Salesforce バージョンの概要情報をリストします。

URI

/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

なし

パラメータ

なし

例

「[使用可能な REST API バージョンをリストする](#)」 (ページ 46) を参照してください。

Resources by Version

リソース名および URI を含む、指定された API バージョンで使用可能なリソースをリストします。

URI

/vXX.X/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例

「[使用可能な REST リソースをリストする](#)」(ページ 47)を参照してください。

Describe Global

組織のデータで使用可能なオブジェクトとそのメタデータをリストします。さらに、組織の文字コードとクエリで許可される最大バッチサイズを返します。文字コードについての詳細は、「[国際化と文字コード](#)」を参照してください。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降に使用可能なオブジェクトのメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで `304 Not Modified` 状況コードが返されます。

URI

/vXX.X/subjects/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

例

「[オブジェクトのリストを取得する](#)」(ページ 48)を参照してください。

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

sObject Basic Information

指定されたオブジェクトの個別のメタデータを説明します。特定のオブジェクトの新規レコードの作成にも使用できます。たとえば、これは、GET メソッドを使用した Account オブジェクトのメタデータの取得や、POST メソッドを使用した新規 Account オブジェクトの作成に使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

- オブジェクトのメタデータを取得する例は、「[オブジェクトのメタデータを取得する](#)」(ページ 50)を参照してください。
- POST を使用した新規レコードを作成する例は、「[レコードを作成する](#)」(ページ 54)を参照してください。
- レコードの blob データを指定して新規レコードを作成する例は、「[Blob データを挿入または更新する](#)」(ページ 68)を参照してください。

sObject Describe

指定されたオブジェクトのすべてのレベルで、個別のメタデータを完全に説明します。たとえば、これは、Account オブジェクトの項目、URL、および子リレーションを取得するために使用できます。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降にオブジェクトメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで 304 Not Modified 状況コードが返されます。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/describe/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

「オブジェクトの項目と他のメタデータを取得する」(ページ51)を参照してください。If-Modified-Since HTTP ヘッダーの使用例は、「オブジェクトのメタデータの変更の取得」(ページ 52)を参照してください。

sObject Get Deleted

指定されたオブジェクトについて、特定の期間内に削除された個々のレコードのリストを取得します。sObject Get Deleted は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。

このリソースは、データ複製アプリケーションで一般的に使用されます。次の考慮事項に注意してください。

- 削除されたレコードは、このリソースからアクセス可能な削除ログに出力されます。2時間ごとに実行されるバックグラウンドプロセスは、削除ログのレコード数が制限を超えた場合、削除ログに書き込まれてから2時間以上経過したレコードを消去します。最も古いレコードから順に、削除ログが制限を下回るまで消去を行います。大量の削除ログによる Salesforce のパフォーマンス上の問題を防ぐためにこの処理を行います。
- 削除されたレコードに関する情報は、現在のセッションのユーザにそれらのレコードへのアクセス権がある場合にのみ返されます。
- コールが実行された日から 15 日以内の結果が返されます (管理者がごみ箱の中身を消去した場合、期間が短くなる場合があります)。

データ複製およびデータ複製の制限についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「データ複製」を参照してください。

URI

```
/vXX.X/subjects/sObjectName/deleted/?start=startDateAndTime&end=endDateAndTime
```

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

パラメータ	説明
start	データを取得する期間の開始日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。API は、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (<code>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</code>) で指定する必要があります。start の日付/時間値は、end の値より過去の日時でなければなりません。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。
end	データを取得する期間の終了日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。API は、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:35:15 は 12:35:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式

パラメータ	説明
	(YYYY-MM-DD[hh:mm:ss+hh:mm])で指定する必要があります。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。

応答形式

プロパティ	型	説明
deletedRecords	array	要求で指定された開始日と終了日を満たす削除されたレコードの配列。各エントリには、レコード ID と協定世界時 (UTC) タイムゾーンを使用した ISO 8601 形式でそのレコードが削除された日時が含まれています。
earliestDateAvailable	String	最後に物理的に削除されたオブジェクトの ISO 8601 形式のタイムスタンプ (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC) タイムゾーン)。
latestDateCovered	String	要求の対象となる最終日の ISO 8601 形式のタイムスタンプ (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC) タイムゾーン)。

例

削除された項目のリストを取得する例は、「[特定の期間に削除されたレコードのリストの取得](#)」(ページ 72)を参照してください。

sObject Get Updated

指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に更新された (追加または変更された) 個別のレコードのリストを取得します。sObject Get Updated は、API バージョン 29.0 以降で使用できます。

このリソースは、データ複製アプリケーションで一般的に使用されます。次の考慮事項に注意してください。

- コールが実行された日から 30 日以内の結果が返されます。
- クライアントアプリケーションは、適切な権限が付与されている場合、任意のオブジェクトを複製できます。たとえば、組織のすべてのデータを複製するには、クライアントアプリケーションは指定されたオブジェクトの「すべてのデータの参照」アクセス権限を持ってログインしなければなりません。同様に、オブジェクトはそのユーザの共有ルールに含まれていなければなりません。
- このリソースから返される ID は、600,000 件までに制限されています。600,000 件以上の ID が返された場合、EXCEEDED_ID_LIMIT が返されます。開始日と終了日の期間を短くすることでこのエラーを回避できます。

データ複製およびデータ複製の制限についての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「データ複製」を参照してください。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/updated/?start=*startDateAndTime*&end=*endDateAndTime*

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer *token***パラメータ**

パラメータ	説明
start	データを取得する期間の開始日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。APIは、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (<code>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</code>) で指定する必要があります。start の日付/時間値は、end の値より過去の日時でなければなりません。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。
end	データを取得する期間の終了日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。APIは、指定された <code>dateTime</code> 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:35:15 は 12:35:00 UTC となります)。日時は、ISO 8601 形式 (<code>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</code>) で指定する必要があります。このパラメータは URL 符号化されている必要があります。

応答形式

プロパティ	型	説明
ids	array	要求で指定された開始日と終了日を満たす更新されたレコードの配列。各エントリにはレコード ID が含まれます。
latestDateCovered	String	要求の対象となる最終日の ISO 8601 形式のタイムスタンプ(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC) タイムゾーン)。

例

更新された項目のリストを取得する例は、[「特定の期間に更新されたレコードのリストの取得」](#) (ページ 72)を参照してください。

SObject Named Layouts

特定のオブジェクトの代替名前付きレイアウトに関する情報を取得します。

構文

URI

/vXX.X/subjects/**Object**/describe/namedLayouts/**LayoutName**

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

例

/services/data/v31.0/subjects/User/describe/namedLayouts/UserAlt

この例では、User の「UserAlt」名前付きレイアウトに関する情報を取得します。

使用方法

このリソースを使用して、特定のオブジェクトの名前付きレイアウトに関する情報を取得します。有効な名前付きレイアウト名をリソース URI の一部として指定する必要があります。

特定のオブジェクトの名前付きレイアウトのリストを取得するには、[sObject Describe](#) リソースを使用し、レスポンスボディで「namedLayoutInfos」項目を見つけます。

sObject Rows

指定されたオブジェクト ID に基づいてレコードにアクセスします。レコードを取得、更新、または削除します。このリソースは、項目値の取得にも使用できます。レコードまたは項目を取得するには GET メソッド、レコードを削除するには DELETE メソッド、レコードを更新するには PATCH メソッドを使用します。

新規レコードを作成するには、[sObject Basic Information](#) リソースを使用します。

URI

/vXX.X/subjects/**sObjectName**/**id**/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、PATCH、DELETE

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
fields	値を返すために使用される項目のリスト (省略可能)

使用方法

このリソースは API バージョン 32.0 以降で外部オブジェクトに使用できます。


- データが大量ではない外部データソースに関連付けられた外部オブジェクトは、*id* に 18 文字の Salesforce ID を使用します。それ以外の外部オブジェクトは、*id* に外部オブジェクトの外部 ID 標準項目を使用します。

例

- GET を使用して項目値を取得する例については、下記を参照してください。
 - 標準オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 56)
 - 外部 ID 標準項目を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 57)
 - Salesforce ID を使用して外部オブジェクトレコードから項目値を取得する (ページ 57)
- PATCH を使用してレコードを更新する例は、「レコードを更新する」 (ページ 54) を参照してください。
- DELETE を使用してレコードを削除する例は、「レコードを削除する」 (ページ 56) を参照してください。
- オブジェクトの blob データを更新する例は、「Blob データを挿入または更新する」 (ページ 68) を参照してください。

sObject Rows by External ID

指定された外部 ID 項目の値に基づいて、新しいレコードを作成するか、既存のレコードを更新 (レコードを Upsert) します。

- 指定された値が存在しない場合、新しいレコードが作成されます。
 - 指定された値のレコードが存在する場合、リクエストボディに指定された項目値が更新されます。
 - 値が一意でない場合、REST API によって、一致するレコードのリストと共に HTTP 状況コード 300 が返されます。
-  **メモ:** リクエストボディに ID または外部 ID 項目を指定してはいけません。指定すると、エラーが発生します。

URI

/vXX.X/subjects/*sObjectName*/*fieldName*/*fieldValue*

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、PATCH、DELETE、POST (「使用方法」セクションを参照)

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

なし

使用方法

特殊なケースとして、APIバージョン 37.0 以降では、`/vXX.X/subjects/sObjectName/Id` に POST することで、このリソースを使用してレコードを作成できます。このパターンは、`Id` を指定外部ID項目として使用し、`null` を値として使用していることを表しています。これは、異なる外部IDによって複数のレコードを Upsert するコードを記述していて、個別のリソースを要求したくない場合に役立ちます。

例

- 外部IDに基づいてレコードを取得する例は、「[外部IDを使用してレコードを取得する](#)」(ページ 58)を参照してください。
- 外部IDに基づいてレコードを作成および更新する例は、「[外部IDを使用してレコードを挿入/更新\(Upsert\)する](#)」(ページ 58)を参照してください。

sObject Blob Retrieve

個別のレコードから指定された blob 項目を取得します。

URI

`/vXX.X/subjects/sObjectName/id/blobField`

形式

blob 項目にはバイナリデータが含まれるため、このデータの取得に JSON または XML を使用することはできません。

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

例

Attachment または Document から blob データを取得する例は、「[レコードから添付ファイルコンテンツを取得する](#)」(ページ 67)を参照してください。

エラー応答

「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

sObject ApprovalLayouts

指定されたオブジェクトの承認レイアウトのリストを返します。返される値を1つの特定の承認レイアウトに制限するには、特定の承認プロセス名を指定します。このリソースは REST API バージョン 30.0 以降で使用できます。

構文

URI

指定されたオブジェクトの承認レイアウトの説明を取得するに

は、`/vXX.X/subjects/sObjectName/describe/approvalLayouts/` を使用します。

特定の承認プロセスの承認レイアウトの説明を取得するに

は、`/vXX.X/subjects/sObjectName/describe/approvalLayouts/approvalProcessName` を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

例

sObject のすべての承認レイアウトを取得する。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Account/describe/approvalLayouts/
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvalLayouts" : [ {
    "id" : "04aD00000008Py9IAE",
    "label" : "MyApprovalProcessName",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "MyApprovalProcessName"
  }, {
    "id" : "04aD00000008Q0KIAU",
    "label" : "Process1",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "Process1"
  } ]
}
```

オブジェクトの承認レイアウトを定義していない場合は、応答が `{"approvalLayouts" : []}` になります。

特定の承認プロセスの承認レイアウトを取得する。

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Account/describe/approvalLayouts/MyApprovalProcessName
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "approvalLayouts" : [ {
    "id" : "04aD00000008Py9IAE",
    "label" : "MyApprovalProcessName",
    "layoutItems" : [...],
    "name" : "MyApprovalProcessName"
  } ]
}
```

sObject CompactLayouts

特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトのリストを返します。このリソースは REST API バージョン 29.0 以降で使用できます。

構文

URI

特定のオブジェクトのコンパクトレイアウトの説明について

は、`/vXX.X/subjects/Object/describe/compactLayouts/` を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

例

コンパクトレイアウトの取得

```
/services/data/v29.0/subjects/Account/describe/compactLayouts
```

JSON レスポンスボディの例

このサンプルの JSON 応答は、Account オブジェクトに対して作成されたコンパクトレイアウト用です。この例では、Account に対してカスタムコンパクトレイアウトが 1 つのみ作成されます。カスタムコンパクトレイアウトは、オブジェクトの主コンパクトレイアウトとして割り当てられ、「取引先名」と「電話」の 2 つの項目が含まれます。

```
{
  "compactLayouts" : [ {
    "actions" : [ {
```



```
    "custom" : false,
    "icons" : null,
    "label" : "Call",
    "name" : "CallHighlightAction"
  }, {
    "custom" : false,
    "icons" : null,
    "label" : "Send Email",
    "name" : "EmailHighlightAction"
  }, {
    "custom" : false,
    "icons" : null,
    "label" : "Map",
    "name" : "MapHighlightAction"
  }, {
    "custom" : false,
    "icons" : null,
    "label" : "Read News",
    "name" : "NewsHighlightAction"
  }, {
    "custom" : false,
    "icons" : null,
    "label" : "View Website",
    "name" : "WebsiteHighlightAction"
  } ],
  "fieldItems" : [ {
    "editable" : false,
    "label" : "Account Name",
    "layoutComponents" : [ {
      "components" : [ ],
      "details" : {
        "autoNumber" : false,
        "byteLength" : 765,
        "calculated" : false,
        "calculatedFormula" : null,
        "cascadeDelete" : false,
        "caseSensitive" : false,
        "controllerName" : null,
        "createable" : true,
        "custom" : false,
        "defaultValue" : null,
        "defaultValueFormula" : null,
        "defaultedOnCreate" : false,
        "dependentPicklist" : false,
        "deprecatedAndHidden" : false,
        "digits" : 0,
        "displayLocationInDecimal" : false,
        "externalId" : false,
        "extraTypeInfo" : null,
        "filterable" : true,
        "groupable" : true,
        "htmlFormatted" : false,
        "idLookup" : false,
        "inlineHelpText" : null,
```

```
    "label" : "Account Name",
    "length" : 255,
    "mask" : null,
    "maskType" : null,
    "name" : "Name",
    "nameField" : true,
    "namePointing" : false,
    "nillable" : false,
    "permissionable" : false,
    "picklistValues" : [ ],
    "precision" : 0,
    "queryByDistance" : false,
    "referenceTo" : [ ],
    "relationshipName" : null,
    "relationshipOrder" : null,
    "restrictedDelete" : false,
    "restrictedPicklist" : false,
    "scale" : 0,
    "soapType" : "xsd:string",
    "sortable" : true,
    "type" : "string",
    "unique" : false,
    "updateable" : true,
    "writeRequiresMasterRead" : false
  },
  "displayLines" : 1,
  "tabOrder" : 2,
  "type" : "Field",
  "value" : "Name"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
}, {
  "editable" : false,
  "label" : "Phone",
  "layoutComponents" : [ {
    "components" : [ ],
    "details" : {
      "autoNumber" : false,
      "byteLength" : 120,
      "calculated" : false,
      "calculatedFormula" : null,
      "cascadeDelete" : false,
      "caseSensitive" : false,
      "controllerName" : null,
      "createable" : true,
      "custom" : false,
      "defaultValue" : null,
      "defaultValueFormula" : null,
      "defaultedOnCreate" : false,
      "dependentPicklist" : false,
      "deprecatedAndHidden" : false,
      "digits" : 0,
      "displayLocationInDecimal" : false,
```

```
    "externalId" : false,
    "extraTypeInfo" : null,
    "filterable" : true,
    "groupable" : true,
    "htmlFormatted" : false,
    "idLookup" : false,
    "inlineHelpText" : null,
    "label" : "Account Phone",
    "length" : 40,
    "mask" : null,
    "maskType" : null,
    "name" : "Phone",
    "nameField" : false,
    "namePointing" : false,
    "nillable" : true,
    "permissionable" : true,
    "picklistValues" : [ ],
    "precision" : 0,
    "queryByDistance" : false,
    "referenceTo" : [ ],
    "relationshipName" : null,
    "relationshipOrder" : null,
    "restrictedDelete" : false,
    "restrictedPicklist" : false,
    "scale" : 0,
    "soapType" : "xsd:string",
    "sortable" : true,
    "type" : "phone",
    "unique" : false,
    "updateable" : true,
    "writeRequiresMasterRead" : false
  },
  "displayLines" : 1,
  "tabOrder" : 3,
  "type" : "Field",
  "value" : "Phone"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
} ],
"id" : "0AHD000000000AbOAI",
"imageItems" : [ {
  "editable" : false,
  "label" : "Photo URL",
  "layoutComponents" : [ {
    "components" : [ ],
    "details" : {
      "autoNumber" : false,
      "byteLength" : 765,
      "calculated" : false,
      "calculatedFormula" : null,
      "cascadeDelete" : false,
      "caseSensitive" : false,
      "controllerName" : null,
```

```
    "createable" : false,
    "custom" : false,
    "defaultValue" : null,
    "defaultValueFormula" : null,
    "defaultedOnCreate" : false,
    "dependentPicklist" : false,
    "deprecatedAndHidden" : false,
    "digits" : 0,
    "displayLocationInDecimal" : false,
    "externalId" : false,
    "extraTypeInfo" : "imageurl",
    "filterable" : true,
    "groupable" : true,
    "htmlFormatted" : false,
    "idLookup" : false,
    "inlineHelpText" : null,
    "label" : "Photo URL",
    "length" : 255,
    "mask" : null,
    "maskType" : null,
    "name" : "PhotoUrl",
    "nameField" : false,
    "namePointing" : false,
    "nillable" : true,
    "permissionable" : false,
    "picklistValues" : [ ],
    "precision" : 0,
    "queryByDistance" : false,
    "referenceTo" : [ ],
    "relationshipName" : null,
    "relationshipOrder" : null,
    "restrictedDelete" : false,
    "restrictedPicklist" : false,
    "scale" : 0,
    "soapType" :
    "xsd:string",
    "sortable" : true,
    "type" : "url",
    "unique" : false,
    "updateable" : false,
    "writeRequiresMasterRead" : false
  },
  "displayLines" : 1,
  "tabOrder" : 1,
  "type" : "Field",
  "value" : "PhotoUrl"
} ],
"placeholder" : false,
"required" : false
} ],
"label" : "Custom Account Compact Layout",
"name" : "Custom_Account_Compact_Layout"
} ],
"defaultCompactLayoutId" : "0AHD000000000AboAI",
```

```

"recordTypeCompactLayoutMappings" : [ {
  "available" : true,
  "compactLayoutId" : "0AHD000000000AbOAI",
  "compactLayoutName" : "Custom_Account_Compact_Layout",
  "recordTypeId" : "012000000000000AAA",
  "recordTypeName" : "Master",
  "urls" : {
    "compactLayout" :
"/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/012000000000000AAA"
  }
} ],
"urls" : {
  "primary" : "/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/primary"
}
}
}

```

オブジェクトのコンパクトレイアウトを定義していない場合は、compactLayoutId が Null として返されます。

Describe Layouts

レイアウトおよび説明のリストを返します。項目のリストおよびレイアウト名が返されます。

URI

グローバルパブリッシャーレイアウトの説明を返すための URI は、/vXX.X/subjects/Global/describe/layouts/ です。

特定のオブジェクトのレイアウトの説明については、/vXX.X/subjects/**Object**/describe/layouts/ を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

グローバルパブリッシャーレイアウトの取得例

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v35.0/subjects/Global/describe/layouts/
-H "Authorization: Bearer token"

```

JSON レスポンスボディ contactlayout.json ファイルの例

```

[ { "name" : "contactlayout",
  "searchColumns" : [ { "field" : "Account.Name",
    "format" : null,
    "label" : "Account Name",

```

```
        "name" : "Name"
      },
      { "field" : "Account.Site",
        "format" : null,
        "label" : "Account Site",
        "name" : "Site"
      },
      { "field" : "Account.Phone",
        "format" : null,
        "label" : "Phone",
        "name" : "Phone"
      },
      { "field" : "User.Alias",
        "format" : null,
        "label" : "Account Owner Alias",
        "name" : "Owner.Alias"
      }
    ]
  },
  { "label" : "Search Results",
    "limitRows" : 25,
    "searchColumns" : [ { "field" : "Contact.Name",
      "format" : null,
      "label" : "Name",
      "name" : "Name"
    },
    { "field" : "Account.Name",
      "format" : null,
      "label" : "Account Name",
      "name" : "Account.Name"
    },
    { "field" : "Account.Site",
      "format" : null,
      "label" : "Account Site",
      "name" : "Account.Site"
    },
    { "field" : "Contact.Phone",
      "format" : null,
      "label" : "Phone",
      "name" : "Phone"
    },
    { "field" : "Contact.Email",
      "format" : null,
      "label" : "Email",
      "name" : "Email"
    },
    { "field" : "User.Alias",
      "format" : null,
      "label" : "Contact Owner Alias",
      "name" : "Owner.Alias"
    }
  ]
},
{ "label" : "Search Results",
```

```
"limitRows" : 25,
"searchColumns" : [ { "field" : "Lead.Name",
  "format" : null,
  "label" : "Name",
  "name" : "Name"
},
{ "field" : "Lead.Title",
  "format" : null,
  "label" : "Title",
  "name" : "Title"
},
{ "field" : "Lead.Phone",
  "format" : null,
  "label" : "Phone",
  "name" : "Phone"
},
{ "field" : "Lead.Company",
  "format" : null,
  "label" : "Company",
  "name" : "Company"
},
{ "field" : "Lead.Email",
  "format" : null,
  "label" : "Email",
  "name" : "Email"
},
{ "field" : "Lead.Status",
  "format" : null,
  "label" : "Lead Status",
  "name" : "toLabel(Status)"
},
{ "field" : "Name.Alias",
  "format" : null,
  "label" : "Owner Alias",
  "name" : "Owner.Alias"
}
]
},
]
```

SObject PlatformAction

PlatformAction は、参照のみの仮想オブジェクトです。ユーザ、コンテキスト、デバイス形式、レコードIDに応じて、UIに表示するアクションをクエリできるようにします。たとえば、標準およびカスタムボタン、クイックアクション、生産性アクションなどをクエリできます。

PlatformAction の説明を返します。

構文

URI

`/services/data/vXX.X/subjects/PlatformAction` を使用します。

適用開始バージョン

このリソースは API バージョン 33.0 以降で使用できます。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

なし。

使用方法

このリソースで可能な操作は [クエリ](#) のみです。

sObject Quick Actions

アクションとその詳細のリストを返します。このリソースは REST API バージョン 28.0 以降で使用できます。アクションを使用する場合は、「[Quick Actions](#)」も参照してください。

URI

グローバルアクションだけでなく特定のオブジェクトのアクションを返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/` を使用します。

特定のアクションを返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}` を使用します。

特定のアクションの説明の詳細を返すには、`/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/describe/` を使用します。

デフォルトの項目値を含め、特定のアクションのデフォルト値を返すには、`services/data/vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/` を使用します。

API バージョン 28.0 で、アクションのデフォルト値を評価するには、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/{親 ID}` を使用します。

API バージョン 29.0 以降で、アクションのデフォルト値を評価するには、`vXX.X/subjects/object/quickActions/{アクション名}/defaultValues/{コンテキスト ID}` を使用します。

これは、{コンテキスト ID} オブジェクトに固有のデフォルト値を返します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証Authorization: Bearer **token****パラメータ**

不要

取引先アクションを取得する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v28.0/subjects/Account/quickActions
-H "Authorization: Bearer token"
```

アクションを使用して取引先で取引先責任者を作成する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v28.0/subjects/Account/quickActions/CreateContact
-H 'Authorization: Bearer access_token -H "Content-Type: application/json" -d
@newcontact.json'
```

JSON リクエストボディ newcontact.json ファイルの例

```
{
  "contextId" : "001D0000000JRSGf",
  "record" : { "LastName" : "Smith" }
}
```

考慮事項

- リソースからは、要求したアクションに加え、すべてのアクション(グローバルおよび標準)が返されます。

SObject Relationships

使い慣れたURLを介してオブジェクトリレーションをトラバースし、レコードにアクセスします。トラバースされたリレーション項目に関連付けられたレコードを取得、更新、または削除できます。複数の関連レコードがある場合、関連付けられたレコードの完全なセットを取得できます。このリソースはREST APIバージョン36.0以降で使用できます。

URI/v**xx.x**/subjects/**SObject**/**id**/**relationship field name****形式**

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、PATCH、DELETE

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
fields	GET では省略可能です。返される関連付けられているリレーションレコードの項目のリスト。項目はカンマで区切られます。以下に例を示します。

```
/services/data/v36.0/subjects/SObject/id/relationship
field?fields=field1,field2
```

レスポンスボディ

GETを使用して取得する場合、レスポンスボディはリレーション項目に関連付けられたレコードのコンテンツです。カスタムオブジェクト Merchandise__c のリレーション項目に関連付けられた Distributor__c レコードを返す、簡単なリレーショントラバースの要求と JSON レスポンスボディの例を次に示します。

```
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v38.0/subjects/Merchandise__c/a01D000000INjVe/Distributor__r
```

```
{
  "attributes" :
  {
    "type" : "Distributor__c",
    "url" : "/services/data/v36.0/subjects/Distributor__c/a03D0000003DUhcIAG"
  },
  "Id" : "a03D0000003DUhcIAG",
  "OwnerId" : "005D0000001KyEIIA0",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "Distributor1",
  "CreatedDate" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "CreatedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "LastModifiedDate" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D0000001KyEIIA0",
  "SystemModstamp" : "2011-12-16T17:43:01.000+0000",
  "Location__c" : "San Francisco"
}
```

レスポンスボディは、PATCH を介した更新と DELETE を介した削除では返されません。

エラー応答

リレーション項目に関連付けられたレコードがない場合、404エラー応答が返されます。リレーション項目が正常に複数のレコードに解決され、リレーションセットが存在しない場合、200応答が返されます。項目レベルセキュリティによってコンシューマに表示されないか存在しない項目で fields パラメータが使用されている場合、400エラー応答が返されます。その他のエラーメッセージについては、「[状況コードとエラー応答](#)」(ページ 232)を参照してください。

例

SObject Relationships を使用してリレーション項目にアクセスする例については、「[フレンドリー URL を使用したリレーションのトラバース](#)」(ページ 62)を参照してください。

SObject Suggested Articles

ケース、作業指示、または作業指示品目について提案する Salesforce ナレッジの記事のリストを返します。

構文

URI

作成しているケース、作業指示、または作業指示品目に対する推奨記事を返すには、`vXX.X/subjects/s オブジェクト/suggestedArticles?language=article`

`language&subject=subject&description=description` を使用します。*s* オブジェクトは、Case、WorkOrder、または WorkOrderLineItem です。推奨は、レコードが保存されてIDが割り当てられる前に入力されたタイトル、説明、またはその他の情報内の一般的なキーワードに基づいて行われます。

たとえば、`vXX.X/subjects/ケース/suggestedArticles?language=article`

`language&subject=subject&description=description` または
`vXX.X/subjects/WorkOrder/suggestedArticles?language=article`
`language&subject=subject&description=description` です。

IDが存在する既存のレコードの推奨記事を返すには、`vXX.X/subjects/s オブジェクト/ID/suggestedArticles?language=article language` を使用します。

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
<code>articleTypes</code>	省略可能。目的の記事タイプを示す3文字のIDプレフィックス。値ごとにパラメータ名を繰り返すことで、1回のRESTコールでこのパラメータに複数の値を指定できます。たとえば、 <code>articleTypes=ka0&articleTypes=ka1</code> です。
<code>categories</code>	省略可能。目的の記事のデータカテゴリグループの名前とデータカテゴリ API 名 (カテゴリタイトルではない)。この構文は

パラメータ	説明
	<p>categories={"Group":"Category"} です。URL 内の文字を符号化する必要がある場合があります。以下に例を示します。</p> <pre>categories=%7B%22Regions%22%3A%22Asia%22%2C%22Products%22%3A%22Laptops%22%7D</pre> <p>同じデータカテゴリグループを複数回指定することはできません。ただし、複数のデータカテゴリグループとデータカテゴリのペアを指定できます。例:</p> <pre>categories={"Regions":"Asia","Products":"Laptops"}.</pre>
description	説明のテキスト。既存のIDがない新規レコードに対してのみ有効で、subject がnullの場合は必須です。記事の推奨は、件名、説明、またはその両方に含まれる一般的なキーワードに基づいて行われます。
language	必須。記事が作成されている言語。
limit	省略可能。返される推奨記事の最大数を指定します。
publishStatus	省略可能。記事の公開状況。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Draft – 非公開 • Online – Salesforce ナレッジに公開 • Archived
subject	件名のテキスト。既存のIDがない新規レコードに対してのみ有効で、description がnullの場合は必須です。記事の推奨は、件名、説明、またはその両方に含まれる一般的なキーワードに基づいて行われます。
topics	省略可能。返される記事のトピック。たとえば、topics=outlook&topics=email です。
validationStatus	省略可能。返される記事の検証状況。

作成中のケースの推奨記事を取得する場合の例

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/subjects/Case/suggestedArticles?
language=en_US&subject=orange+banana&articleTypes=ka0&articleTypes=ka1
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "attributes" : {
    "type" : "KnowledgeArticleVersion",
```

```

    "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CcQ"
    "Id" : "ka0D00000004CcQ"
  }, {
    "attributes" : {
      "type" : "KnowledgeArticleVersion",
      "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CXo"
    },
    "Id" : "ka0D00000004CXo"
  } ]

```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。ユーザの「記事の参照」権限が有効化されている必要があります。ユーザが参照する権限を持つデータカテゴリおよび記事タイプに基づいて、ユーザがアクセスできる記事のみが推奨記事に含まれます。

記事は、関連アルゴリズムに基づいて推奨されます。suggestedArticles リソースは、ケース、作業指示、または作業指示品目に関する記事の ID を取得するように設計されています。表示用の記事データを取得するために ID を使用する他のサービスと併用することを目的としています。

sObject User Password

ユーザパスワードを設定またはリセットしたり、ユーザパスワードに関する情報を取得したりします。このリソースは REST API バージョン 24.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/User/**ユーザ ID**/password

セルフサービスユーザのパスワードを管理する場合、URI は次のとおりです。

/vXX.X/subjects/SelfServiceUser/**セルフサービスユーザ ID**/password

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST、DELETE

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

不要

例

パスワード情報の取得、パスワードの設定、パスワードのリセットの例は、「[ユーザパスワードを管理する](#)」(ページ 88)を参照してください。

考慮事項

- セッションにユーザ情報にアクセスする権限がない場合、INSUFFICIENT_ACCESS エラーが返されます。

- このリソースを使用して新しいパスワードを設定する場合、新しいパスワードは、組織のパスワードポリシーに適合している必要があり、適合していない場合は、INVALID_NEW_PASSWORDエラー応答が返されます。
- 1つの要求で設定可能なパスワードは1つのみです。
- このリソースのDELETEメソッドを使用する場合、Salesforceは、ユーザパスワードを自動生成されたパスワードにリセットし、応答で返します。

AppMenu

Salesforce アプリケーションドロップダウンメニューまたは Salesforce1 ナビゲーションメニューの項目のリストを返します。

構文

URI

Salesforce アプリケーションドロップダウンメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/` を使用します。

Salesforce1 ナビゲーションメニュー項目のリストを返すには、URI に `/vXX.X/appMenu/Salesforce1/` を使用します。

適用開始バージョン

29.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD

認証

Authorization: Bearer *token*

リクエストボディ

None

要求パラメータ

不要

例

appMenu の種別の取得

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v29.0/appMenu/ -H "Authorization: Bearer token"
```

`/vXX.X/appMenu/AppSwitcher/` のレスポンスボディの例

```
{
  "appMenuItems" : [ {
    "type" : "Tabset",
```

```
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Sales",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sq"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Call Center",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sr"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Marketing",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056St"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Salesforce Chatter",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Su"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Community",
    "url" : "/home/home.jsp?tsid=02uxx00000056Sw"
  }, {
    "type" : "Tabset",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "App Launcher",
    "url" : "/app/mgmt/applauncher/appLauncher.apexp?tsid=02uxx00000056Sx"
  } ]
}
```

/vXX.X/appMenu/Salesforce1/ のレスポンスボディの例

```
{
  "appMenuItems" : [ {
    "type" : "Standard.Search",
    "content" : null,
    "icons" : null,
    "colors" : null,
    "label" : "Smart Search Items",
    "url" : "/search"
  }, {
    "type" : "Standard.MyDay",
```

```
"content" : null,
"icons" : null,
"colors" : null,
"label" : "Today",
"url" : "/myDay"
}, {
  "type" : "Standard.Tasks",
  "content" : null,
  "icons" : null,
  "colors" : null,
  "label" : "Tasks",
  "url" : "/tasks"
}, {
  "type" : "Standard.Dashboards",
  "content" : null,
  "icons" : null,
  "colors" : null,
  "label" : "Dashboards",
  "url" : "/dashboards"
}, {
  "type" : "Tab.flexiPage",
  "content" : "MySampleFlexiPage",
  "icons" : [ {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 32,
    "height" : 32,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/custom51_100/bell132.png"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 16,
    "height" : 16,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/custom51_100/bell116.png"
  }, {
    "contentType" : "image/svg+xml",
    "width" : 0,
    "height" : 0,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53.svg"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 60,
    "height" : 60,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53_60.png"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 120,
    "height" : 120,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom53_120.png"
  } ],
  "colors" : [ {
```



```
    "context" : "primary",
    "color" : "FC4F59",
    "theme" : "theme4"
  }, {
    "context" : "primary",
    "color" : "FC4F59",
    "theme" : "theme3"
  } ],
  "label" : "My App Home Page",
  "url" : "/servlet/servlet.Integration?lid=01rxx0000000Vsd&ic=1"
}, {
  "type" : "Tab.apexPage",
  "content" : "/apex/myapexpage",
  "icons" : [ {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 32,
    "height" : 32,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/cash32.png"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 16,
    "height" : 16,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/cash16.png"
  }, {
    "contentType" : "image/svg+xml",
    "width" : 0,
    "height" : 0,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41.svg"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 60,
    "height" : 60,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41_60.png"
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "width" : 120,
    "height" : 120,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "http://myorg.com/img/icon/t4/custom/custom41_120.png"
  } ],
  "colors" : [ {
    "context" : "primary",
    "color" : "3D8D8D",
    "theme" : "theme4"
  }, {
    "context" : "primary",
    "color" : "3D8D8D",
    "theme" : "theme3"
  } ],
  "label" : "label",
```

```

    "url" : "/servlet/servlet.Integration?lid=01rxx0000000Vyb&ic=1"
  } ]
}

```

Compact Layouts

複数のオブジェクトのCompact Layoutsのリストを返します。このリソースはREST APIバージョン31.0以降で使用できます。

このリソースは、オブジェクトのセットの主Compact Layoutsを返します。オブジェクトのセットは、クエリパラメータを使用して指定します。一度に最大100個のオブジェクトをクエリできます。

- ☑ **メモ:** 一括クエリでは、PersonAccountはサポートされていません。PersonAccountの主Compact Layoutsを取得する場合は、`/services/data/v31.0/subjects/Account/describe/compactLayouts/primaryPersonAccount`から直接取得します。

構文

URI

`/vXX.X/compactLayouts?q=オブジェクトリスト`

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

要求パラメータ

パラメータ	説明
q	オブジェクトのカンマ区切りリスト。このリソースの応答で、このリスト内の各オブジェクトの主Compact Layoutsが返されます。

例

複数のオブジェクトのCompact Layoutsの取得を要求します。

```
/services/data/v31.0/compactLayouts?q=Account,Contact,CustomObj__c
```

複数のオブジェクトのCompact Layoutsの応答

```
{
  "Account" : {
```

```
"actions" : [ {
  "behavior" : null,
  "content" : null,
  "contentSource" : null,
  "custom" : false,
  "encoding" : null,
  "height" : null,
  "icons" : null,
  "label" : "Call",
  "menubar" : false,
  "name" : "CallHighlightAction",
  "overridden" : false,
  "resizeable" : false,
  "scrollbars" : false,
  "showsLocation" : false,
  "showsStatus" : false,
  "toolbar" : false,
  "url" : null,
  "width" : null,
  "windowPosition" : null
},
...
"id" : "0AHD000000000AbOAI",
"label" : "Custom Account Compact Layout",
"name" : "Custom_Account_Compact_Layout"
},
"Contact" : {
  "actions" : [ {
    "behavior" : null,
    "content" : null,
    "contentSource" : null,
    "custom" : false,
    "encoding" : null,
    "height" : null,
    "icons" : null,
    "label" : "Call",
    "menubar" : false,
    "name" : "CallHighlightAction",
    "overridden" : false,
    "resizeable" : false,
    "scrollbars" : false,
    "showsLocation" : false,
    "showsStatus" : false,
    "toolbar" : false,
    "url" : null,
    "width" : null,
    "windowPosition" : null
  },
  ...
  "id" : null,
  "label" : "System Default",
  "name" : "SYSTEM"
}
"CustomObj__c" : {
```


```

"actions" : [ {
  "behavior" : null,
  "content" : null,
  "contentSource" : null,
  "custom" : false,
  "encoding" : null,
  "height" : null,
  "icons" : null,
  "label" : "Call",
  "menubar" : false,
  "name" : "CallHighlightAction",
  "overridden" : false,
  "resizeable" : false,
  "scrollbars" : false,
  "showsLocation" : false,
  "showsStatus" : false,
  "toolbar" : false,
  "url" : null,
  "width" : null,
  "windowPosition" : null
},
...
"id" : null,
"imageItems" : null,
"label" : "System Default",
"name" : "SYSTEM"
}
}

```

FlexiPage

Lightning ページとその詳細のリストを返します。返される情報には、Lightning ページの範囲、各範囲内のコンポーネント、各コンポーネントのプロパティ、および関連付けられた QuickActions が含まれます。このリソースは API バージョン 29.0 以降で使用できます。

 **メモ:** これらのページは、API では FlexiPage と呼ばれますが、それ以外の Salesforce ドキュメントおよび UI では Lightning ページと呼ばれます。

構文

URI

Lightning ページの詳細をすべて返すには、`/vXX.X/flexiPage/Lightning ページの ID` を使用します。

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD, GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ
不要

例

ルート Lightning ページリソースの取得

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v29.0/flexiPage/ -H
"Authorization: Bearer token"
```

名前が Deliveries である Lightning ページの取得

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v29.0/flexiPage/Deliveries -H
"Authorization: Bearer token"
```

/vXX.X/flexiPage/ のリクエストボディの例
不要

/vXX.X/flexiPage/ のレスポンスボディの例

```
{
  "urls" : {
    "flexiPage" : "/services/data/v29.0/flexiPage",
    "rowTemplate" : "/services/data/v29.0/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage}"
  }
}
```

/vXX.X/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage} のリクエストボディの例
不要

/vXX.X/flexiPage/{Developer Name of FlexiPage} のレスポンスボディの例

 **メモ:** このコード例には、quickActionList 情報が含まれています。REST API でのクイックアクションについての詳細は、「[Quick Actions](#)」および「[sObject Quick Actions](#)」を参照してください。

```
[ {
  "id" : "0M0xx0000000049CAA",
  "name" : "Deliveries",
  "label" : "Deliveries",
  "type" : "AppPage",
  "regions" : [ {
    "name" : "main",
    "components" : [ {
      "properties" : [ {
        "name" : "filterName",
        "value" : "Todays_Deliveries"
      }, {
        "name" : "entityName",
        "value" : "Delivery__c"
      } ],
      "typeName" : "filterListCard",
      "typeNamespace" : "flexipage"
    }, {
      "properties" : [ {
```

```

        "name" : "entityNames",
        "value" : "Delivery__c,Return_Item__c"
    } ],
    "typeName" : "recentItems",
    "typeNamespace" : "flexipage"
} ]
} ],
"quickActionList" : {
    "quickActionListItems" : [ {
        "quickActionName" : "New_Delivery",
        "type" : "Create",
        "colors" : [ {
            "color" : "e1be5c",
            "theme" : "theme4",
            "context" : "primary"
        }, {
            "color" : "AA8E0A",
            "theme" : "theme3",
            "context" : "primary"
        } ],
        "accessLevelRequired" : null,
        "globalAction" : true,
        "miniIconUrl" :
"http://{{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}}/img/icon/custom51_100/truck16.png",
        "label" : "New Delivery",
        "urls" : {
            "defaultValuesTemplate" :
"/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/defaultValues/{ID}",
            "quickAction" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery",
            "defaultValues" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/defaultValues",

            "describe" : "/services/data/v29.0/quickActions/New_Delivery/describe"
        },
        "targetSubjectType" : "Delivery__c",
        "iconUrl" :
"http://{{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}}/img/icon/custom51_100/truck32.png",
        "icons" : [ {
            "url" : "http://{{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}}/img/icon/custom51_100/truck32.png",

            "contentType" : "image/png",
            "theme" : "theme3",
            "height" : 32,
            "width" : 32
        }, {
            "url" : "http://{{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}}/img/icon/custom51_100/truck16.png",

            "contentType" : "image/png",
            "theme" : "theme3",
            "height" : 16,
            "width" : 16
        }, {
            "url" : "http://{{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}}/img/icon/t4/custom/custom98.svg",

            "contentType" : "image/svg+xml",

```

```
    "theme" : "theme4",
    "height" : 0,
    "width" : 0
  }, {
    "url" : "http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/t4/custom/custom98_60.png",

    "contentType" : "image/png",
    "theme" : "theme4",
    "height" : 60,
    "width" : 60
  }, {
    "url" :
"http://{SALESFORCE-APPSERVER-DOMAIN}/img/icon/t4/custom/custom98_120.png",
    "contentType" : "image/png",
    "theme" : "theme4",
    "height" : 120,
    "width" : 120
  } ]
} ]
}
```

このサンプルコードの内容は次のとおりです。

- name — 範囲の名前
- components — 範囲内の Lightning コンポーネントの配列
- properties — コンポーネントのプロパティの配列
- typeName — Lightning コンポーネントの名前
- typeNamespace — Lightning コンポーネントの名前空間

Invocable Actions

呼び出し可能な標準アクションまたはカスタムアクションを表します。

アクションを使用してアプリケーションに機能を追加します。Chatterへの投稿やメールの送信などの標準アクションから選択するか、会社のニーズに基づいてアクションを作成します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

カスタムアクションのリストを取得する場合:

/vXX.X/actions

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例

GET を使用した現在の組織の一般的なアクション種別のリストの取得

```
/services/data/v32.0/actions
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "standard" : "/services/data/v32.0/actions/standard",
  "custom" : "/services/data/v32.0/actions/custom"
}
```

例

POST を使用した簡単なメールメッセージの送信

```
/services/data/v32.0/actions/standard/emailSimple
```

JSON リクエストボディ

```
{
  "inputs" : [ {
    "emailAddresses" : "Fred@Acme.com",
    "emailSubject" : "Note",
    "emailBody" : "Message of the day.",
    "senderAddress" : "Bill@TheCloud.org"
  } ]
}
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "actionName" : "emailSimple",
  "errors" : null,
  "isSuccess" : true,
  "outputValues" : null
}
```

標準アクションは、`actionName` でその名前を返します。カスタムアクションでは `actionName` の値が異なります。

アクション	<code>actionName</code> 値
フロー	フロー名
Apex	クラスの呼び出し可能なメソッド名
クイックアクション	<object name>.<quick action name> グローバルクイックアクションの場合、<object name>. プレフィックスはありません。

アクション	actionName 値
メールアラート	<object name>.<email alert name>

アクションについての詳細は、[『Force.com Actions Developer Guide』](#)を参照してください。

Standard Invocable Actions

静的に呼び出し可能なアクションのリストを返します。また、アクション種別ごとに基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

標準アクションのリストを取得する場合:

```
/vXX.X/actions/standard
```

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

メモ

Chatter への投稿アクションでは、本文の投稿で特殊な形式を使用する次の機能がサポートされています。

- @[<id>] を使用する @メンション
- #[<topicString>] を使用するトピック

たとえば、「Hi @[0050000000000001] check this out #[some_topic].」という文字列は「Hi @Joe, check this out #some_topic.」として適切に保存されます。ここで、「@Joe」と「#some_topic」は、それぞれユーザおよびトピックへのリンクです。

例

現在の組織の標準アクションのリストの取得

```
/services/data/v32.0/actions/standard
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "actions" : [ {
```

```

    "label" : "Submit for Approval",
    "name" : "submit",
    "type" : "SUBMITAPPROVAL"
  }, {
    "label" : "Post to Chatter",
    "name" : "chatterPost",
    "type" : "CHATTERPOST" },
  }, {
    "label" : "Send Email",
    "name" : "emailSimple",
    "type" : "EMAILSIMPLE"
  } ]
}

```

1つの標準アクションの属性の取得 (例: `emailSimple`)

`/services/data/v32.0/actions/standard/emailSimple`

JSON レスポンスボディ

```

{
  "description" : "Send an email where you specify the subject, body, and recipients.",
  "inputs" : [ {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. The email recipients specified as a comma-separated list.",

    "label" : "Email Addresses (comma-separated)",
    "maxOccurs" : 1,
    "name" : "emailAddresses",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : null,
    "type" : "STRING"
  }, {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. The email recipients specified as a collection of Strings.",

    "label" : "Email Addresses (collection)",
    "maxOccurs" : 5,
    "name" : "emailAddressesArray",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : null,
    "type" : "STRING"
  }, {
    "byteLength" : 0,
    "description" : "Optional. Who the email is from. Defaults to the current user.",
    "label" : "Sender Type",
    "maxOccurs" : 1,
    "name" : "senderType",
    "picklistValues" : null,
    "required" : false,
    "subjectType" : null,
    "type" : "STRING"
  }, {
    "byteLength" : 0,

```

```
"description" : "Required. The email's subject.",
"label" : "Subject",
"maxOccurs" : 1,
"name" : "emailSubject",
"picklistValues" : null,
"required" : true,
"subjectType" : null,
"type" : "STRING"
}, {
  "byteLength" : 0,
  "description" : "Required. The body of the email in plain text.",
  "label" : "Body",
  "maxOccurs" : 1,
  "name" : "emailBody",
  "picklistValues" : null,
  "required" : true,
  "subjectType" : null,
  "type" : "TEXTAREA"
} ],
"label" : "Send Email",
"name" : "emailSimple",
"outputs" : [ ],
"standard" : true,
"targetEntityName" : null,
"type" : "EMAILSIMPLE"
}
```

Custom Invocable Actions

すべてのカスタムアクションのリストを返します。また、アクション種別ごとに基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

構文

URI

カスタムアクションのリストを取得する場合:

/vXX.X/actions/custom

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

メモ

emailAlert アクションを使用したメールの送信は、ワークフローの日次メール制限にカウントされます。詳細は、Salesforce ヘルプの「ワークフローメールの日次制限」を参照してください。

POST メソッドを使用して Apex アクションを呼び出し、要求で入力を提供する場合、入力でサポートされているのは次のプリミティブ型のみです。

- Blob
- Boolean
- Date
- Datetime
- Decimal
- Double
- ID
- Integer
- Long
- String
- Time

Apex アクションの説明と呼び出しでは、Apex クラスのプロファイルアクセスが考慮されます。アクセス権を持たない場合は、エラーになります。

Apex アクションをフローに追加した後で、Apex クラスから Invocable Method アノテーションを削除すると、フローでランタイムエラーが発生します。

フローユーザが自動起動フローを呼び出すと、有効なフローバージョンが実行されます。有効なバージョンがない場合は、最新バージョンが実行されます。フロー管理者が自動起動フローを呼び出すと、常に最新のバージョンが実行されます。

フローで次のいずれかの要素を使用すると、その要素を参照する、パッケージ化可能なコンポーネントは自動的にパッケージに含まれません。

- Apex
- メールアラート
- Chatter への投稿
- クイックアクション
- メールの送信
- 承認申請

たとえば、メールアラートを送信する場合は、そのメールアラートで使用されるメールテンプレートを手動で追加します。パッケージを正常にリリースするには、参照されるこれらのコンポーネントをパッケージに手動で追加します。

例

現在の組織のカスタムアクションのリストの取得

```
/services/data/v33.0/actions/custom
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "quickAction" : "/services/data/v33.0/actions/custom/quickAction",
  "apex" : "/services/data/v33.0/actions/custom/apex",
  "emailAlert" : "/services/data/v33.0/actions/custom/emailAlert",
  "flow" : "/services/data/v33.0/actions/custom/flow"
}
```

List View Describe

ID、列、SOQL クエリなど、リストビューに関する詳細な情報を返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/{subjectType}/listviews/{queryLocator}/describe

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし



例:

リストビューに関する情報を取得

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005w0BmPAK/describe
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "columns" : [ {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Name",
    "selectListItem" : "Name",
    "sortDirection" : "ascending",
    "sortIndex" : 0,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
```

```
"fieldNameOrPath" : "Site",
"hidden" : false,
"label" : "Account Site",
"selectListItem" : "Site",
"sortDirection" : null,
"sortIndex" : null,
"sortable" : true,
"type" : "string"
}, {
  "ascendingLabel" : "Z-A",
  "descendingLabel" : "A-Z",
  "fieldNameOrPath" : "BillingState",
  "hidden" : false,
  "label" : "Billing State/Province",
  "selectListItem" : "BillingState",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "string"
}, {
  "ascendingLabel" : "9-0",
  "descendingLabel" : "0-9",
  "fieldNameOrPath" : "Phone",
  "hidden" : false,
  "label" : "Phone",
  "selectListItem" : "Phone",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "phone"
}, {
  "ascendingLabel" : "Low to High",
  "descendingLabel" : "High to Low",
  "fieldNameOrPath" : "Type",
  "hidden" : false,
  "label" : "Type",
  "selectListItem" : "toLabel(Type)",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "picklist"
}, {
  "ascendingLabel" : "Z-A",
  "descendingLabel" : "A-Z",
  "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
  "hidden" : false,
  "label" : "Account Owner Alias",
  "selectListItem" : "Owner.Alias",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "string"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
```

```
"descendingLabel" : null,
"fieldNameOrPath" : "Id",
"hidden" : true,
"label" : "Account ID",
"selectListItem" : "Id",
"sortDirection" : null,
"sortIndex" : null,
"sortable" : false,
"type" : "id"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
  "hidden" : true,
  "label" : "Created Date",
  "selectListItem" : "CreatedDate",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
  "hidden" : true,
  "label" : "Last Modified Date",
  "selectListItem" : "LastModifiedDate",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
  "hidden" : true,
  "label" : "System Modstamp",
  "selectListItem" : "SystemModstamp",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
} ],
"id" : "00BD0000005WcBe",
"orderBy" : [ {
  "fieldNameOrPath" : "Name",
  "nullsPosition" : "first",
  "sortDirection" : "ascending"
}, {
  "fieldNameOrPath" : "Id",
  "nullsPosition" : "first",
  "sortDirection" : "ascending"
} ],
"query" : "SELECT name, site, billingstate, phone, tolabel(type), owner.alias,
```

```
id, createddate, lastmodifieddate, systemmodstamp FROM Account WHERE CreatedDate =
THIS_WEEK ORDER BY Name ASC NULLS FIRST, Id ASC NULLS FIRST",
"scope" : null,
"subjectType" : "Account",
"whereCondition" : {
  "field" : "CreatedDate",
  "operator" : "equals",
  "values" : [ "THIS_WEEK" ]
}
}
```

List View Results

リストビューに対する SOQL クエリを実行し、結果のデータと表示情報を返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/{subjectType}/listviews/{listViewID}/results

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし



例:

特定のリストビューから結果を取得

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcQMA0/results
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "columns" : [ {
    "ascendingLabel" : "Z-A",
    "descendingLabel" : "A-Z",
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "hidden" : false,
    "label" : "Account Name",
    "selectListItem" : "Name",
    "sortDirection" : "ascending",
    "sortIndex" : 0,
    "sortable" : true,
    "type" : "string"
  }, {
```



```
"ascendingLabel" : "Z-A",
"descendingLabel" : "A-Z",
"fieldNameOrPath" : "Site",
"hidden" : false,
"label" : "Account Site",
"selectListItem" : "Site",
"sortDirection" : null,
"sortIndex" : null,
"sortable" : true,
"type" : "string"
}, {
  "ascendingLabel" : "Z-A",
  "descendingLabel" : "A-Z",
  "fieldNameOrPath" : "BillingState",
  "hidden" : false,
  "label" : "Billing State/Province",
  "selectListItem" : "BillingState",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "string"
}, {
  "ascendingLabel" : "9-0",
  "descendingLabel" : "0-9",
  "fieldNameOrPath" : "Phone",
  "hidden" : false,
  "label" : "Phone",
  "selectListItem" : "Phone",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "phone"
}, {
  "ascendingLabel" : "Low to High",
  "descendingLabel" : "High to Low",
  "fieldNameOrPath" : "Type",
  "hidden" : false,
  "label" : "Type",
  "selectListItem" : "toLabel(Type)",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "picklist"
}, {
  "ascendingLabel" : "Z-A",
  "descendingLabel" : "A-Z",
  "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
  "hidden" : false,
  "label" : "Account Owner Alias",
  "selectListItem" : "Owner.Alias",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : true,
  "type" : "string"
```

```
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "Id",
  "hidden" : true,
  "label" : "Account ID",
  "selectListItem" : "Id",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "id"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
  "hidden" : true,
  "label" : "Created Date",
  "selectListItem" : "CreatedDate",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
  "hidden" : true,
  "label" : "Last Modified Date",
  "selectListItem" : "LastModifiedDate",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
}, {
  "ascendingLabel" : null,
  "descendingLabel" : null,
  "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
  "hidden" : true,
  "label" : "System Modstamp",
  "selectListItem" : "SystemModstamp",
  "sortDirection" : null,
  "sortIndex" : null,
  "sortable" : false,
  "type" : "datetime"
} ],
"developerName" : "MyAccounts",
"done" : true,
"id" : "00BD0000005WcCN",
"label" : "My Accounts",
"records" : [ {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Burlington Textiles Corp of America"
  }, {
```

```
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "NC"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(336) 222-7000"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSTIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Dickenson plc"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "KS"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(785) 241-6200"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSVIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
```

```
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Edge Communications"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "TX"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(512) 757-6000"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSSIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Express Logistics and Transport"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "OR"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(503) 421-7800"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
```

```
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JlisXIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "GenePoint"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "CA"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(650) 867-3450"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JlisPIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Grand Hotels and Resorts Ltd"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }
```

```
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "IL"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(312) 596-1000"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : "Customer - Direct"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JliSWIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }
  ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "Pyramid Construction Inc."
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(014) 427-4427"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Channel"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSUIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
```

```
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "sForce"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "CA"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(415) 901-7000"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSaIAJ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "United Oil and Gas Corp."
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "NY"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(212) 842-5500"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }
```

```
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JlisZIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "United Oil and Gas, Singapore"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
      "value" : "Singapore"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Phone",
      "value" : "(650) 450-8810"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Type",
      "value" : "Customer - Direct"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
      "value" : "TUser"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Id",
      "value" : "001D000000JlisRIAZ"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
      "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
    } ]
  }, {
    "columns" : [ {
      "fieldNameOrPath" : "Name",
      "value" : "United Oil and Gas, UK"
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "Site",
      "value" : null
    }, {
      "fieldNameOrPath" : "BillingState",
```



```
    "value" : "UK"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "+44 191 4956203"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSQIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}, {
  "columns" : [ {
    "fieldNameOrPath" : "Name",
    "value" : "University of Arizona"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Site",
    "value" : null
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "BillingState",
    "value" : "AZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Phone",
    "value" : "(520) 773-9050"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Type",
    "value" : "Customer - Direct"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Owner.Alias",
    "value" : "TUser"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "Id",
    "value" : "001D000000JliSYIAZ"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "CreatedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "LastModifiedDate",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  }, {
    "fieldNameOrPath" : "SystemModstamp",
    "value" : "Fri Aug 01 21:15:46 GMT 2014"
  } ]
}
```

```

    } ]
  } ],
  "size" : 12
}

```

List Views

指定された sObject のリストビューのリストを返します。各リストビューの ID とその他の基本情報も含まれます。ID で特定のリストビューの基本情報を取得することもできます。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

リストビューのリストを取得する場合:

```
/vXX.X/subjects/{subjectType}/listviews
```

1つのリストビューに関する基本情報を取得する場合:

```
/vXX.X/subjects/{subjectType}/listviews/{listViewID}
```

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし



例:

Account オブジェクトのリストビューのリストを取得

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews
-H "Authorization: Bearer token"

```

JSON レスポンスボディ

```

{
  "done" : true,
  "listviews" : [ {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
    "developerName" : "NewThisWeek",
    "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
    "label" : "New This Week",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",

```

```

    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK/describe",
    "developerName" : "NewLastWeek",
    "id" : "00BD0000005WcBpMAK",
    "label" : "New Last Week",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBpMAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK/describe",
    "developerName" : "PlatinumandGoldSLACustomers",
    "id" : "00BD0000005WcC6MAK",
    "label" : "Platinum and Gold SLA Customers",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcC6MAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0/describe",
    "developerName" : "RecentlyViewedAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCEMA0",
    "label" : "Recently Viewed Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCEMA0"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/describe",
    "developerName" : "AllAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCFMA0",
    "label" : "All Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/describe",
    "developerName" : "MyAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCNMA0",
    "label" : "My Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0"
  } ],
  "nextRecordsUrl" : null,

```

```

    "size" : 6,
    "subjectType" : "Account"
  }

```

1つのリストビューに関する基本情報を取得

リストビューの ID を使用して特定のリストビューに関する基本情報を取得します。

```

curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK
-H "Authorization: Bearer token"

```

JSON レスポンスボディ

```

{
  "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
  "developerName" : "NewThisWeek",
  "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
  "label" : "New This Week",
  "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",
  "soqlCompatible" : true,
  "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
}

```

REST API を使用したナレッジサポート

ナレッジサポート REST API を使用して、承認済みユーザとゲストユーザの両方が自身の表示可能なデータカテゴリとその関連記事を取得できます。

承認済みユーザには、`UserProfile.apiEnabled` 権限、組織でナレッジが有効になっていること、記事タイプに対する参照権限、および記事の表示を制御するその他のナレッジ固有の権限または設定が必要です。

ゲストユーザには、関連サイトで [サポート API へのゲストアクセス] 設定が有効になっていること、組織でナレッジが有効になっていること、ゲストユーザへの表示を制御する記事チャンネルおよび記事タイプに対する参照権限が必要です。

構文

ゲストユーザに対して公開できるすべてのナレッジサポート API のルートエンドポイント。

適用開始バージョン

38.0

メソッド

GET

形式

JSON、XML

認証

OAuth accesstoken

エンドポイント

<prefix>/support

HTTP ヘッダー**Accept:** 省略可能。 application/json または application/xml のいずれかです。**入力**

なし

出力

次のリソースはナレッジに関連しています。

```
{
  "dataCategoryGroups" : "/services/data/vxx.0/support/dataCategoryGroups",
  "knowledgeArticles" : "/services/data/vxx.0/support/knowledgeArticles"
  :
}
```

ここで、vxx.0 は要求した API のバージョンです。

このセクションの内容:[Data Category Groups](#)

現在のユーザが参照可能なデータカテゴリグループを取得します。

[Data Category Detail](#)

指定されたカテゴリのデータカテゴリの詳細と子カテゴリを取得します。

[Articles List](#)

検索またはクエリによって、指定された言語およびカテゴリのオンライン記事のページを取得します。

[Articles Details](#)

ユーザがアクセスできるすべての記事項目を取得します。

Data Category Groups

現在のユーザが参照可能なデータカテゴリグループを取得します。

構文

適用開始バージョン

38.0

メソッド

GET

形式

JSON、XML

認証

OAuth accesstoken

エンドポイント

[prefix]/support/dataCategoryGroups

HTTP ヘッダー

Accept: 省略可能。application/json または application/xml のいずれかです。


Accept-language: 省略可能。カテゴリを翻訳する言語。HTTP Accept-Language ヘッダーのいずれかの ISO-639 言語の略語および ISO-3166 国コードサブタグ。指定できる言語は1つのみです。原語が指定されない場合、翻訳されていない表示ラベルが返されます。

入力:

string sObjectName: **必須**。KnowledgeArticleVersion のみ。

boolean topCategoriesOnly: **省略可能**。デフォルトは true です。

- true の場合、最上位カテゴリのみを返します。
- false の場合、ツリー全体を返します。

 **メモ:** すべての入力パラメータで大文字と小文字が区別されます。


出力:

サイトのコンテキストで現在のユーザが参照可能で有効なデータカテゴリグループのリスト。ID、名前、表示ラベル、および現在のユーザが参照可能な最上位カテゴリまたはデータカテゴリグループツリー全体を返します。指定された言語がある場合、表示ラベルはその言語に翻訳されている必要があります。

• Data Category Group List

このペイロードは、他の要求でデータカテゴリとそれに関連する記事を返すために使用できる有効なルートデータカテゴリグループのリストです。

```
{
  "categoryGroups": [ Data Category Group, ....],
}
```

 **メモ:** 指定されたエンティティ (sObjectName によって指定) に関連する有効なグループのみを返します。KnowledgeArticleVersion のみがサポートされています。

• Data Category Group

個々のデータカテゴリグループとそのルートカテゴリを表します。

```
{
  "name": String, // the unique name of the category group
  "label": String, // returns the translated version if it is available
  "objectUsage" : String, // currently only "KnowledgeArticleVersion" is available.


  "topCategories": [ Data Category Summary, ....]
}
```

• Data Category Summary

データカテゴリ情報の概要を提供します。Summary 応答と Detail 応答のプロパティは共通です。これは、関連するリソースから必要な情報のみを提供するためです。

```
{
  "name": String, // the unique name of the category
  "label": String, // returns the translated version if it is available
  "url": URL, // the url points to the data category detail API
}
```

```
"childCategories": [ Data Category Summary, ...] // null if topCategoriesOnly is true
}
```

 **メモ:** URL プロパティは、このデータカテゴリを表す一意のリソース(この場合は [Data Category Detail API](#)) への事前計算されたパスです。

例

入力

```
/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups?sObjectName=KnowledgeArticleVersion
```

出力

```
{
  "categoryGroups" : [ {
    "label" : "Doc",
    "name" : "Doc",
    "objectUsage" : "KnowledgeArticleVersion",
    "topCategories" : [ {
      "childCategories" : null,
      "label" : "All",
      "name" : "All",
      "url" :
"/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Doc/dataCategories/All?sObjectName=KnowledgeArticleVersion"
    } ]
  }, {
    "label" : "Manual",
    "name" : "Manual",
    "objectUsage" : "KnowledgeArticleVersion",
    "topCategories" : [ {
      "childCategories" : null,
      "label" : "All",
      "name" : "All",
      "url" :
"/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Manual/dataCategories/All?sObjectName=KnowledgeArticleVersion"
    } ]
  } ]
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。このリソースは API バージョン 38.0 以降で使用できます。 [「Salesforce がサポートする言語は?」](#) で使用されている言語コード形式を使用してください。

ユーザが参照可能なデータカテゴリのみが返されます。ユーザはカテゴリグループ内のいくつかのサブツリーを参照できる場合があるため、各グループ内でユーザが参照可能な最上位カテゴリが返されます。

Data Category Detail

指定されたカテゴリのデータカテゴリの詳細と子カテゴリを取得します。

構文

適用開始バージョン

38.0

メソッド

GET

形式

JSON、XML

認証

OAuth accesstoken

エンドポイント

[prefix]/support/dataCategoryGroups/[group]/dataCategories/[category]

HTTP ヘッダー

Accept: 省略可能。application/json または application/xml のいずれかです。

Accept-language: 省略可能。カテゴリを翻訳する言語。HTTP Accept-Language ヘッダーのいずれかの ISO-639 言語の略語および ISO-3166 国コードサブタグ。指定できる言語は1つのみです。原語が指定されない場合、翻訳されていない表示ラベルが返されます。

入力:

string sObjectName: 必須。KnowledgeArticleVersion のみ。

出力:

カテゴリおよび子カテゴリのリストの詳細 (名前、表示ラベルなど)。

- **Data Category Detail**

データカテゴリの階層表現が重要な場合に使用されます。子プロパティには子データカテゴリのリストが含まれます。

```
{
  "name": String, // the unique name of the category
  "label": String, // returns the translated version if it is available
  "url": URL,
  "childCategories": [ Data Category Summary, ... ],
}
```

 **メモ:** カテゴリを現在のユーザが参照可能でない場合、戻り値は空です。

例

入力

```
/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Doc/dataCategories/All?sObjectName=KnowledgeArticleVersion
```


出力

```
{
  "childCategories" : [ {
    "childCategories" : null,
    "label" : "Help",
    "name" : "Help",
    "url" :
"/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Doc/dataCategories/Help?sObjectName=KnowledgeArticleVersion"

  }, {
    "childCategories" : null,
    "label" : "QA",
    "name" : "QA",
    "url" :
"/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Doc/dataCategories/QA?sObjectName=KnowledgeArticleVersion"

  } ],
  "label" : "All",
  "name" : "All",
  "url" :
"/services/data/v38.0/support/dataCategoryGroups/Doc/dataCategories/All?sObjectName=KnowledgeArticleVersion"
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。このリソースは API バージョン 38.0 以降で使用できます。 [「Salesforce がサポートする言語は?」](#) で使用されている言語コード形式を使用してください。

Articles List

検索またはクエリによって、指定された言語およびカテゴリのオンライン記事のページを取得します。

構文

適用開始バージョン

38.0

メソッド

GET

形式

JSON、XML

認証

OAuth accesstoken

エンドポイント

[prefix]/support/knowledgeArticles

HTTP ヘッダー

Accept: 省略可能。 application/json または application/xml のいずれかです。

Accept-language: 必須。記事は、ユーザの組織で有効になっている言語で記述されている必要があります。

- 言語コードが有効でない場合、「言語コードが有効でないか、ナレッジでサポートされていません。」というエラーメッセージが返されます。
- 言語コードが有効であるが、ナレッジでサポートされていない場合、「無効な言語コードです。言語がナレッジ言語設定に含まれていることを確認してください。」というエラーメッセージが返されます。

入力:

string q: 省略可能。SOSL 検索を実行します。クエリ文字列が null または空であるか指定されていない場合、SOQL クエリが実行されます。

string channel: 省略可能。デフォルトはユーザのコンテキストです。チャンネル値の詳細は、「[有効な channel 値](#)」を参照してください。


- **App:** 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能
- **Pkb:** 公開知識ベースで参照可能
- **Csp:** カスタマーポータルで参照可能
- **Prm:** パートナーポータルで参照可能

string categories (json の対応付け形式 { "group1": "category1", "group2": "category2", ... })

省略可能。デフォルトは None です。カテゴリグループはグループ:カテゴリの各ペア内で一意である必要があります。そうでない場合は、ARGUMENT_OBJECT_PARSE_ERROR が発生します。

string queryMethod : 値は AT, BELOW, ABOVE, ABOVE_OR_BELOW です。カテゴリが指定されている場合のみ有効です。デフォルトは ABOVE_OR_BELOW です。

string sort: 省略可能。並び替え可能な項目名 LastPublishedDate, CreatedDate, Title, ViewScore です。デフォルトは LastPublishedDate で、クエリおよび検索の関連性に使用されます。

 **メモ:** ViewScore で並び替える場合、使用できるのはクエリのみで、検索には使用できず、ページネーションはサポートされません。結果は 1 ページのみ返されます。

string order: 省略可能。ASC または DESC。デフォルトは DESC です。sort が有効な場合のみ有効です。

integer pageSize: 省略可能。デフォルトは 20 です。有効な範囲は 1 ~ 100 です。

integer pageNumber : 省略可能。デフォルトは 1 です。


出力:

指定された言語およびカテゴリで、現在のユーザが参照可能なオンライン記事のページ。

- **Article Page**

記事のページ。個々のエントリは、サイズを最小限に保つために記事の概要になっています。

```
{
  "articles": [ Article Summary, ... ], // list of articles
  "currentPageUrl": URL, // the article list API with current page number
  "nextPageUrl": URL, // the article list API with next page number,
  // which can be null if there are no more articles.
  "pageNumber": Int // the current page number, starting at 1.
}
```

 **メモ:** API ではページングがサポートされます。応答の各ページには、ページへの URL および記事の次のページへの URL が含まれています。

- **Article Summary**

記事の応答のリストに使用される記事の概要。Article Detail 表現と同様のプロパティがあります。これは、一方がもう一方のスーパーセットであるためです。

```
{
  "id": Id, // articleId
  "articleNumber": String,
  "title": String,
  "summary": String,
  "url": URL, // to the Article Detail API
  "viewCount": Int, // view count in the interested channel
  "viewScore": double (in xxx.xxxx precision), // view score in the interested
channel.
  "upVoteCount": int, // up vote count in the interested channel.
  "downVoteCount": int, // down vote count in the interested channel.
  "lastPublishedDate": Date // last publish date in ISO8601 format
  "categoryGroups": [ Data Category Group, ... ]}
```

「url」プロパティは常に [Article Details](#) リソースのエンドポイントを指し示します。有効なチャンネル値の詳細は、[チャンネルのパラメータの説明](#)を参照してください。

- **Data Category Group**

個別のデータカテゴリグループ、ルートカテゴリ、およびグループ内で選択されたデータカテゴリのリストです。

```
{
  "groupName": String, // the unique name of the category group
  "groupLabel": String, // returns the translated version
  "selectedCategories": [ Data Category Summary, ... ]
}
```

- **Data Category Summary**

データカテゴリ情報の概要を提供します。Summary 応答と Detail 応答のプロパティは共通です。

```
{
  "categoryName": String, // the unique name of the category
  "categoryLabel": String, // returns the translated version, per the API
language specified
  "url": String // returns the url for the DataCategory REST API.
}
```

 **メモ:** Article List API の Data Category Group および Data Category Summary の出力は、Data Category Groups API の出力とは異なります。

例

入力

```
/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles?sort=ViewScore&channel=Pkb&pageSize=3
HTTP Headers:
Content-Type: application/json; charset=UTF-8
```

```
Accept: application/json
Accept-Language: en-US
```

出力

```
{
  "articles" : [ {
    "articleNumber" : "000001002",
    "categoryGroups" : [ ],
    "downVoteCount" : 0,
    "id" : "kA0xx000000000BCAQ",
    "lastPublishedDate" : "2015-02-25T02:07:18Z",
    "summary" : "With this online Chinese input tool, you can type Chinese characters
through your web browser without installing any Chinese input software in your system.
The Chinese online input tool uses the popular Pin Yin input method. It is a fast and
convenient tool to input Chinese on English OS environments.",
    "title" : "Long text test",
    "upVoteCount" : 0,
    "url" : "/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles/kA0xx000000000BCAQ",
    "viewCount" : 4,
    "viewScore" : 100.0
  }, {
    "articleNumber" : "000001004",
    "categoryGroups" : [ ],
    "downVoteCount" : 0,
    "id" : "kA0xx000000000LCAQ",
    "lastPublishedDate" : "2016-06-21T21:11:02Z",
    "summary" : "The number of characters required for complete coverage of all these
languages' needs cannot fit in the 256-character code space of 8-bit character encodings,
requiring at least a 16-bit fixed width encoding or multi-byte variable-length encodings.
\r\n\r\nAlthough CJK encodings have common character sets, the encodings often used to
represent them have been developed separately by different East Asian governments and
software companies, and are mutually incompatible. Unicode has attempted, with some
controversy, to unify the character sets in a process known as Han unification.\r\n\r\nCJK
character encodings should consist minimally of Han characters p",
    "title" : "Test Images",
    "upVoteCount" : 0,
    "url" : "/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles/kA0xx000000000LCAQ",
    "viewCount" : 0,
    "viewScore" : 0.0
  }, {
    "articleNumber" : "000001012",
    "categoryGroups" : [ ],
    "downVoteCount" : 0,
    "id" : "kA0xx0000000006GCAQ",
    "lastPublishedDate" : "2016-06-21T21:10:48Z",
    "summary" : null,
    "title" : "Test Draft 2",
    "upVoteCount" : 0,
    "url" : "/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles/kA0xx0000000006GCAQ",
    "viewCount" : 0,
    "viewScore" : 0.0
  } ],
  "currentPageUrl" :
"/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles?channel=Pkb&pageSize=3&sort=ViewScore",
```

```
"nextPageUrl" : null,  
"pageNumber" : 1  
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。このリソースは API バージョン 38.0 以降で使用できます。カスタムファイル項目は、バイナリストリームへのリンクを返すため、サポートされていません。

[「Salesforce がサポートする言語は?」](#) で使用されている言語コード形式を使用してください。

有効な channel 値

- string channel オプションを使用して、一致する記事が表示される場合、次の値が有効です。
 - App - 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能
 - Pkb - 公開知識ベースで参照可能
 - Csp - カスタマーポータルで参照可能
 - Prm - パートナーポータルで参照可能
- channel が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。
 - ゲストユーザの Pkb
 - カスタマーポータルユーザの Csp
 - パートナーポータルユーザの Prm
 - 他の種別のユーザの App
- channel が指定されている場合、指定された値を使用して記事を取得できます。
 - ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定されたチャンネルがユーザがアクセスできるチャンネルと異なる場合はエラーが返されます。
 - ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、指定されたチャンネル値が使用されます。

Articles Details

ユーザがアクセスできるすべての記事項目を取得します。

構文

適用開始バージョン

38.0

メソッド

GET

形式

JSON、XML

認証

OAuth accesstoken

エンドポイント

[prefix]/support/knowledgeArticles/{articleId}

HTTP ヘッダー

Accept: 省略可能。 application/json または application/xml のいずれかです。

Accept-language: 必須。記事は、ユーザの組織で有効になっている言語で記述されている必要があります。

- 言語コードが有効でない場合、「言語コードが有効でないか、ナレッジでサポートされていません。」というエラーメッセージが返されます。
- 言語コードが有効であるが、ナレッジでサポートされていない場合、「無効な言語コードです。言語がナレッジ言語設定に含まれていることを確認してください。」というエラーメッセージが返されます。

入力:

string channel: 省略可能。デフォルトはユーザのコンテキストです。チャンネル値の詳細は、「[有効な channel 値](#)」を参照してください。

- **App:** 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能
- **Pkb:** 公開知識ベースで参照可能
- **Csp:** カスタマーポータルで参照可能
- **Prm:** パートナーポータルで参照可能

boolean udpageViewStat: 省略可能。デフォルトはtrueです。trueの場合、APIは、合計参照数だけでなく指定されたチャンネルの参照数も更新します。

出力:

記事がオンラインで現在のユーザに対して表示可能な場合の記事の詳細項目。

- **Article Detail**

記事の完全な詳細。記事の表示に使用される完全なメタデータおよびレイアウト主導項目が含まれます。[Article Summary](#) 表現と同じプロパティがすべて含まれます。

```
{
  "id": Id, // articleId,
  "articleNumber": String,
  "title": String,
  "summary": String,
  "url": URL,
  "versionNumber": Int,
  "createdDate": Date, // in ISO8601 format
  "createdBy": User Summary (ページ 177),
  "lastModifiedDate": Date, // in ISO8601 format
  "lastModifiedBy": User Summary (ページ 177),
  "lastPublishedDate": Date, // in ISO8601 format
  "layoutItems": [ Article Field, ... ], // standard and custom fields visible
  to the user, sorted based on the layouts of the article type.
  "categories": [ Data Category Groups, ... ],
  "appUpVoteCount": Int,
  "cspUpVoteCount": Int,
  "prmUpVoteCount": Int,
```

```
"pkbUpVoteCount": Int,
"appDownVoteCount": Int,
"cspDownVoteCount": Int,
"prmDownVoteCount": Int,
"pkbDownVoteCount": Int,
"allViewCount": Int,
"appViewCount": Int,
"cspViewCount": Int,
"prmViewCount": Int,
"pkbViewCount": Int,
"allViewScore": Double,
"appViewScore": Double,
"cspViewScore": Double,
"prmViewScore": Double,
"pkbViewScore": Double
}
```

- **User Summary**

```
{
  "id": String
  "isActive": boolean // true/false
  "userName": String // login name
  "firstName": String
  "lastName": String
  "email": String
  "url": String // to the chatter user detail url:
  /services/data/xx.x/chatter/users/{userId}, for guest user, it will return null.
}
```

- **Article Field**

記事情報の個別の項目。[Article Detail](#) 内にシステム管理者のレイアウトで必要な順序で表示されます。

```
{
  "type": Enum, // see the Notes
  "name": String, // field name
  "label": String, // label
  "value": String,
}
```

例 入力

```
/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles/kA0xx00000000LCAQ
HTTP Headers:
Content-Type: application/json; charset=UTF-8
Accept: application/json
Accept-Language: en-US
```

出力

```
{
  "allViewCount" : 17,
  "allViewScore" : 100.0,
  "appDownVoteCount" : 0,
  "appUpVoteCount" : 0,
  "appViewCount" : 17,
  "appViewScore" : 100.0,
  "articleNumber" : "000001004",
  "categoryGroups" : [ ],
  "createdBy" : {
    "email" : "user@company.com",
    "firstName" : "Test",
    "id" : "005xx000001SvoMAAS",
    "isActive" : true,
    "lastName" : "User",
    "url" : "/services/data/v38.0/chatter/users/005xx000001SvoMAAS",
    "userName" : "admin@salesforce.org"
  },
  "createdDate" : "2016-06-21T21:10:54Z",
  "cspDownVoteCount" : 0,
  "cspUpVoteCount" : 0,
  "cspViewCount" : 0,
  "cspViewScore" : 0.0,
  "id" : "kA0xx000000000LCAQ",
  "lastModifiedBy" : {
    "email" : "user@company.com",
    "firstName" : "Test",
    "id" : "005xx000001SvoMAAS",
    "isActive" : true,
    "lastName" : "User",
    "url" : "/services/data/v38.0/chatter/users/005xx000001SvoMAAS",
    "userName" : "admin@salesforce.org"
  },
  "lastModifiedDate" : "2016-06-21T21:11:02Z",
  "lastPublishedDate" : "2016-06-21T21:11:02Z",
  "layoutItems" : [ {
    "label" : "Out of Date",
    "name" : "IsOutOfDate",
    "type" : "CHECKBOX",
    "value" : "false"
  }, {
    "label" : "sample",
    "name" : "sample",
    "type" : "PICK_LIST",
    "value" : null
  }, {
    "label" : "Language",
    "name" : "Language",
    "type" : "PICK_LIST",
    "value" : "en_US"
  }, {
    "label" : "MyNumber",
```



```

    "name" : "MyNumber",
    "type" : "NUMBER",
    "value" : null
  }, {
    "label" : "My File",
    "name" : "My_File",
    "type" : "FILE",
    "value" : null
  } ],
  "pkbDownVoteCount" : 0,
  "pkbUpVoteCount" : 0,
  "pkbViewCount" : 0,
  "pkbViewScore" : 0.0,
  "prmDownVoteCount" : 0,
  "prmUpVoteCount" : 0,
  "prmViewCount" : 0,
  "prmViewScore" : 0.0,
  "summary" : "The number of characters required for complete coverage of all these languages' needs cannot fit in the 256-character code space of 8-bit character encodings, requiring at least a 16-bit fixed width encoding or multi-byte variable-length encodings. \r\n\r\nAlthough CJK encodings have common character sets, the encodings often used to represent them have been developed separately by different East Asian governments and software companies, and are mutually incompatible. Unicode has attempted, with some controversy, to unify the character sets in a process known as Han unification.\r\n\r\nCJK character encodings should consist minimally of Han characters p",
  "title" : "Test Images",
  "url" : "/services/data/v38.0/support/knowledgeArticles/kA0xx00000000LCAQ",
  "versionNumber" : 7
}

```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。このリソースは API バージョン 38.0 以降で使用できます。カスタムファイル項目は、バイナリストリームへのリンクを返すため、サポートされていません。

[「Salesforce がサポートする言語は?」](#) で使用されている言語コード形式を使用してください。

ルックアップカスタム項目は、ルックアップエンティティ種別に応じてゲストユーザーに表示されます。たとえば、ユーザは表示されますが、ケースと取引先は表示されません。次の標準項目は、レイアウトに含まれている場合でもゲストユーザーには表示されません。

- archivedBy
- isLatestVersion
- translationCompletedDate
- translationImportedDate
- translationExportedDate
- versionNumber
- visibleInInternalApp
- visibleInPKB
- visibleToCustomer
- visibleToPartner

有効な channel 値

- string channel オプションを使用して、一致する記事が表示される場合、次の値が有効です。
 - App - 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能
 - Pkb - 公開知識ベースで参照可能
 - Csp - カスタマーポータルで参照可能
 - Prm - パートナーポータルで参照可能
- channel が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。
 - ゲストユーザの Pkb
 - カスタマーポータルユーザの Csp
 - パートナーポータルユーザの Prm
 - 他の種別のユーザの App
- channel が指定されている場合、指定された値を使用して記事を取得できます。
 - ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定されたチャンネルがユーザがアクセスできるチャンネルと異なる場合はエラーが返されます。
 - ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、指定されたチャンネル値が使用されます。

パラメータ化された検索

SOSL 句の代わりにパラメータを使用して簡単な RESTful 検索を実行します。GET メソッドの URL でパラメータを示します。または、より複雑な JSON 検索の場合は POST を使用します。

URI

```
/vXX.X/parameterizedSearch/?q=search string
```

形式

JSON、XML


HTTP メソッド

GET、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

必須グローバルパラメータ

名前	説明
q	適切に URL 符号化された検索文字列。  メモ: SOSL 句はサポートされていません。 バージョン 36.0 以降で利用できます。

省略可能なグローバルパラメータ

名前	型	サポートされているメソッド	説明
dataCategory	string	GET	<p>単一値。組織で Salesforce ナレッジの記事または回答を使用する場合、dataCategory は1つのデータカテゴリに基づいてすべての検索結果を絞り込みます。</p> <p>たとえば、dataCategory=GlobalCategory__c below NorthAmerica__c と指定します。</p> <p>dataCategories を使用する場合、subject およびすべての必須パラメータを使用して Salesforce ナレッジの記事または回答を指定します。</p> <p>たとえば、次のように指定します。</p> <pre>q=tourism&subject=KnowledgeArticleVersion&KnowledgeArticleVersion.where=language='en_US'+and+publishStatus='online'&KnowledgeArticleVersion.fields=id,title&dataCategory=Location__c+Below+North_America__c</pre> <p>複数の dataCategory 条件が必要な場合は、POST メソッドで dataCategories を使用します。</p>
dataCategories	dataCategoriesFilter[]	POST	<p>組織で Salesforce ナレッジの記事または回答を使用する場合、1つ以上のデータカテゴリに基づいてすべての検索結果を絞り込みます。</p> <p>dataCategories を使用する場合、subjects および必須パラメータを使用して Salesforce ナレッジの記事または回答を指定します。</p> <p>以下に例を示します。</p> <pre>{ "q": "Acme", "fields": ["id", "title"], "subjects": [{"name": "KnowledgeArticleVersion", "where": "language='en_US' and publishstatus='draft'"}], "dataCategories": [{ "groupName": "location__c", "operator": "below", "categories": ["North_America__c"]}] }</pre>
defaultLimit	string	GET、POST	<p>単一値。指定された各 subject (GET) または subjects (POST) で返される結果の最大数。</p> <p>defaultLimit の最大値は 2000 です。</p>

名前	型	サポートされているメソッド	説明
			<p>1つ以上の <code>subject</code> を指定する必要があります。</p> <p>GET の例: <code>defaultLimit=10&subject=Account&subject=Contact</code>。 <code>Account.limit=10</code> のように <code>subject.limit=value</code> を使用して <code>subject</code> 制限が指定された場合、そのオブジェクトではこのパラメータは無視されます。</p>
division	string	GET、POST	<p>単一値。ディビジョン項目に基づいて検索結果を絞り込みます。</p> <p>たとえば、GETメソッドでは <code>division=global</code> のように指定します。</p> <p>ID ではなく名前でディビジョンを指定します。</p> <p>特定のディビジョン内のすべての検索には、<code>global</code> ディビジョンも含まれます。</p>
fields	string	GET	<p>指定された各 <code>subject</code> に対する応答で返される、カンマで区切られた1つ以上の項目のリスト。1つ以上の <code>subject</code> をグローバルレベルで指定する必要があります。</p> <p>たとえば、<code>fields=id&subject=Account&subject=Contact</code> のように指定します。</p> <p>グローバル <code>fields</code> パラメータは、<code>subject.fields=field names</code> を使用して <code>subject</code> が指定されている場合は上書きされません。たとえば、<code>Contact.fields=id,FirstName,LastName</code> は <code>id</code> のみを返すグローバル設定を上書きします。</p> <p>指定されていない場合、検索結果には指定されたオブジェクトのすべての項目に一致するレコードの ID が含まれます。</p> <p>関数</p> <p>次の省略可能な関数は、<code>fields</code> パラメータ内で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>toLabel</code>: 応答項目値をユーザの言語に翻訳します。たとえば、<code>Lead.fields=id,toLabel(Status)</code> です。この関数には、追加設定が必要です。 • <code>convertCurrency</code>: 応答通貨項目をユーザの通貨に変換します。たとえば、<code>Opportunity.fields=id,convertCurrency(Amount)</code> です。この関数には、追加設定が必要です。マルチ通貨が組織で有効になっている必要があります。

名前	型	サポートされているメソッド	説明
			<ul style="list-style-type: none"> format: ローカライズされた書式設定を標準およびカスタムの数値、日付、時刻、通貨項目に適用します。たとえば、「<code>Opportunity.fields=id,format(Amount)</code>」などです。 <p>別名指定は、<code>toLabel</code>、<code>convertCurrency</code>、および <code>format</code> の <code>fields</code> 内でサポートされます。さらに、クエリに同じ項目が複数含まれるときは、別名指定が必要です。例: <code>Opportunity.fields=id,format(Amount) AliasAmount</code></p>
fields	string[]	POST	<p>指定された各 <code>subjects</code> に対する応答で返される、1つ以上の項目の配列。1つ以上の <code>subjects</code> をグローバルレベルで指定する必要があります。</p> <p>以下に例を示します。</p> <pre data-bbox="667 884 1448 1178"> { "q": "Acme", "fields": ["Id", "Name", "Phone"], "subjects": [{"name": "Account"}, {"name": "Contact", "fields": ["Id", "FirstName", "LastName"]}, {"name": "Lead"}] } </pre> <p>グローバル <code>fields</code> パラメータは、<code>subjectsFilter[]</code> 項目が指定されている場合は上書きされます。たとえば、前の例の <code>Contact</code> では、<code>Id</code>、<code>Name</code>、<code>Phone</code> のグローバル項目の代わりに <code>Id</code>、<code>FirstName</code>、<code>LastName</code> が返されます。</p> <p>指定されていない場合、検索結果には指定されたオブジェクトのすべての項目に一致するレコードの ID が含まれます。</p> <p>関数</p> <p>次の省略可能な関数は、<code>fields</code> パラメータ内で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>toLabel</code>: 応答項目値をユーザの言語に翻訳します。この関数には、追加設定が必要です。以下に例を示します。 <pre data-bbox="708 1633 1448 1835"> { ... "subjects": [{"name": "Lead", "fields": ["Id", "toLabel(Status)"}], ... } </pre>

名前	型	サポートされているメソッド	説明
			<ul style="list-style-type: none"> • <code>convertCurrency</code>: 応答通貨項目をユーザの通貨に変換します。この関数には、追加設定が必要です。マルチ通貨が組織で有効になっている必要があります。以下に例を示します。 <pre data-bbox="703 527 1448 726"> { ... "subjects": [{"name": "Opportunity", "fields": ["Id", "convertCurrency(Amount)"}] ... }</pre> • <code>format</code>: ローカライズされた書式設定を標準およびカスタムの数値、日付、時刻、通貨項目に適用します。以下に例を示します。 <pre data-bbox="703 873 1448 1073"> { ... "subjects": [{"name": "Opportunity", "fields": ["Id", "format(Amount)"}] ... }</pre> <p>別名指定は、<code>toLabel</code>、<code>convertCurrency</code>、および <code>format</code> の <code>fields</code> 内でサポートされます。さらに、クエリに同じ項目が複数含まれるときは、別名指定が必要です。以下に例を示します。</p> <pre data-bbox="667 1230 1448 1430"> { ... "subjects": [{"name": "Opportunity", "fields": ["Id", "format(Amount) AliasAmount"}] ... }</pre>
in	string	GET、POST	<p>検索する項目範囲。1つ以上の範囲値を指定した場合、見つかったすべてのオブジェクトの項目が返されます。</p> <p>次のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL • NAME • EMAIL • PHONE • SIDEBAR <p>この句は、記事、ドキュメント、フィードコメント、フィード項目、ファイル、商品、およびソリューションには適用されません。</p>

名前	型	サポートされているメソッド	説明
			これらのオブジェクトのいずれかが指定されている場合、検索は特定の項目に制限されず、すべての項目が検索されます。
metadata	string	GET、POST	応答でメタデータが返されるかどうかを指定します。デフォルトではメタデータは返されません。応答にメタデータを含めるには、検索結果で返される項目の表示ラベルを返す LABELS 値を使用します。例: ?q=Acme&metadata=LABELS
netWorkIds	string	GET	検索結果をカンマ区切りのリストで絞り込みます。 ネットワーク ID はコミュニティ ID を表します。
netWorkIds	string[]	POST	検索結果を配列で絞り込みます。 ネットワーク ID はコミュニティ ID を表します。
offset	string	GET、POST	単一値。返された結果セットへの開始行オフセット。 offset の最大値は 2000 です。 このパラメータを使用して指定できる subject は 1 つのみです。
overallLimit	string	GET、POST	単一値。指定されたすべての subject パラメータで返される結果の最大数。 overallLimit の最大値は 2000 です。
pricebookId	string	GET、POST	単一値。商品検索結果を Product2 オブジェクトのみの価格表 ID で絞り込みます。価格表 ID は、検索する商品に関連付けられている必要があります。例: ?q=laptop&subject=product2&pricebookId=01sxx0000002MfFAAE
snippet	string	GET、POST	Salesforce ナレッジ記事、ケース、ケースコメント、フィード、フィードコメント、アイデア、アイデアのコメントの検索結果で返される対象の長さ (スニペット文字の最大数)。snippet パラメータはコンテキストの抜粋を表示し、検索結果で各記事の検索語を強調表示します。スニペットの結果は、記事の検索結果での検索語との一致を区別するために使用されます。対象の長さは 50 ~ 1000 文字で指定できます。 スニペットと強調表示は、メール、テキスト、およびテキストエリア (ロングおよびリッチ) 項目から生成されます。部分一致の場合、またはスニペットが含まれる項目へのアクセス権がユーザにない場合、スニペットは表示されません。スニペットが表示されるのは、ページに返される結果が 20 件以下の場合のみです。

名前	型	サポートされているメソッド	説明
			<p>次の1つ以上の <code>subject</code> 値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サフィックス <code>__kav</code> の付いた記事タイプ名 (特定の記事タイプを検索する場合)。 • <code>KnowledgeArticleVersion</code> (すべての記事タイプを検索する場合)。 • ケース、ケースコメント、フィード、フィードコメント、アイデア、アイデアのコメントの種別を検索するには、<code>Case</code>、<code>CaseComment</code>、<code>FeedItem</code>、<code>FeedComment</code>、<code>Idea</code>、<code>IdeaComment</code> を使用します。 <p>たとえば、「<code>q=tourism&subject=Case&snippet=500</code>」などです。</p>
<code>subject</code>	<code>string</code>	GET	<p>応答で返されるオブジェクト。有効なオブジェクト種別である必要があります。</p> <p>複数の <code>subject</code> 値を使用できます (例: <code>subject=Account&subject=Contact</code>)。</p> <p>指定されていない場合、検索結果にはすべてのオブジェクトの ID が含まれます。</p>
<code>subjects</code>	subjectsFilter[]	POST	<p>応答で返されるオブジェクト。有効なオブジェクト種別が含まれている必要があります。必須パラメータと併用します。</p> <p>以下に例を示します。</p> <pre> { "q": "Acme", "fields": ["id", "title"], "subjects": [{"name": "Solution__kav", "where": "language='en_US' and publishstatus='draft'"}, {"name": "FAQ__kav", "where": "language='en_US' and publishstatus='draft'"}] } </pre> <p>指定されていない場合、検索結果にはすべてのオブジェクトの ID が含まれます。</p>

名前	型	サポートされているメソッド	説明
updateTracking	string	GET、POST	true の値を指定すると、Salesforce ナレッジ記事の検索でのみ使用されるキーワードが追跡されます。 指定されていない場合、デフォルト値の false が適用されます。
updateViewStat	string	GET、POST	true の値を指定すると、記事の参照統計が更新されます。Salesforce ナレッジ記事の検索でのみ有効です。 指定されていない場合、デフォルト値の false が適用されます。

dataCategoriesFilter[] パラメータ

パラメータは、表に示された順序 (groupName、operator、categories) で指定する必要があります。

名前	型	説明
groupName	string	絞り込むデータカテゴリグループの名前。
operator	string	有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ABOVE • ABOVE_OR_BELOW • AT • BELOW
categories	string[]	絞り込むカテゴリの名前。

subjectsFilter[] パラメータ (POST メソッドのみ)

名前	型	説明
fields	string[]	subject に対する応答で返される、1つ以上の項目の配列。
limit	string	subject で返される最大行数を指定します。
name	string	応答で返される subject の名前。
orderBy	string	構文 "orderBy" : "field {ASC DESC} [NULLS_{FIRST LAST}]" を使用して結果項目の順序を制御します。 以下に例を示します。 <pre> { ... "subjects": [{"name": "Account", "fields": ["Id", "name"], "orderBy": </pre>

名前	型	説明
		<pre>"Name DESC Nulls_last"]]</pre> <pre>...</pre> <pre>}</pre> <ul style="list-style-type: none"> • ASC:昇順。デフォルト。 • DESC:降順。 • NULLS_FIRST:nullのレコードを結果の先頭に配置します。デフォルト。 • NULLS_LAST:nullのレコードを結果の最後に配置します。
where	string	<p>このオブジェクトの検索結果を特定の項目値で絞り込みます。</p> <p>たとえば、<code>where : conditionExpression</code> です。この WHERE 句の <code>conditionExpression</code> は、構文 <code>fieldExpression [logicalOperator fieldExpression2 ...]</code> を使用します。</p> <p>論理演算子と比較演算子を使用して、複数の項目式を条件式に追加します。</p>

subject レベルのパラメータ (GET メソッドのみ)

次の省略可能なパラメータは、検索結果をさらに絞り込むために GET メソッドの `subject` パラメータと併用できます。これらの設定は、グローバルレベルで指定された設定を上書きします。

形式は、`subject.parameter` です (例: `Account.fields`)。これらのパラメータを使用するには、`subject` を指定する必要があります (例: `subject=Account&Account.fields=id,name`)。

名前	型	説明
fields	string	<p>応答で返される、カンマで区切られた1つ以上の項目のリスト。</p> <p>たとえば、<code>KnowledgeArticleVersion.fields=id,title</code> です。</p>
limit	string	<p><code>subject</code> で返される最大行数を指定します。</p> <p>たとえば、<code>Account.limit=10</code> です。</p>
orderBy	string	<p>構文 <code>orderBy = field {ASC DESC} [NULLS_{FIRST LAST}]</code> を使用して結果項目の順序を制御します。</p> <p>例: <code>Account.orderBy=Name</code></p> <ul style="list-style-type: none"> • ASC:昇順。デフォルト。 • DESC:降順。 • NULLS_FIRST:nullのレコードを結果の先頭に配置します。デフォルト。 • NULLS_LAST:nullのレコードを結果の最後に配置します。

名前	型	説明
where	string	<p>このオブジェクトの検索結果を特定の項目値で絞り込みます。</p> <p>たとえば、<code>Account.where = conditionExpression</code> です。この WHERE 句の <code>conditionExpression</code> は、構文 <code>fieldExpression [logicalOperator fieldExpression2 ...]</code> を使用します。</p> <p>論理演算子と比較演算子を使用して、複数の項目式を条件式に追加します。たとえば、<code>KnowledgeArticleVersion.where=publishstatus='online' and language='en_US'</code> です。</p>

GET メソッドの例

```
.../v37.0/parameterizedSearch/?q=Acme&subject=Account&Account.fields=id,name&Account.limit=10
```

POST メソッドの例

```
{
  "q": "Smith",
  "fields": ["id", "firstName", "lastName"],
  "subjects": [{"fields": ["id", "NumberOfEmployees"],
    "name": "Account",
    "limit": 20},
    {"name": "Contact"}],
  "in": "ALL",
  "overallLimit": 100,
  "defaultLimit": 10
}
```

Process Approvals

すべての承認プロセスのリストを返します。特定のレコードが承認プロセスをサポートしていて、承認プロセスがすでに定義されている場合、そのレコードを送信するためにも使用できます。現在のユーザが割り当てられた承認者である場合、レコードを承認および却下できます。POST 要求を使用して一括承認を行う場合、成功した要求はコミットされ、失敗した要求からはエラーが返されます。

構文

URI

承認のリストを返す場合の URI: `/vXX.X/process/approvals/`

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD、POST

認証Authorization: Bearer **token****要求パラメータ**

不要

リクエストボディ

リクエストボディには、次の情報を含むプロセス要求の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
actionType	string	実行するアクション (<i>Submit</i> 、 <i>Approve</i> 、または <i>Reject</i>) を表します。
contextActorId	ID	承認レコードを要求した申請者の ID。
contextId	ID	動作の対象となる項目の ID。
comments	string	この要求に関連付けられた履歴ステップに追加されるコメント。
nextApproverIds	ID[]	プロセスが引き続き承認の詳細を要求する場合、次の要求に割り当てられるユーザ ID。
processDefinitionId	string	プロセス定義の開発者名または ID。
skipEntryCriteria	boolean	プロセス定義名または ID が null ではない場合にプロセスの開始条件を評価するか (true)、否か (false) を決定します。プロセス定義名または ID が指定されていない場合、この引数は無視され、標準の評価がプロセスの順序に基づいて行われます。この要求で設定されていない場合は、デフォルトでは開始条件はスキップされません。

レスポンスボディ

レスポンスボディには、次の情報を含むプロセス結果の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
actorIds	ID[]	この承認ステップに現在割り当てられているユーザの ID。
entityId	ID	処理されているオブジェクト
errors	Error[]	要求が失敗した場合に返されるエラーのセット。
instanceId	ID	処理用に提出されるオブジェクトに関連付けられている ProcessInstance の ID。
instanceStatus	string	現在のプロセスインスタンスの状態 (個別のオブジェクトではなく、全体のプロセスインスタンス)。有効値は、「Approved」、 「Rejected」、 「Removed」、または 「Pending」 です。

名前	データ型	説明
<code>newWorkItemIds</code>	ID[]	ProcessInstanceWorkitem 項目を示す、大文字と小文字が区別されない ID (保留中の承認要求セット)。
<code>success</code>	boolean	処理または承認が正常に完了した場合、true。

例

- 「すべての承認プロセスのリストを取得する」を参照してください。
- 「承認を受けるレコードを送信する」を参照してください。
- 「レコードを承認する」を参照してください。
- 「レコードを却下する」を参照してください。
- 「一括承認」を参照してください。

Process Rules

すべての有効なワークフロールールを返します。ルールにアクションがある場合、アクションがルールの下にリストされます。指定したレコードに関連付けられたワークフロールールすべてをトリガするためにも使用できます。ルールのアクションは、ルール条件に一致した場合にのみ起動されます。POST 要求の使用時に何かに失敗すると、トランザクション全体がロールバックされます。

REST API を使用して、クロスオブジェクトワークフロールールを呼び出すことはできません。

構文

URI

ワークフロールールをリストを取得するか、1つ以上のワークフロールールをトリガする場合の URI:
`/vXX.X/process/rules/`

特定のオブジェクトのルールを取得する場合: `/vXX.X/process/rules/sObjectName`

特定のルールのメタデータを取得する場合: `/vXX.X/process/rules/sObjectName/workflowRuleId`

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証

Authorization: Bearer **token**

要求パラメータ

不要

リクエストボディ

リクエストボディには、コンテキスト ID の配列が含まれます。

名前	データ型	説明
contextId	ID	動作の対象となる項目の ID。

例

- 「プロセスルールのリストを取得する」を参照してください。
- 「特定のプロセスルールを取得する」を参照してください。
- 「プロセスルールをトリガする」を参照してください。

Query

指定された SOQL クエリを実行します。

クエリ結果が大きすぎる場合、応答には、結果の最初のバッチと応答の `nextRecordsUrl` 項目のクエリ識別子が含まれます。識別子は、追加の要求で次のバッチを取得するために使用できます。

URI

`/vXX.X/query/?q=SOQL クエリ`

クエリを実行せずにクエリのパフォーマンスフィードバックを取得する場合:

`/vXX.X/query/?explain=SOQL クエリ`

レポートまたはリストビューに関するクエリのパフォーマンスフィードバックを取得する場合:

`/vXX.X/query/?explain=レポートまたはリストビュー ID`

最初の結果が大きすぎる場合、以降のクエリ結果は次のように取得します。

`/vXX.X/query/クエリの識別子`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド


GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
q	SOQL クエリ。有効な URI を作成するには、クエリ文字列内のスペースを「+」文字で置き換える必要があります。たとえば、クエリパラメータ文字列は「SELECT+Name+FROM+MyObject」のようになります。SOQL クエリ文字列が無効な場合、MALFORMED_QUERY 応答が返されます。

パラメータ	説明
explain	<p>パフォーマンスフィードバックを取得する SOQL クエリ。Salesforce でのクエリの処理方法の詳細を示す応答を取得するには、q の代わりに explain を使用します。このフィードバックを使用して、クエリをさらに最適化できます。また、クエリ文字列の代わりにレポートまたはリストビューの ID を使用して、Salesforce でのレポートまたはリストビューの処理方法に関するフィードバックを取得することもできます。</p> <p>explain パラメータは、API バージョン 30.0 以降で使用できます。</p> <p> メモ: REST API クエリリソースでの explain の使用は、ベータ機能です。このベータ機能に関連するサポートはありません。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。</p> <p>SOQL クエリ文字列が無効な場合、MALFORMED_QUERY 応答が返されます。レポートまたはリストビューの ID が無効な場合、INVALID_ID 応答が返されます。</p>

レスポンスボディ

q パラメータを使用するクエリでは、クエリ結果レコードの配列が応答に含まれます。explain パラメータを使用するクエリでは、クエリ、レポート、またはリストビューの実行に使用できる 1 つ以上のクエリ実行プランが応答に含まれます。プランは、最も最適なものから順に並び替えられます。各プランには次の情報が含まれます。

名前	データ型	説明
cardinality	number	インデックス項目に基づいてクエリから返されると予測されるレコード数 (存在する場合)。
fields	string[]	先行する操作種別が Index の場合はクエリに使用されるインデックス項目、そうでない場合は null。
leadingOperationType	string	<p>クエリを最適化するために使用される主な操作種別。次のいずれかの値が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Index — クエリオブジェクトに関するインデックスがクエリで使用されます。 Other — Salesforce の内部的な最適化がクエリで使用されません。 Sharing — ユーザの共有ルールに基づいたインデックスがクエリで使用されます。現在のユーザに表示されるレコードが制限される共有ルールの場合、そのルールを使用してクエリを最適化することができます。 TableScan — クエリオブジェクトのすべてのレコードがクエリでスキャンされ、インデックスは使用されません。

名前	データ型	説明
notes	feedbacknote[]	1つ以上のフィードバックメモの配列。各メモに含まれる内容は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> description — 組織の1つの側面に関する詳細な説明。これには、使用不可能な最適化について、その理由に関する詳細などが含まれます。 fields — 最適化に使用される1つ以上の項目の配列。 tableEnumOrId — 最適化に使用される項目のテーブル名。 この応答項目は、APIバージョン 33.0 以降で使用できます。
relativeCost	number	SOQL セレクティブクエリのしきい値と比較した、このクエリのコスト。1.0を超える値は、クエリがセレクティブにならないことを示します。セレクティブクエリについての詳細は、『 Force.com Apex コード開発者ガイド 』の「より効率的な SOQL クエリ」を参照してください。
subjectCardinality	number	組織内にあるクエリオブジェクトの全レコードの概数。
subjectType	string	クエリオブジェクトの名前 (Merchandise__c など)。

例

クエリの作成と、クエリ識別子を使用した以降のクエリ結果の取得の例は、「[SOQL クエリを実行する](#)」(ページ 74)を参照してください。

explain パラメータを使用してクエリおよびレポートでフィードバックを取得する例は、「[クエリのパフォーマンスに関するフィードバックを取得する](#)」(ページ 76)を参照してください。

SOQL についての詳細は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』を参照してください。クエリのバッチサイズについての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「[クエリのバッチサイズの変更](#)」を参照してください。

QueryAll

指定された SOQL クエリを実行します。Query リソースとは異なり、QueryAll は merge または delete によって削除されたレコードを返します。また、QueryAll はアーカイブ済みの ToDo と行動のレコードの情報を返します。QueryAll は、APIバージョン 29.0 以降で使用できます。

クエリ結果が大きすぎる場合、応答には、結果の最初のバッチと応答の nextRecordsUrl 項目のクエリ識別子が含まれます。識別子は、追加の要求で次のバッチを取得するために使用できます。nextRecordsUrl の URL に query が指定されている場合でも、最初の QueryAll 要求の残りの結果が提供されます。残りの結果には、最初のクエリに一致した削除されたレコードが含まれます。

URI

/vXX.X/queryAll/?q=**SOQL** クエリ

最初の結果が大きすぎる場合、以降のクエリ結果は次のように取得します。

/vXX.X/queryAll/**クエリの識別子**

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer **token****パラメータ**

パラメータ	説明
q	SOQL クエリ。有効な URI を作成するには、クエリ文字列内のスペースを「+」文字で置き換える必要があります。たとえば、クエリパラメータ文字列は「SELECT+Name+FROM+MyObject」のようになります。

例

- 削除された項目を含むクエリを作成する例は、「[削除された項目を含む SOQL クエリを実行する](#)」(ページ 75)を参照してください。
- クエリ識別子を使用して追加の結果を取得するクエリの例は、「[SOQL クエリの残りの結果の取得](#)」(ページ 76)を参照してください。

SOQL についての詳細は、『[Force.com SOQL および SOSL リファレンス](#)』を参照してください。クエリのバッチサイズについての詳細は、『[SOAP API 開発者ガイド](#)』の「[クエリのバッチサイズの変更](#)」を参照してください。

Quick Actions

グローバルアクションおよびオブジェクト固有のアクションのリストを返します。このリソースは REST API バージョン 28.0 以降で使用できます。アクションを使用する場合は、「[SObject Quick Actions](#)」も参照してください。

URI

/vXX.X/quickActions/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

HEAD、GET、POST

認証Authorization: Bearer **token****パラメータ**

不要

考慮事項

すべての必須項目をオブジェクトに追加してから、そのオブジェクトのクイックアクションを作成してください。クイックアクションの作成後に必須項目を追加すると、クイックアクションの Describe Result に項目が表示されなくなります。その場合、クイックアクションの実行時に項目を使用できず、項目が欠落し

ているというエラーが発生します。クイックアクションのレイアウトに必須項目を表示しない場合は、項目にデフォルト値を設定します。

グローバルクイックアクションを取得する場合の使用例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v28.0/quickActions/ -H
"Authorization: Bearer token"
```

アクションを使用して取引先責任者を作成する場合の例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v28.0/quickActions/CreateContact
-H 'Authorization: Bearer access_token -H "Content-Type: application/json" -d
@newcontact.json'
```

JSON リクエストボディ newcontact.json ファイルの例

```
{
  "record" : { "LastName" : "Smith" }
}
```

Recent List Views

特定の sObject 種別に最近使用されたリストビューのリストを返します。

このリソースは REST API バージョン 32.0 以降で使用できます。

URI

```
/vXX.X/subjects/{subjectType}/listviews/recent
```

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

パラメータ

なし

例:

Account オブジェクトの最近のリストビューを取得

```
curl
https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/recent
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディ

```
{
  "done" : true,
  "listviews" : [ {
```

```

    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/describe",
    "developerName" : "MyAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCNMA0",
    "label" : "My Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCNMA0"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/describe",
    "developerName" : "NewThisWeek",
    "id" : "00BD0000005WcBeMAK",
    "label" : "New This Week",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcBeMAK"
  }, {
    "describeUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/describe",
    "developerName" : "AllAccounts",
    "id" : "00BD0000005WcCFMA0",
    "label" : "All Accounts",
    "resultsUrl" :
"/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0/results",
    "soqlCompatible" : true,
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/listviews/00BD0000005WcCFMA0"
  } ],
  "nextRecordsUrl" : null,
  "size" : 3,
  "subjectType" : "Account"
}

```

Recently Viewed Items

現在のユーザが表示または参照した、最近参照された項目を取得します。Salesforceでは、レコード参照に関する情報がインターフェースに保存され、その情報を使用して、サイドバーや検索のオートコンプリートオプションなどで、最近表示および参照したレコードのリストが生成されます。

このリソースは、最近使ったデータの情報にのみアクセスします。最近参照したデータのリストを変更するには、SOQL [クエリ](#)で FOR VIEW 句または FOR REFERENCE 句を指定して、最近参照した情報を直接更新する必要があります。

URI

/vXX.X/recent

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer **token****パラメータ**

パラメータ	説明
limit	返されるレコードの最大数を指定するパラメータ (省略可能)。このパラメータが指定されていない場合、返されるレコードのデフォルトの最大数は RecentlyViewed のエントリの最大数 (オブジェクトあたり 200 レコード) になります。


例

- 最近参照した項目のリストを取得する例については、[「最近参照したレコードの表示」](#) (ページ 86)を参照してください。
- レコードを最近参照したデータとして設定する例は、[「最近参照したデータとしてレコードをマーク」](#) (ページ 87)を参照してください。

Relevant Items

現在のユーザの最も関連性の高い項目を取得します。関連性の高い項目には、ユーザのグローバル検索範囲のオブジェクトや、最後に使用した (MRU) オブジェクトのレコードなどがあります。

関連項目には、ユーザのグローバル検索範囲内の各オブジェクトの最大 50 件の最近参照または更新したレコードが含まれます。

 **メモ:** ユーザのグローバル検索範囲には、Salesforce Classic の検索結果ページでユーザが固定したオブジェクトなど、過去 30 日間にユーザが最も多く操作したオブジェクトが含まれます。

その後リソースによって、レコードの最大数 (2,000) が返されるまで、最後に使用した (MRU) オブジェクトごとにその他の最近のレコードが検索されます。

このリソースは、関連項目情報にのみアクセスします。関連項目リストの変更は、現在サポートされていません。

このリソースは API バージョン 35.0 以降で使用できます。

URI

/vXX.X/subjects/relevantItems

形式

JSON

HTTP メソッド

GET

認証Authorization: Bearer **token**

パラメータ

パラメータ	説明
<code>lastUpdatedId</code>	省略可能。現在の関連項目リスト全体を以前のバージョンと比較します (使用可能な場合)。以前の応答で返された <code>lastUpdatedId</code> 値を指定します。
<code>subjects</code>	省略可能。結果を特定のオブジェクトまたはオブジェクトセットに絞り込むには、1つ以上の <code>sObject</code> の名前を指定します。  メモ: <code>sObject</code> 名では大文字と小文字が区別されます。
<code>subject.lastUpdatedId</code>	省略可能。この特定のオブジェクトの現在の関連項目リストを以前のバージョンと比較します (使用可能な場合)。以前の応答で返された <code>lastUpdatedId</code> 値を指定します。  メモ: <code>subjects</code> パラメータで指定された <code>sObject</code> では、このパラメータのみ指定できます。

応答ヘッダー

応答には、このリソースに固有のヘッダーが含まれます。

名前	型	説明
<code>lastUpdatedId</code>	string	完全な結果セットの結果をこの応答リストの結果と比較するために後続のコールで使用できる、一意のコード。
<code>newResultSetSinceLastQuery</code>	Boolean (true または false)	現在のユーザに対して応答が以前に要求されている場合は、現在の応答が以前の応答または <code>lastUpdatedId</code> で指定された応答と一致するかどうかを示します。

レスポンスボディ

応答には、返される各オブジェクトのレコードの配列が含まれます。各レコードの次の情報も含まれます。

名前	型	説明
<code>apiName</code>	string	オブジェクトの一意の名前 (Account など)。
<code>key</code>	ID	オブジェクト種別を示す、 <code>sObject</code> の ID の最初の 3 文字。
<code>label</code>	string	オブジェクトの複数形の表示ラベル (Accounts など)。
<code>lastUpdatedId</code>	string	新しい結果セットの結果をこのオブジェクトの現在の結果と比較するために後続のコールで使用できる、一意のコード。
<code>qualifiedApiName</code>	string	<code>sObject</code> の一意の外部名。

名前	型	説明
recordIds	ID	一致するレコードの ID のカンマ区切りのリスト。

例

「[関連項目の表示](#)」を参照してください。

ナレッジ言語設定の取得

既存のナレッジ言語設定(デフォルトのナレッジ言語やサポートされるナレッジ言語情報のリストなど)を返します。

構文

URI

```
/services/data/v31.0/knowledge Management/settings
```

適用開始バージョン

31.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

なし

KnowledgeSettings を取得する場合の例

```
curl
https://https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v31.0/knowledgeManagement/settings
-H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "defaultLanguage" : "en_US",
  "knowledgeEnabled" : true,
  "languages" : [ {
    "active" : true,
```

```
"name" : "en_US"
}, {
  "active" : true,
  "name" : "it"
}, {
  "active" : true,
  "name" : "zh_CN"
}, {
  "active" : true,
  "name" : "fr"
} ]
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。このユーザのプロファイルに「ナレッジユーザ」ライセンスが割り当てられている必要があります。このリソースは API バージョン 31.0 以降で使用できます。ナレッジ言語設定(デフォルトのナレッジ言語やサポートされるナレッジ言語情報のリストなど)を取得します。

Search

指定された SOSL 検索を実行します。検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

URI

`/vXX.X/search/?q=SOSL search string`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

パラメータ	説明
q	適切に URL 符号化された SOSL ステートメント。

例

「[文字列を検索する](#)」(ページ 78)を参照してください。

SOSL についての詳細は、[『Force.com SOQL および SOSL リファレンス』](#)を参照してください。

Search Scope and Order

ログインユーザのデフォルトのグローバル検索範囲内にあるオブジェクトの順序付きリストを返します。グローバル検索は、操作するオブジェクトとそれらを実行する頻度を追跡し、それに基づいて検索結果を編成します。最もよく使用されるオブジェクトは、リストの最上部に表示されます。

返されるリストには、ユーザの検索結果ページの固定表示オブジェクトを含め、ユーザのデフォルトの検索範囲でのオブジェクト順が反映されます。このコールは、最適化されたグローバル検索範囲を使用してカスタム検索結果ページを実装する場合に役立ちます。検索文字列は URL 符号化されている必要があります。

URI

`/vXX.X/search/scopeOrder`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

例

「[デフォルトの検索範囲と検索順序の取得](#)」を参照してください。

Search Result Layouts

クエリ文字列に含まれるオブジェクトの検索結果レイアウトに関する情報を返します。このコールでは、検索結果ページに列として表示される項目のリスト、最初のページに表示される行数、および検索結果ページで使用するラベルがオブジェクトごとに返されます。このコールでは、1回のクエリで100個までのオブジェクトの一括取得をサポートしています。

URI

`/vXX.X/search/layout/?q=カンマで区切られたオブジェクトのリスト`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer *token*

例

[オブジェクトの検索結果レイアウトの取得](#)

Search Suggested Records

名前がユーザの検索文字列と一致した推奨レコードのリストを返します。この推奨リソースは、ユーザが全文検索を実行する前に、関連する可能性のあるレコードに直接移動するためのショートカットを提供します。

構文

URI

vXX.X/search/suggestions?q=**search string**&subject=**object types**

適用開始バージョン

32.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要


要求パラメータ


パラメータ	説明
fields	省略可能。ルックアップクエリの作成に使用します。カンマ区切りのリストを使用して複数の項目を指定します。応答で返される参照項目を指定します。
groupId	省略可能。返される質問が投稿されたグループの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のグループを指定します。このパラメータは、パラメータのtypeがquestionの場合にのみ適用されます。userId と併せて使用しないでください。
ignoreUnsupportedSObjects	省略可能。サポート対象外のオブジェクトが要求に含まれていた場合の動作を指定します。false を指定すると、サポート対象外のオブジェクトが含まれている場合、エラーが返されます。true を指定すると、サポート対象外のオブジェクトが含まれている場合、オブジェクトは無視されてエラーは返されません。「サポート対象外のオブジェクト」セクションを参照してください。デフォルトは、false です。
limit	省略可能。返される推奨レコードの最大数を指定します。制限が指定されていない場合、デフォルトで5レコードが返されます。指定された制限を超える推奨レコードが存在すると、レスポンスボディのhasMoreResults プロパティが true になります。
networkId	省略可能。返される質問が関連付けられたコミュニティの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のコミュニティを指定します。このパラメータは、パラメータのtypeがquestionの場合、またはパラメータのsubjectがuserの場合にのみ適用されます。

パラメータ	説明
q	<p>必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語、タイ語の場合は1文字、その他の言語の場合は3文字) を満たしている場合にのみ、推奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 255 文字 (または区切りの空白なしの連続した 200 文字) を超えると、エラーが返されます。</p>
subject	<p>必須。Account や offer__c など、検索の範囲となるオブジェクト。</p> <p>subject の値が feedItem の場合、type パラメータの値は question である必要があります。</p> <p>カンマ区切りのリストを使用して最大 10 個のオブジェクトを指定します。たとえば、subject=Account,Contact,Lead のように記述します。この機能を利用するには、[CrossObjectTypeahead] 権限を有効にします。</p> <p>オブジェクトごとに返す特定の項目を指定するには、次の構文を使用します。複数の項目にはカンマ区切りのリストを使用します。subject は小文字です。</p> <pre>subject=subject.fields=fields</pre> <p>以下に例を示します。</p> <pre>&subject=Account,Contact,Lead&account.fields=Website,Phone &contact.fields=Phone</pre>
topicId	<p>省略可能。返される質問がタグ付けされた単一のトピックの一意の識別子を指定します。このパラメータは、パラメータの type が question の場合にのみ適用されます。</p>
type	<p>subject の値が feedItem である場合は必須です。subject のその他すべての値に対してこのパラメータを含めると、クエリには影響しません。フィールドの種別が質問であることを指定します。有効な値: question。</p>
userId	<p>省略可能。返される質問を作成したユーザの一意の識別子を指定します。カンマ区切りのリストを使用して複数のユーザを指定します。このパラメータは、パラメータの type が question の場合にのみ適用されます。groupId と併せて使用しないでください。</p>
where	<p>単一のオブジェクト要求に対して省略可能。要求で複数のオブジェクトが指定された場合は、サポートされていません。SOQL の where 句と同じ構文に従う検索条件の制約。たとえば、式 my_field__c LIKE 'foo%' AND RecordType='bar' は適切に URL 符号化されている必要があります。Question オブジェクトでは使用できません。</p>

使用方法

この推奨リソースは、レコード名項目が検索文字列と一致するテキストを含む場合にレコードを返します。検索文字列内の最後の文字と、単語の先頭の一致も検出されます。1語内に検索文字列が含まれるレコードは、一致とは見なされません。

 **メモ:** ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI でクエリ文字列から自動的に削除されます。

 **例:** テキスト文字列 `national u` は `national u*` として扱われ、「National Utility」、「National Urban Company」、「First National University」が返されます。

推奨レコード応答

この推奨リソースは、関連する可能性があり、ユーザがアクセス可能なレコードに関する、表示可能な状態のデータを返します。

結果の順序は、関連性アルゴリズムによって決まります。

結果内の各推奨レコードには、次の要素が含まれます。

要素	説明
Attributes	レコードのオブジェクト種別とレコードにアクセスするための URL。 要求された参照項目の値も含まれます。たとえば、 <code>fields=Id,Name</code> を要求した場合、結果には ID と名前が含まれます。
Name (または Title)	レコードの名前項目。標準の名前項目がない場合、次のオブジェクトには標準のタイトル項目が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Dashboard • Idea • IdeaTheme • Note • Question 標準の名前項目または役職項目がない場合、メインの識別項目が使用されます。たとえば、ケースの場合はケース番号が使用されます。
Id	レコードの一意の識別子。

JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DH6WAAW"
  },
  "Id" : "001xx000003DH6WAAW"
```

```
"Name" : "National Utility Service"
}, {
{
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHJ4AAO"
  },
  "Id" : "001xx000003DHJ4AAO"
  "Name" : "National Utility Service"
}, {
{
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHscAAG"
  },
  "Id" : "001xx000003DHscAAG"
  "Name" : "National Urban Technology Center"
} ]
```

複数オブジェクト要求の JSON レスポンスボディの例

```
[ {
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v38.0/subjects/Account/001xx000003DMEKAA4"
  },
  "Id" : "001xx000003DMEKAA4"
  "Name" : "Joe Doe Printing"
}, {
{
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v38.0/subjects/Account/001xx000003DLjvAAG"
  },
  "Id" : "001xx000003DLjvAAGO"
  "Name" : "Joe Doe Plumbing"
}, {
{
  "attributes" : {
    "type" : "Contact",
    "url" : "/services/data/v38.0/subjects/Contact/003xx000004U9Y9AAK"
  },
  "Id" : "003xx000004U9Y9AAK"
  "Name" : "John Doe"
} ]
```

XML レスポンスボディの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<suggestions>
  <autoSuggestResults type="Account">
```

```

url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DH6WAAW">
  <Id>001xx000003DH6WAAW</Id>
  <Name>National Utility Service</Name>
</autoSuggestResults>
<autoSuggestResults type="Account"
url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHJ4AAO">
  <Id>001xx000003DHJ4AAO</Id>
  <Name>National Utility Service</Name>
</autoSuggestResults>
<autoSuggestResults type="Account"
url="/services/data/v32.0/subjects/Account/001xx000003DHscAAG">
  <Id>001xx000003DHscAAG</Id>
  <Name>National Urban Technology Center</Name>
</autoSuggestResults>
<hasMoreResults>true</hasMoreResults>
</suggestions>

```

サポート対象外のオブジェクト

この推奨リソースでは、次を除くすべての検索可能オブジェクトがサポートされます。

- ContentNote
- Event
- FeedComment
- FeedPost
- IdeaComment
- Pricebook2
- Reply
- TagDefinition
- Task

Search Suggested Article Title Matches

ユーザの検索クエリ文字列に一致する Salesforce ナレッジ記事タイトルのリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、関連する可能性のある記事に直接移動するためのショートカットを提供します。

構文

URI

```

/vXX.X/search/suggestTitleMatches?q=search string&language=article language&publishStatus=article publication status

```

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
articleTypes	省略可能。目的の記事タイプを示す3文字のIDプレフィックス。値ごとにパラメータ名を繰り返すことで、1回のRESTコールでこのパラメータに複数の値を指定できます。たとえば、 articleTypes=ka0&articleTypes=ka1 です。
categories	省略可能。JSONの対応付けとして表現された、目的の記事のデータカテゴリグループの名前とデータカテゴリの名前。このパラメータには複数のデータカテゴリグループとデータカテゴリのペアを指定できます。たとえば、 categories={"Regions":"Asia","Products":"Laptops"} のようにします。URL内の文字を符号化する必要がある場合があります。この例の場合、categories=%7B%22Regions%22%3A%22Asia%22%2C%22Products%22%3A%22Laptops%22%7D です。
channel	省略可能。一致する記事を参照できるチャンネル。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AllChannels - ユーザがアクセス権を持つすべてのチャンネルで参照可能 • App - 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能 • Pkb - 公開知識ベースで参照可能 • Csp - カスタマーポータルで参照可能 • Prm - パートナーポータルで参照可能 channel が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。 <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザの Pkb • カスタマーポータルユーザの Csp • パートナーポータルユーザの Prm • 他の種別のユーザの App channel が指定されている場合、特定の要件により、指定された値が要求した実際の値にならないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定された値は各ユーザ種別のデフォルト値と一

パラメータ	説明
	<p>致する必要があります。値が一致しないか、AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> - Pkb、Csp、Prm、または App が指定されていると、指定された値が使用されます。 - AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。
language	必須。ユーザのクエリの言語。一致する記事が作成された言語を指定します。
limit	省略可能。返される記事の最大数を指定します。指定された制限を超える推奨記事が存在すると、レスポンスボディの hasMoreResults プロパティが true になります。
publishStatus	<p>必須。記事の公開状況。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Draft - Salesforce ナレッジに公開されていない記事。 • Online - Salesforce ナレッジに公開されている記事。 • Archived - [アーカイブ済み記事] ビューで参照可能な公開されていない記事。
q	<p>必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語の場合は 1 文字、その他の言語の場合は 3 文字) を満たしている場合にのみ、推奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 250 文字を超えると、エラーが返されます。</p>
topics	省略可能。返される記事のトピック。たとえば、topics=outlook&topics=email です。
validationStatus	省略可能。返される記事の検証状況。

タイトルが一致する推奨記事を取得する場合の例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/search/suggestTitleMatches?
q=orange+banana&language=en_US&publishStatus=Online -H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "autoSuggestResults" : [ {
```

```

    "attributes" : {
      "type" : "KnowledgeArticleVersion",
      "url" : "/services/data/v30.0/subjects/KnowledgeArticleVersion/ka0D00000004CcQ"
    },
    "Id" : "ka0D00000004CcQ",
    "UrlName" : "orange-banana",
    "Title" : "orange banana",
    "KnowledgeArticleId" : "kA0D00000004Cfz"
  } ],
  "hasMoreResults" : false
}


```

使用方法


Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。ユーザの「記事の参照」権限が有効化されている必要があります。ユーザが参照する権限を持つデータカテゴリおよび記事タイプに基づいて、ユーザがアクセスできる記事のみが推奨記事に含まれます。

Suggest Article Title Matches リソースは、関係する可能性のある記事に関して表示準備のできたデータを返すように設計されています。「a」、「for」、「the」などのストップワードを除いたクエリ文字列全体がタイトルに含まれる記事も推奨されます。

たとえば、*Backpacking for desert* を検索すると、記事「Backpacking in the desert」が返されます。

 **メモ:** この例では「Backpacking for desert survival」なども返されますが、タイトルにクエリ文字列のストップワードが含まれる記事は、タイトルにストップワードが含まれない一致記事よりも前に表示されます。クエリ文字列の末尾にあるストップワードは、検索語として扱われます。

ワイルドカードは、クエリ文字列の最後のトークンに自動的に付加されます。

 **メモ:** ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI で他の特殊文字と同様にクエリ文字列から自動的に削除されます。

返される推奨クエリの数が要求で指定された制限を超えると、hasMoreResults という項目が応答の最後に含まれます。返される推奨クエリが使用可能な推奨クエリのサブセットのみの場合は値が true になり、そうでない場合は false になります。

関連トピック:

[SObject Suggested Articles](#)

Search Suggested Queries

他のユーザが Salesforce ナレッジで実行した検索に一致するユーザのクエリ文字列テキストに基づいて、提案する検索のリストを返します。ユーザが検索を実行する前に、検索の有効性を高める手段を提供します。

構文

URI

vXX.X/search/suggestSearchQueries?q=検索文字列&language=クエリの言語

適用開始バージョン

30.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

不要

要求パラメータ

パラメータ	説明
channel	<p>省略可能。記事を参照できる Salesforce ナレッジチャンネルを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> AllChannels - ユーザがアクセス権を持つすべてのチャンネルで参照可能 App - 内部 Salesforce ナレッジアプリケーションで参照可能 Pkb - 公開知識ベースで参照可能 Csp - カスタマーポータルで参照可能 Prm - パートナーポータルで参照可能 <p>channel が指定されていない場合、ユーザの種別によってデフォルト値が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲストユーザの Pkb カスタマーポータルユーザの Csp パートナーポータルユーザの Prm 他の種別のユーザの App <p>channel が指定されている場合、特定の要件により、指定された値が要求した実際の値にならないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザの場合、指定された値は各ユーザ種別のデフォルト値と一致する必要があります。値が一致しないか、AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。 ゲストユーザ、カスタマーポータルユーザ、パートナーポータルユーザ以外のすべてのユーザの場合は、次のようになります。

パラメータ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> - Pkb、Csp、Prm、または App が指定されていると、指定された値が使用されます。 - AllChannels が指定されていると、指定された値が App に置き換えられます。
language	必須。ユーザのクエリの言語。
limit	省略可能。返される推奨検索の最大数を指定します。指定された制限を超える推奨クエリが存在すると、レスポンスボディの <code>hasMoreResults</code> プロパティが <code>true</code> になります。
q	必須。適切に URL 符号化された、ユーザの検索クエリ文字列。ユーザの検索クエリ文字列が最小長要件 (中国語、日本語、韓国語の場合は 1 文字、その他の言語の場合は 3 文字) を満たしている場合にのみ、推奨クエリが返されます。クエリ文字列が最大長である 250 文字を超えると、エラーが返されます。

推奨クエリを取得する場合の例

```
curl https://yourInstance.salesforce.com/services/data/v30.0/search/suggestSearchQueries?q=app&language=en_US -H "Authorization: Bearer token"
```

JSON レスポンスボディの例

```
{
  "autoSuggestResults" : [ {
    "0" : "apple",
    "1" : "apple banana",
  } ],
  "hasMoreResults" : false
}
```

使用方法

Salesforce ナレッジが組織で有効になっている必要があります。

クエリ文字列テキストと正確に一致する場合にのみ、クエリが推奨されます。クエリ内では、テキスト文字列がプレフィックスである必要があります。テキスト文字列が単語に含まれる場合は、一致とみなされません。たとえば、テキスト文字列が `app` の場合、`apple banana` および `banana apples` という推奨クエリは返されますが、`pineapple` は返されません。

返される推奨クエリの数が要求で指定された制限を超えると、`hasMoreResults` という項目が応答の最後に含まれます。返される推奨クエリが使用可能な推奨クエリのサブセットのみの場合は値が `true` になり、そうでない場合は `false` になります。

ユーザの検索クエリに疑問符またはワイルドカードが含まれている場合、それらの記号は URI でクエリ文字列から自動的に削除されます。

Tabs

ユーザが[すべてのタブ]([+]) タブカスタマイズ機能を使用してタブを非表示にしているかどうかに関係なく、ログインユーザが使用できるすべてのタブ (Lightning ページタブを含む) のリストを返します。このリソースは REST API バージョン 31.0 以降で使用できます。

構文

URI

/vXX.X/tabs/

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET、HEAD

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

要求パラメータ

なし

例

タブを取得するための使用方法

```
/services/data/v31.0/tabs
```

/vXX.X/tabs/ のサンプル JSON レスポンスボディ

これは、[取引先] タブを表す部分的なコードサンプルです。

```
[...,
  "colors" : [ {
    "color" : "6f7ccb",
    "context" : "primary",
    "theme" : "theme4"
  }, {
    "color" : "236FBD",
    "context" : "primary",
    "theme" : "theme3"
  } ],
  "custom" : false,
  "iconUrl" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/accounts32.png",
  "icons" : [ {
```

```

    "contentType" : "image/png",
    "height" : 32,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/accounts32.png",
    "width" : 32
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 16,
    "theme" : "theme3",
    "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/accounts16.png",
    "width" : 16
  }, {
    "contentType" : "image/svg+xml",
    "height" : 0,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account.svg",
    "width" : 0
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 60,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account_60.png",

    "width" : 60
  }, {
    "contentType" : "image/png",
    "height" : 120,
    "theme" : "theme4",
    "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/t4/standard/account_120.png",

    "width" : 120
  } ],
  "label" : "Accounts",
  "miniIconUrl" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/accounts16.png",
  "name" : "standard-Account",
  "subjectName" : "Account",
  "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/001/o",
  ...]

```

Themes

Salesforce アプリケーションのテーマで使用するアイコンと色のリストを取得します。テーマ情報は、Salesforce UI のアイコンと色を使用する組織内のオブジェクトに提供されます。

If-Modified-Since ヘッダーは、このリソースでは `EEE, dd MMM yyyy HH:mm:ss z` という日付形式で使用できます。このヘッダーが使用される場合、指定の日付以降にオブジェクトメタデータが変更されていないと、レスポンスボディなしで `304 Not Modified` 状況コードが返されます。

構文

URI

/vXX.X/theme

適用開始バージョン

29.0

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

GET

認証

Authorization: Bearer **token**

リクエストボディ

None

要求パラメータ

なし

応答データ

テーマ項目の配列。各テーマ項目には次の項目が含まれます。

名前	型	説明
colors	array	テーマの色の配列。
icons	array	テーマアイコンの配列。
name	string	テーマの色とアイコンが関連付けられるオブジェクトの名前。

各テーマの色には次の項目が含まれます。

名前	型	説明
color	string	Web 色の RGB 形式で示される色 (00FF00 など)。
context	string	オブジェクトでその色がメインの色 (primary) であるかどうかを決定する色のコンテキスト。
theme	string	<p>関連付けられたテーマ。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>theme2</i> — Spring '10 より前に使用されていた「Salesforce Classic 2005 ユーザーインターフェースのテーマ」という名前のテーマ <i>theme3</i> — Spring '10 で導入された「Salesforce Classic 2010 ユーザーインターフェースのテーマ」という名前のテーマ <i>theme4</i> — Winter '14 および Lightning Experience では Winter '16 で導入されたモバイルタッチスクリーンバージョンの Salesforce テーマ

名前	型	説明
		<ul style="list-style-type: none"> <code>custom</code> — カスタムアイコンに関連付けられたテーマ

各テーマアイコンには次の項目が含まれます。

名前	型	説明
<code>contentType</code>	string	アイコンのコンテンツタイプは、「image/png」などです。
<code>height</code>	number	アイコンの高さ(ピクセル単位)。アイコンのコンテンツタイプが SVG タイプである場合、高さ と 幅の値は使用されません。
<code>theme</code>	string	関連付けられたテーマ。値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <code>theme2</code> — Spring '10 より前に使用されていた「Salesforce Classic 2005 ユーザーインターフェースのテーマ」という名前のテーマ <code>theme3</code> — Spring '10 で導入された「Salesforce Classic 2010 ユーザーインターフェースのテーマ」という名前のテーマ <code>theme4</code> — Winter '14 および Lightning Experience では Winter '16 で導入されたモバイルタッチスクリーンバージョンの Salesforce テーマ <code>custom</code> — カスタムアイコンに関連付けられたテーマ
<code>url</code>	string	このアイコンの完全修飾 URL。
<code>width</code>	number	アイコンの幅(ピクセル単位)。アイコンのコンテンツタイプが SVG タイプである場合、高さ と 幅の値は使用されません。

例

`services/data/v29.0/theme` の要求を使用した JSON 応答の例を次に示します。

```
{
  "themeItems" : [
    {
      "name" : "Merchandise__c",
      "icons" : [
        {
          "contentType" : "image/png",
          "width" : 32,
          "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/computer32.png",
          "height" : 32,
          "theme" : "theme3"
        },
        {
          "contentType" : "image/png",
          "width" : 16,
```

```

        "url" : "https://yourInstance.salesforce.com/img/icon/computer16.png",
        "height" : 16,
        "theme" : "theme3"
    } ],
    "colors" : [
    {
        "context" : "primary",
        "color" : "6666CC",
        "theme" : "theme3"
    },
    {
        "context" : "primary",
        "color" : "66895F",
        "theme" : "theme4"
    },
    ...
    }
    ...
}

```

複合リソース

REST API 複合リソースを使用して、クライアントとサーバ間の往復回数を最小限に抑えることでアプリケーションのパフォーマンスを高めることができます。

Batch

1回の要求で最大 25 個のサブ要求を実行します。バッチ内のサブ要求のレスポンスボディと HTTP 状況は、1つのレスポンスボディで返されます。各サブ要求は、レート制限にカウントされます。

バッチ内の各要求はサブ要求と呼ばれます。サブ要求はすべて同じユーザのコンテキスト内で実行されます。各サブ要求は独立しており、相互に情報を渡すことはできません。サブ要求は、リクエストボディ内の順序に従って実行されます。サブ要求が正常に実行されると、データがコミットされます。コミットは、以降のサブ要求の出力に反映されます。サブ要求が失敗した場合、前のサブ要求で行われたコミットはロールバックされません。バッチ要求が 10 分以内に完了しない場合、バッチはタイムアウトし、残りのサブ要求は実行されません。

次のリソースとリソースグループの一括処理は、API バージョン 34.0 以降で使用できます。

- Limits — [vXX.X/limits](#)
- Object リソース — [vXX.X/subjects/](#)
- Query — [vXX.X/query/?q=soql](#)
- QueryAll — [vXX.X/queryAll/?q=soql](#)
- Search — [vXX.X/search/?q=sosl](#)
- Connect リソース — [vXX.X/connect/](#)
- Chatter リソース — [vXX.X/chatter/](#)

次のリソースとリソースグループの一括処理は、API バージョン 35.0 以降で使用できます。

- Actions — [vXX.X/actions](#)

各サブ要求でアクセスされるリソースの API バージョンは 34.0 以降で、かつ最上位レベルの要求の Batch バージョン以前である必要があります。たとえば、`/services/data/v35.0/composite/batch` への Batch 要求を行う場合、バージョン 34.0 または 35.0 のリソースにアクセスするサブ要求を含めることができます。ただし、`/services/data/v34.0/composite/batch` への Batch 要求を行う場合は、バージョン 34.0 のリソースにアクセスするサブ要求のみを含めることができます。

URI

`/vXX.X/composite/batch`

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

リクエストボディ

[Batch リクエストボディ](#) (ページ 218)

レスポンスボディ

[Batch レスポンスボディ](#) (ページ 220)

例

Batch リソースの使用例は、「[1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)」(ページ 101)を参照してください。

Batch リクエストボディ

Batch リソースを使用して実行するサブ要求のコレクションを記述します。

Batch Collection Input

このリクエストボディには、実行するサブ要求で構成される `batchRequests` コレクションが含まれます。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
<code>batchRequests</code>	<code>Subrequest[]</code>	実行するサブ要求のコレクション。	必須項目
<code>haltOnError</code>	Boolean	デフォルトは、 <code>false</code> です。 値が <code>false</code> で、バッチ内のサブ要求が完了しない場合、Salesforce は、バッチ内の後続のサブ要求を実行しようと試みます。 値が <code>true</code> で、HTTP 応答 400 番台または 500 番台のエラーが含まれるためにバッチ内のサブ要求が完了	省略可能

名前	型	説明	必須項目/省略可能
		しない場合、Salesforceは実行を停止します。また、後続のサブ要求ごとに HTTP 412 状況コードと BATCH_PROCESSING_HALTED エラーメッセージを返します。/composite/batch への最上位要求は、HTTP 200 を返し、応答内の hasErrors プロパティが true に設定されます。	

ルート XML タグ

<batch>

JSON の例

```
{
  "batchRequests" : [
    {
      "method" : "PATCH",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ",
      "richInput" : {"Name" : "NewName"}
    }, {
      "method" : "GET",
      "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
    }
  ]
}
```

サブ要求

サブ要求のリソース、メソッド、および付随情報が含まれます。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
binaryPartName	String	マルチパート要求のバイナリパートの名前。 1つのバッチ要求で複数のバイナリパートがアップロードされると、この値が要求とバイナリパートの対応付けに使用されます。名前の競合を防止するために、バッチ要求内の各 binaryPartName プロパティには一意の値を使用します。 この値が存在する場合、binaryPartNameAlias 値も存在する必要があります。	省略可能
binaryPartNameAlias	String	バイナリボディパートの Content-Disposition ヘッダーの name パラメータ。リソースごとに異なる値を使	省略可能

名前	型	説明	必須項目/省略可能
		<p>用します。「Blob データを挿入または更新する」を参照してください。</p> <p>この値が存在する場合、<code>binaryPartName</code> 値も存在する必要があります。</p>	
<code>method</code>	String	要求するリソースに使用するメソッド。有効なメソッドのリストは、要求するリソースに関するドキュメントを参照してください。	必須項目
<code>richInput</code>		<p>要求の入力ボディ。</p> <p>型は <code>url</code> プロパティに指定された要求に応じて異なります。</p>	省略可能
<code>url</code>	String	<p>要求するリソース。</p> <ul style="list-style-type: none"> URL には、サブ要求がサポートするクエリ文字列パラメータを含めることができます。クエリ文字列は、URL 符号化されている必要があります。 パラメータを使用して、レスポンスボディを絞り込むことができます。 サブ要求レベルでヘッダーを適用することはできません。 	必須項目

ルート XML タグ

```
<request>
```

JSON の例

```
{
  "method" : "GET",
  "url" : "v34.0/subjects/account/001D000000K0fXOIAZ?fields=Name,BillingPostalCode"
}
```

関連トピック:

[Batch](#)

[1 回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)

Batch レスポンスボディ

バッチ要求の結果を記述します。

Batch Results

プロパティ

名前	型	説明
hasErrors	Boolean	結果セットに HTTP 状況コードが 400 番台または 500 番台の結果が 1 つ以上ある場合は true、それ以外の場合は false。
results	Subrequest Result []	サブ要求の結果のコレクション。

JSON の例

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "statusCode" : 204,
    "result" : null
  }, {
    "statusCode" : 200,
    "result": {
      "attributes" : {
        "type" : "Account",
        "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0FXOIAZ"
      },
      "Name" : "NewName",
      "BillingPostalCode" : "94105",
      "Id" : "001D000000K0FXOIAZ"
    }
  }
  ]
}
```

Subrequest Result

プロパティ

名前	型	説明
result	データ型は、サブ要求の応答種別によって異なります。	このサブ要求のレスポンスボディ。

重要: 結果がエラーの場合、このデータ型はエラーメッセージとエラーコードが含まれるコレ

名前	型	説明
		クションで す。
statusCode	Integer	このサブ要求の状況を示す HTTP 状況コード。

JSON の例

```
{
  "attributes" : {
    "type" : "Account",
    "url" : "/services/data/v34.0/subjects/Account/001D000000K0fXOIAZ"
  },
  "Name" : "NewName",
  "BillingPostalCode" : "94015",
  "Id" : "001D000000K0fXOIAZ"
}
```

関連トピック:

[Batch](#)

[1回の要求でレコードを更新してその項目値を取得する](#)

SObject Tree

指定されたタイプのルートレコードを持つ1つ以上のsObject ツリーを作成します。sObject ツリーは、同じルートレコードを持つネストされた親子レコードのコレクションです。

要求データには、レコード階層、必須および省略可能な項目値、各レコードの種類、および各レコードの参照 ID を指定します。成功すると、応答には作成されたレコードの ID が含まれます。レコードの作成中にエラーが発生した場合、要求全体が失敗します。この場合、応答にはエラーが発生したレコードの参照 ID とエラー情報のみが含まれます。

要求には、次の内容を指定できます。

- すべてのツリーの合計で最大 200 件のレコード
- 最大 5 件の異なるタイプのレコード
- 深さが最大 5 レベルの sObject ツリー

sObject ツリーに含まれるレコードが 1 件の場合があるため、このリソースを使用して同じタイプで関連がないレコードを最大 200 件作成できます。

要求が処理されてレコードが作成されると、次のレコードのグループごとに、トリガ、プロセス、およびワークフロールールが別個に起動されます。

- 要求のすべての sObject ツリーのルートレコード
- 同じタイプのすべての第 2 レベルのレコード (たとえば、要求内のすべての sObject ツリーの第 2 レベルの取引先責任者など)
- 同じタイプのすべての第 3 レベルのレコード

- 同じタイプのすべての第 4 レベルのレコード
- 同じタイプのすべての第 5 レベルのレコード

URI

/vXX.X/composite/tree/*SObjectName*

形式

JSON、XML

HTTP メソッド

POST

認証

Authorization: Bearer *token*

パラメータ

不要

リクエストボディ

[SObject Tree リクエストボディ](#) (ページ 223)

レスポンスボディ

[SObject Tree レスポンスボディ](#) (ページ 226)

例

- 同じタイプで関連のないレコードを作成する例は、「[複数のレコードを作成する](#)」(ページ104)を参照してください。
- ネストされたレコードを作成する例は、「[ネストされたレコードを作成する](#)」(ページ102)を参照してください。

SObject Tree リクエストボディ

SObject Tree リソースを使用して作成する sObject ツリーのコレクションを記述します。

SObject Tree Collection Input

このリクエストボディには、sObject ツリーで構成される `records` コレクションが含まれます。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
<code>records</code>	SObject Tree Input[]	作成するレコードツリーのコレクション。各ツリーのルートレコードタイプは、SObject Tree URI に指定された sObject に対応する必要があります。	必須項目

ルート XML タグ

<SObjectTreeRequest>

JSON の例

```
{
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref1"},
    "name" : "SampleAccount",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking",
    "Contacts" : {
      "records" : [{
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
        "lastname" : "Smith",
        "title" : "President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }, {
        "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
        "lastname" : "Evans",
        "title" : "Vice President",
        "email" : "sample@salesforce.com"
      }
    ]
  }
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Account", "referenceId" : "ref4"},
    "name" : "SampleAccount2",
    "phone" : "1234567890",
    "website" : "www.salesforce2.com",
    "numberOfEmployees" : "100",
    "industry" : "Banking"
  }
  ]
}
```

XML の例

```
<SObjectTreeRequest>
  <records type="Account" referenceId="ref1">
    <name>SampleAccount</name>
    <phone>1234567890</phone>
    <website>www.salesforce.com</website>
    <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
    <industry>Banking</industry>
    <Contacts>
      <records type="Contact" referenceId="ref2">
        <lastname>Smith</lastname>
        <title>President</title>
        <email>sample@salesforce.com</email>
      </records>
      <records type="Contact" referenceId="ref3">
        <lastname>Evans</lastname>
        <title>Vice President</title>
        <email>sample@salesforce.com</email>
      </records>
    </Contacts>
  </records>
</SObjectTreeRequest>
```

```
<records type="Account" referenceId="ref4">
  <name>SampleAccount2</name>
  <phone>1234567890</phone>
  <website>www.salesforce2.com</website>
  <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
  <industry>Banking</industry>
</records>
</SObjectTreeRequest>
```

SObject Tree Input

sObject ツリーは、他の sObject ツリーとして表されるルートレコード、そのデータ、およびその子レコードが含まれる再帰的データ構造です。

プロパティ

名前	型	説明	必須項目/省略可能
attributes	コレクション	このレコードの属性。attributes プロパティには 2つのサブプロパティが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> type (必須) — このレコードのタイプ。 referenceId (必須) — このレコードの参照 ID。要求のコンテキスト内で一意であり、英数字で始まる必要があります。 XML で、records 要素内に属性を含めます。	必須項目
必須オブジェクト項目	項目に依存	このレコードの必須項目と項目値。	必須項目
省略可能なオブジェクト項目	項目に依存	このレコードの省略可能な項目と項目値。	省略可能
子リレーション	SObject Tree Collection Input	このレコードの子リレーション (取引先の子取引先責任者など)。子リレーションは、主従関係または参照関係になります。オブジェクトの有効な子リレーションを表示するには、SObject Describe リソースまたは Schema Builder を使用します。このプロパティの値は、子 sObject ツリーが含まれる SObject Tree Collection Input です。	省略可能

ルート XML タグ

```
<records>
```

JSON の例

```
{
  "attributes" : { "type" : "Account", "referenceId" : "ref1" },
  "name" : "SampleAccount",
```

```
"phone" : "1234567890",
"website" : "www.salesforce.com",
"NumberOfEmployees" : "100",
"industry" : "Banking",
"Contacts" : {
  "records" : [{
    "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref2"},
    "lastname" : "Smith",
    "title" : "President",
    "email" : "sample@salesforce.com"
  }, {
    "attributes" : {"type" : "Contact", "referenceId" : "ref3"},
    "lastname" : "Evans",
    "title" : "Vice President",
    "email" : "sample@salesforce.com"
  }]
}
```

XML の例

```
<records type="Account" referenceId="ref1">
  <name>SampleAccount</name>
  <phone>1234567890</phone>
  <website>www.salesforce.com</website>
  <numberOfEmployees>100</numberOfEmployees>
  <industry>Banking</industry>
  <Contacts>
    <records type="Contact" referenceId="ref2">
      <lastname>Smith</lastname>
      <title>President</title>
      <email>sample@salesforce.com</email>
    </records>
    <records type="Contact" referenceId="ref3">
      <lastname>Evans</lastname>
      <title>Vice President</title>
      <email>sample@salesforce.com</email>
    </records>
  </Contacts>
</records>
```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

[複数のレコードを作成する](#)

[ネストされたレコードを作成する](#)

SObject Tree レスポンスボディ

SObject Tree [要求の結果を記述します。](#)

プロパティ

名前	型	説明
hasErrors	Boolean	レコード作成時にエラーが発生した場合は <code>true</code> 、それ以外の場合は <code>false</code> 。
results	コレクション	成功した場合は、 <code>results</code> に要求された各レコードの参照 ID とその新しいレコード ID が含まれます。失敗した場合は、エラーが発生したレコードの参照 ID、エラー状況コード、エラーメッセージ、およびエラーに関連する項目のみが含まれます。重複した参照 ID がある場合は、 <code>results</code> に重複した ID のインスタンスごとに 1 つの項目が含まれます。

成功時の JSON の例

```
{
  "hasErrors" : false,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref1",
    "id" : "001D000000K0fXOIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref4",
    "id" : "001D000000K0fXPPIAZ"
  }, {
    "referenceId" : "ref2",
    "id" : "003D000000QV9n2IAD"
  }, {
    "referenceId" : "ref3",
    "id" : "003D000000QV9n3IAD"
  }
]}
```

成功時の XML の例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<SObjectTreeResponse>
  <hasErrors>>false</hasErrors>
  <results>
    <id>001D000000K0fXOIAZ</id>
    <referenceId>ref1</referenceId>
  </results>
  <results>
    <id>001D000000K0fXPPIAZ</id>
    <referenceId>ref4</referenceId>
  </results>
  <results>
    <id>003D000000QV9n2IAD</id>
    <referenceId>ref2</referenceId>
  </results>
</results>
```

```
<id>003D000000QV9n3IAD</id>
<referenceId>ref3</referenceId>
</results>
</SObjectTreeResponse>
```

失敗時の JSON の例

```
{
  "hasErrors" : true,
  "results" : [{
    "referenceId" : "ref2",
    "errors" : [{
      "statusCode" : "INVALID_EMAIL_ADDRESS",
      "message" : "Email: invalid email address: 123",
      "fields" : [ "Email" ]
    }]
  }]
}
```

失敗時の XML の例

```
<SObjectTreeResponse>
  <hasErrors>true</hasErrors>
  <results>
    <errors>
      <fields>Email</fields>
      <message>Email: invalid email address: 123</message>
      <statusCode>INVALID_EMAIL_ADDRESS</statusCode>
    </errors>
    <referenceId>ref2</referenceId>
  </results>
</SObjectTreeResponse>
```

関連トピック:

[SObject Tree](#)

[複数のレコードを作成する](#)

[ネストされたレコードを作成する](#)

ヘッダー

このセクションでは、REST API に使用されるカスタム HTTP の要求ヘッダーと応答ヘッダーを示します。

このセクションの内容:

割り当てルールヘッダー

割り当てルールヘッダーは、ケースまたはリードの作成時または更新時に適用される要求ヘッダーです。有効化されていると、有効な割り当てルールが使用されます。無効化されていると、有効な割り当てルールは適用されません。有効な AssignmentRule ID が指定されていると、AssignmentRule が適用されます。要求にヘッダーが指定されていないと、REST API のデフォルトにより有効な割り当てルールが使用されます。

Call Options ヘッダー

REST API リソースにアクセスするときのクライアント固有のオプションを指定します。たとえば、コールオプションヘッダーでプレフィックスを指定することで名前空間のプレフィックスを無視するクライアントコードを作成できます。

Limit Info ヘッダー

この応答ヘッダーは、REST API への各要求で返されます。この情報を使用して API 制限を監視できます。

Package Version ヘッダー

クライアントによって参照される各パッケージのバージョンを指定します。パッケージバージョンは、パッケージに含まれる一連のコンポーネントと動作を識別する番号です。このヘッダーは、Apex REST Web サービスをコールするときのパッケージバージョンの指定にも使用されます。

Query Options ヘッダー

クエリ結果のバッチサイズなど、クエリで使用するオプションを指定します。この要求ヘッダーは、Query リソースで使用します。

割り当てルールヘッダー

割り当てルールヘッダーは、ケースまたはリードの作成時または更新時に適用される要求ヘッダーです。有効化されていると、有効な割り当てルールが使用されます。無効化されていると、有効な割り当てルールは適用されません。有効な AssignmentRule ID が指定されていると、AssignmentRule が適用されます。要求にヘッダーが指定されていないと、REST API のデフォルトにより有効な割り当てルールが使用されます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Auto-Assign

項目値

- TRUE。作成済みまたは更新済みのケースまたはリードに、有効な割り当てルールが適用されます。
- FALSE。作成済みまたは更新済みのケースまたはリードに、有効な割り当てルールは適用されません。
- 有効な AssignmentRule ID。作成済みのケースまたはリードに、指定の AssignmentRule が適用されます。

TRUE と FALSE では、大文字と小文字は区別されません。

要求にヘッダーが指定されていない場合、デフォルト値は TRUE です。

例

Sforce-Auto-Assign: FALSE

Call Options ヘッダー

REST API リソースにアクセスするときのクライアント固有のオプションを指定します。たとえば、コールオプションヘッダーでプレフィックスを指定することで名前空間のプレフィックスを無視するクライアントコードを作成できます。

Call Options ヘッダーは、SObject Basic Information、SObject Rows、Query、QueryAll、Search、および SObject Rows by External ID で使用できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Call-Options

項目値

- `client` — クライアントを識別する文字列。
- `defaultNamespace` — 開発者の名前空間プレフィックスを識別する文字列。名前空間をすべての場所で指定することなく、管理パッケージの項目名を解決します。

例

開発者名前空間プレフィックスが `battle` で、パッケージに `botId` というカスタム項目がある場合、デフォルトの名前空間に次のコールオプションヘッダーを設定します。

```
Sforce-Call-Options: client=SampleCaseSensitiveToken/100, defaultNamespace=battle
```

その後で次のようなクエリを実行します。

```
/vXX.X/query/?q=SELECT+Id+botID__c+FROM+Account
```

この場合、実際にクエリされる項目は、`battle__botId__c` です。

このヘッダーを使用すると、名前空間プレフィックスを指定せずにクライアントコードを作成することができます。上の例でヘッダーを使用しない場合は、`battle__botId__c` を記述する必要があります。

この項目が設定され、クエリでも名前空間を指定している場合、応答にはプレフィックスは含まれません。たとえば、このヘッダーを `battle` に設定し、`SELECT+Id+battle__botID__c+FROM+Account` のようなクエリを発行すると、応答は `battle__botId__c` 要素ではなく、`botId__c` 要素を使用します。

`describe` 情報を取得するときに `defaultNamespace` 項目は無視されるため、名前空間プレフィックスと、同じ名前のカスタム項目との間で混乱が生じることはありません。

Limit Info ヘッダー

この応答ヘッダーは、REST API への各要求で返されます。この情報を使用して API 制限を監視できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Limit-Info

項目値

- `api-usage` — コールが行われた組織の API 使用状況を `nn/nnnn` 形式で指定します。最初の数値は使用された API コール数で、2 番目の数値は組織の API 制限数です。
- `per-app-api-usage` — 現在接続されているアプリケーションの制限目標情報を指定します。API 制限のアプリケーション目標は現在、パイロットプログラムで利用できます。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。この例には、`sample-connected-app` 接続アプリケーションの制限目標が含まれています。制限目標情報がない場合、この項目は返されません。

```
Sforce-Limit-Info: api-usage=25/5000;  
per-app-api-usage=17/250 (appName=sample-connected-app)
```

例

3行目に制限情報が含まれる、Merchandise レコードの REST 要求に対する応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Mon, 20 May 2013 22:21:46 GMT
Sforce-Limit-Info: api-usage=18/5000
Last-Modified: Mon, 20 May 2013 20:49:32 GMT
Content-Type: application/json;charset=UTF-8
Transfer-Encoding: chunked

{
  "attributes" : {
    "type" : "Merchandise__c",
    "url" : "/services/data/v38.0/subjects/Merchandise__c/a00D0000008pQSNIA2"
  },
  "Id" : "a00D0000008pQSNIA2",
  "OwnerId" : "005D0000001QX8WIAW",
  "IsDeleted" : false,
  "Name" : "Phone Case - iPhone 4/4S",
  "CreatedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "CreatedById" : "005D0000001QX8WIAW",
  "LastModifiedDate" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "LastModifiedById" : "005D0000001QX8WIAW",
  "SystemModstamp" : "2013-05-20T20:49:32.000+0000",
  "LastActivityDate" : null,
  "LastViewedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
  "LastReferencedDate" : "2013-05-20T22:19:56.000+0000",
  "Description__c" : "Phone Case for iPhone 4/4S",
  "Price__c" : 16.99,
  "Stock_Price__c" : 12.99,
  "Total_Inventory__c" : 108.0
}
```

Package Version ヘッダー

クライアントによって参照される各パッケージのバージョンを指定します。パッケージバージョンは、パッケージに含まれる一連のコンポーネントと動作を識別する番号です。このヘッダーは、Apex REST Web サービスをコールするときのパッケージバージョンの指定にも使用されます。

Package Version ヘッダーは、Describe Global、SObject Describe、SObject Basic Information、SObject Rows、Describe Layouts、Query、QueryAll、Search、および SObject Rows by External ID リソースで使用できます。

ヘッダーの項目名と値

項目名と値

x-sfdc-packageversion-[namespace]: xx.x では、[namespace] が管理パッケージの固有の名前空間で、xx.x がパッケージバージョンです。

例

```
x-sfdc-packageversion-clientPackage: 1.0
```

Query Options ヘッダー

クエリ結果のバッチサイズなど、クエリで使用するオプションを指定します。この要求ヘッダーは、Query リソースで使用します。

ヘッダーの項目名と値

項目名

Sforce-Query-Options

項目値

- `batchSize` — クエリ要求に対して返されるレコード数を指定する数値。子オブジェクトは、バッチサイズのレコード数に対してカウントします。たとえば、リレーションクエリの場合、返される親行ごとに複数の子オブジェクトが返されます。

デフォルト値は 2,000、最小値は 200、最大値は 2,000 です。要求されるバッチサイズが、実際のバッチサイズになるとは限りません。必要に応じて、パフォーマンスを最大化するために変更が行われます。

例

Sforce-Query-Options: batchSize=1000

状況コードとエラー応答

エラーが発生した場合、または応答が正常な場合のどちらでも、応答ヘッダーには HTTP コードが含まれ、レスポンスボディには通常、次の情報が含まれます。

- HTTP 応答コード
- HTTP 応答コードに付随するメッセージ
- エラーが発生した項目またはオブジェクト (応答がエラーに関する情報を返す場合)

HTTP 応答コード	説明
200	GET または HEAD 要求の「OK」成功コードです。
201	POST 要求の「Created」成功コードです。
204	DELETE 要求の「No Content」成功コードです。
300	外部 ID が複数のレコードに存在する場合に返される値です。レスポンスボディには、一致するレコードのリストが含まれます。
304	要求のコンテンツが、指定された日時から変更されていません。日時は <code>If-Modified-Since</code> ヘッダーで指定されます。例については、「 オブジェクトのメタデータの変更の取得 」を参照してください。
400	要求が実行されませんでした。通常、JSON または XML のボディに含まれるエラーが原因です。

HTTP 応答コード	説明
401	使用されたセッションIDまたはOAuthトークンが期限切れか無効です。レスポンスボディに <code>message</code> および <code>errorCode</code> が含まれます。
403	要求が却下されました。ログインユーザーに適切な権限があることを確認してください。
404	要求されたリソースが見つかりませんでした。URIにエラーがないか確認し、共有の問題がないことを確認してください。
405	Request-Line に指定されたメソッドは、URI に指定されたリソースには許可されていません。
415	要求内のエンティティは、指定されたメソッドではサポートされていない形式です。
500	Force.com内でエラーが発生したため、要求を完了できませんでした。Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

例: ID が不正

JSON または XML (`request_body.json` または `request_body.xml`) を使用する要求に存在しない ID を使用した場合。

```
{
  "fields" : [ "Id" ],
  "message" : "Account ID: id value of incorrect type: 001900K0001pPuOAAU",
  "errorCode" : "MALFORMED_ID"
}
```

例: リソースが存在しない

存在しないリソースを要求した場合。たとえば、誤ったスペルのオブジェクト名を使用してレコードの作成を試みた場合など。

```
{
  "message" : "The requested resource does not exist",
  "errorCode" : "NOT_FOUND"
}
```